

IAE-0727008

平成19年度 エネルギーに関する公衆の意識調査
報告書

平成20年3月
(財)エネルギー総合工学研究所
The Institute of Applied Energy

まえがき

どのような産業や技術であろうと、社会の構成員である公衆から社会的に認められずに存続し続けられるものはない。エネルギーにおいても例外ではなく、その情報提供等の必要性がますます高まってきており、この問題は今日最も重要なものの一つとなってきている。

そのため、公衆のエネルギーに対する意識がどのようなものであるかを常に把握しておくことは、従来に増して重要になってきている。そのため、国をはじめとして、他の組織においてもアンケート調査などを用いて調査を行っており、その分析結果は、公衆とのエネルギー情報共有のあり方について多くの知見を与え、有効に活用されてきていたと思われる。ただし、その調査の性格上あまり情報は公開されておらず、必要とする分析を行うための調査結果は不十分な状態にある。したがって、当研究所において、独自に定期的にアンケート調査を行い、エネルギーに関する公衆の意識を分析し、社会に広く提供することは有意義なものといえる。そのため、平成15年度よりエネルギーに関するアンケートを実施している。

今年度の調査は、前年度までの調査に継続して用い、経年変化をみるための質問に加え、今年度の夏（7月16日）に発生した新潟県中越沖地震によって震源近くの柏崎刈羽原子力発電所の一部が損傷し、7基の原子炉が全て停止した件に関する公衆の意識も分析した。この調査結果を分析し、社会に広く提供することで、エネルギーに対する公衆の関心向上の一助とし、得られた知見を基に、エネルギー戦略立案の基礎資料としたい。

最後に、本調査をとりまとめるにあたって、調査表の実施・集計を担当された(株)マーケティングセンターの方々、並びにアンケート調査にご協力いただいた方々に対し深く謝意を表します。

(財)エネルギー総合工学研究所

目次

| | |
|--------------------|-----|
| 第1章 研究の概要 | 1 |
| 1.1 研究計画 | 2 |
| 1.2 研究成果の概要 | 3 |
| 第2章 調査概要 | 11 |
| 2.1 調査目的 | 12 |
| 2.2 調査設計 | 12 |
| 2.3 調査内容 | 13 |
| 第3章 調査結果 | 15 |
| 3.1 単純集計結果と時系列分析結果 | 16 |
| 3.2 クロス集計結果 | 65 |
| 3.3 数量化解析結果 | 89 |
| 第4章 おわりに | 96 |
| 付属資料 | 98 |
| アンケート調査表 | 99 |
| 基本集計表 | 115 |

第 1 章 研究の概要

1.1. 研究計画

調査にあたっては、アンケート調査によりエネルギーに関する公衆の意識を分析し、社会に広く提供することで、エネルギーに対する公衆の関心向上の一助とする。また、得られた知見を基に、エネルギー戦略立案の基礎資料とする。

具体的には下記の方法で研究を実施する。

調査手順：

- 1) 調査項目の確定およびアンケート調査書の作成
- 2) アンケート調査書の配布・回収
- 3) アンケートデータの整理・分析および評価

調査項目：

- 1) 公衆の社会や生活に関する意識
- 2) 公衆のエネルギー問題に対する意識
- 3) 公衆の原子力発電に関する意識
- 4) 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する意識

研究期間：平成19年度

研究体制：

- 1) 調査の設計と分析：(財)エネルギー総合工学研究所
- 2) アンケート調査の実施：(株)マーケティングセンター

1.2. 研究成果の概要

アンケート調査により得られた調査結果の分析から下記の知見を得た。ただし、本報に示す調査結果は、あくまでも首都圏内の公衆の意見を調査した結果であり、全国の公衆の意見を表すものではないことに留意する必要がある。

[単純集計結果からの知見]

(1) Q2、Q3：安全と経済的安定を求める気持ち強い

回答者は、今後の日本の社会を考えた場合、国民の生活スタイルは [便利で経済的に豊かな生活] と [不便でも心豊かな生活] では若干前者の方を多く選択している (Q2)。また、目指すべき社会として、民意の反映に加え、安全・安心に関する項目 (事故・雇用・福祉・国防) ややさしさの項目が上位にある (Q3)。

これらの結果をみると、回答者は安全と経済的安定を求める気持ち強いといえる。エネルギー問題を考える際にも、この公衆の心情を常に考慮する必要があるといえる。

(2) Q3：民主主義の意識が上滑りしている

回答者は、目指すべき社会として、自由・平等・知る権利等の民主主義の根幹になる項目が下位にあることから推測すると、回答者は [民主] の意識が上滑りしているのかもしれない。

また、 [人々が心やさしく、人情があつい] の回答割合が上昇傾向にある。

(3) Q4：原子力発電問題に対する関心は他事項に比べて低い

原子力発電問題に対する関心は、他事項に比べて低く (最高は環境問題)、原子力発電問題への関心は他の事項に比べて相対的に低いといえる。

経年変化をみると、環境問題への関心が年々多くなっており、2007年調査では特に、エネルギー問題と原子力発電問題への関心が多くなっている

エネルギー問題や原子力発電に関して公衆に対する活動を行う際には、公衆の [低関心] ということを前提に行う必要があると思われる。

(4) Q6：情報源としてのインターネット

関心のあるニュースや事件などについての主な情報源は、テレビ、新聞の次にインターネットとなっている。

特に、後述に示すが、グループ別にみると、20～30歳代のインターネットは新聞より多く、インターネットを情報源とする割合が高い。

約10年前にはほとんど存在しなかった様なインターネットが、重要な情報源に育っており、インターネットの影響力は今後もさらに大きくなるものと予想される。

(5) Q8、9：NIMBY問題・立地問題について

自分の住まいの近くに作られることを受け入れられない施設として、放射性廃棄物処理処分施設、原子力発電所は産業廃棄物処理施設や化学工場と同程度の高回答率である(Q8)。他と比べて、原子力発電所が特別に強く嫌悪される施設となっているわけではない。

また、この様な嫌悪施設を受け入れる場合に特に強く重視することとして、住民に対する説明や情報、および事故公害問題が最も重視され、逆に首長や議会の受入、金銭関係は下位にある(Q9)。

受け入れてもらうためには、[リスク情報を含めた十分な説明]が必要であるといえる。

(6) Q3、4、7、15、19、21：環境問題に対する関心が高く、覚悟も強くなっている

関心のある問題として、環境問題に関する項目が上位にあり(Q4)、不安に感じるものとして、環境問題に関する項目が上位にある(Q7)。

ただし、目指すべき社会として、[自然や環境をお金より大切]にするという意見は中位である(Q3)。

また、今後の日本で、エネルギーや環境の問題に取り組むために、生活の便利さが制限されてもよい、と答えた人は過半数であり(Q15)、エネルギーや環境の問題に対する効果的な方法として[一人一人の国民が自主的に取り組む]の意見が年々増えている(Q21)。

また、20年後の日本では、熱心に取り組めば、地球温暖化の原因の一つといわれている二酸化炭素の排出量を大幅に下げることができると思う人が大部分であり、楽観的な見通しを持っているが、年々その割合は減少する傾向がみえる(Q19)。

関心が高く、この問題に対する覚悟も強くなっている。

(7) Q12、18：新エネルギーへの期待が大きい

現在の日本では、新エネルギーの利用に熱心に取り組んでいるかどうかについては、意見が分かれているが(Q12)、20年後の日本では、熱心に取り組めば、主要なエネルギー源にすることが可能だと思える人が大部分であり、楽観的な見通しを行っている(Q18)。

(8) Q13、14、16、17：エネルギー供給問題への不安や懸念が高まっている

今後の国全体のエネルギー使用量は大部分の人が多くなると回答している(Q13)。そして、今後、日本のエネルギー供給の問題について、大部分の人が不安を感じており(Q14)、20年後の石油供給の問題について、石油の値段は殆どの

人が今より高くなっていると回答しており（Q16）、日本で必要な石油を十分に確保できるかどうかという石油供給の問題について、約4割の人が「確保できない」との危機感を持っている（Q17）。

特に、2007年調査では、エネルギー供給問題への不安や懸念が高まっているようである。

（9）Q22～35：原子力発電に関する意識

Q22：関心度

関心があると答えた人と関心がないと答えた人の割合はほぼ同数であったが、2007年調査では関心があると答えた人の割合は6割程度に増えた。

ただし、エネルギー問題について関心がある人の割合が約8割であることや（図3.1.10）、特に関心のある問題や事柄で原子力発電問題が下位にあること（図3.1.4）などの結果をみると、原子力発電についての関心は相対的に小さいといえる。

Q23～26：基本意識

原子力発電の利用・廃止の意見は、「新設や増設をしながら続ける、現状程度そのまま続ける」と回答する利用派と、「どちらともいえない」と回答（無回答を含む）する中間派と、「すぐにやめる、徐々にやめていく」と回答する廃止派の数が2003年度の調査では、ほぼ1/3程度となっていた。

近年の原子力発電の利用・廃止意見は、廃止意見の減少など、好意的方向に変化する傾向がみられており、2007年の調査結果をみても、この傾向に大きな変化はなく、2007年の原子力発電関連事件・事象による大きな影響はみられない（Q23）。

原子力発電の有用感、過半数の人が有用と回答しており、無用との意見は非常に少ない（Q24）。

原子力発電の安心感、過半数の人が不安と回答しており、安心との回答は非常に少ない。2007年は不安意見に若干の増加がみられるものの誤差範囲内であり、大きな影響はみられない（Q25）。

原子力発電の制御可能感、可能、不可能、どちらともいえないとの回答が同程度であるが、不可能意見に比べ可能意見の方が若干多い（Q26）。

原子力発電の有用感・安心感に大きな変化がないのに、廃止派が減少する傾向がみられる理由

「不安」と思っているグループの中の廃止意見が減少している。つまり、「不安」と思う気持ちに変化はないが、だからといって「廃止」と言う人は減少しているといえる。

Q 27、28、33：原子力発電の信頼感に関する意見

原子力発電の運営に関する信頼感は、年と共に大きく改善されてきていたが、2007年は反転の傾向がみえる（Q27）。また、情報公開に関しても〔非公開〕との意見が減少していたが、これも2007年は反転の傾向がみえる（Q28）。

原子力発電の運営や情報公開の評価に関する信頼感に、2007年において反転の傾向がみえるのは、2007年に起きた原子力関係事件の影響と思われる。

ただし、総合的にみた日本の原子力発電関係の技術水準の評価（研究、設計、製造、運転、保守など）は、世界の中で平均レベルかそれ以上と答える人がほとんどであり、大きな変化はみられない（Q33）。

Q 30～32：原子力発電の有用感に関する意見

日本の原子力発電は発電コストの安定化や低価格化に貢献しているとの回答や、エネルギーの安定供給や、温室効果ガスである二酸化炭素の排出削減などの環境問題の解決に貢献しているとの回答の方が、貢献していないとの回答に比べ多い。

ただし、環境問題の解決に貢献しているかどうかに対しては、〔どちらともいえない〕との回答が半数以上もあるなど中間回答が多く、貢献を認める度合いは〔エネルギーの安定供給＞発電コストの安定化や低価格化＞環境問題の解決〕の順になっている。

Q 34：日本の原子力発電施設の事故イメージは確定していない

日本の原子力発電施設の今後100年以内に起こりうる事故イメージを聞くと、〔志望事故は起こりえない〕から〔死亡者数万人以上〕まで回答が分散している。

〔わからない〕が約3割であることも併せて考えると、回答者の事故イメージはさまざまであり、確定していないといえる。

（10）Q 38：新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する印象や考え

この件に関する印象や考えを聞いたところ、多くの意見はほぼ5割以下の回答割合となっており、2004年夏の関西電力美浜原子力発電所の配管破裂事故に対する同様な調査では6割～8割の回答割合の意見もあったことと比べても、特に強く特徴的な意見はないといえる。比較的冷静な対応であったと思われる。

[クロス集計結果からの知見]

(1) Q 6 : 20代～30代、男性はインターネットを情報源にする割合が強い

男性、20代～30代はインターネットを情報源とする割合が高い。特に、20代～30代のインターネットの割合は新聞より多い。

男性、20代～30代の人々にとってインターネットの影響力は大きいものと思われる。

女性は家族、知人からの情報が男性に比べ多い。

(2) 女性の原子力発電に対する意識に肯定的変化がみられ、男女差は縮小の傾向がみられる

Q 7 : 前年までの調査では、女性は男性に比べ、全般的にみて不安感が強く、[原子力発電の事故] もそうであったが、今年は [原子力発電の事故] の回答率が男性とほぼ同じになっている。

Q 2 2 : 女性は原子力発電に関心が低いが、2007年の調査では、男女共に原子力発電についての関心が高くなっている。

Q 2 3 : 原子力発電の利用 - 廃止の意見について、女性は男性に比べ若干否定的であり、[どちらともいえない] との中間意見が多い。

[廃止] 意見は、男女共に減少傾向がみられ、[利用] 意見は、女性は若干増加傾向がみられる。

Q 2 4 : 原子力発電の有用感に関する意見では、女性の方が男性に比べ(どちらともいえない、無回答)との中間意見が多く、その分、肯定的意見(有用)が少ない。

[有用] 意見は、男性はあまり変化がないが、女性は増加傾向がみられる。

Q 2 5 : 原子力発電の安心感に関しては、従来、大きな変化はみられず、女性の方が男性に比べ安心感が少なく、不安感が多いという結果を示していた。

しかし、2007年では、男性に不安意見の増加がみられる。

おそらくは、2007年に発生した過去情報隠蔽の問題や新潟県中越沖地震の影響と思われる。

男性のみ不安意見の増加がみられた理由は不明である。

Q 2 6 : 原子力発電の制御可能感は、男女共に大きな変化はみられないが、若干、男性は否定的方向に、女性は肯定的方向に変化する傾向がみられる。そのため、2007年の調査では男女差はあまりみられない。

まだ、明確に断言できないが、女性は原子力発電に肯定的になりつつあるようであり、男女差は縮小の傾向がみられる。

(3) 原子力発電の利用・廃止の態度決定要因

Q 2 2 ~ 3 2 : 半数以上の人々は原子力発電に有用感または不安感を持つ。

[利用派] になるには有用感を持つことがほぼ必要条件であり、安心感の有無はあまり関係ない。

無用感を持つことは原子力発電の [廃止派] となることとほぼ同義であるが、不安感を持つことがただちに原子力発電の [廃止派] となるわけではない。

原子力発電に [関心がある] と答える人は [関心がない] と答える人に比べ、原子力発電を [利用] と答える割合も [廃止] と答える割合も多くなるが、 [利用] と答える割合の方がより多くなる。関心を持てば、より多くの人々が原子力発電の [利用派] になるものと思われる。

また、原子力発電に [関心がある] と答える人は [関心がない] と答える人に比べ、原子力発電を [安心、制御可能] と答える割合も [不安、制御不能] と答える割合も多くなるが、有用感に関しては [有用] と答える割合が特に多くなる。原子力発電への関心 有用 利用 (関心度 UP が有用感 UP に繋がり、それが利用意見に繋がる)、となるものと思われる。

2 0 0 7 年は原子力発電への関心が高まっており (図 3 . 1 . 2 2)、それが原子力発電に対する好意的方向への変化に影響を与えたと思われる。

相関関係

- 1) [原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q 2 3)] には [有用感 (Q 2 4)] と [安心感 (Q 2 5)] [制御可能感 (Q 2 6)] などが関係する。この中には [有用感 (Q 2 4)] との関係が一番強い。
- 2) [原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q 2 3)] には [有用感 (Q 2 4)] と強い関係があるが、具体的な有用感の有無である [供給安定への貢献感] [コスト安定への貢献感] [環境問題への貢献感] との関係はそれほど大きくない。
- 3) [安心感 (Q 2 5)] には [制御可能感 (Q 2 6)] と [運営の適切感 (Q 2 7)] [情報公開感 (Q 2 8)] [廃棄物処理可能感 (Q 2 9)] が関係する。原子力発電は適切に運営されれば基本的に安全なものであるという認識と、実際に適切に運営されているとの信頼感、さらには日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識、情報が公開されているという認識が安心感を生み出す大きな要因となっている。

- 4) [運営の適切感 (Q 2 7)] には [情報公開感 (Q 2 8)] [廃棄物処理可能感 (Q 2 9)] と関係がある。情報公開されているとの認識と、日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識が、運営への信頼感に繋がり、さらにそれが原子力発電への安心感に繋がる、といえる。
- 5) [制御可能感 (Q 2 8)] には [運営の適切感 (Q 2 7)] [廃棄物処理可能感 (Q 2 9)] と関係がある。日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識が、運営への信頼感、原子力発電への制御可能感 (つまり安全感) に繋がる、といえる。

[数量化解析結果からの知見]

(1) 原子力発電に対する評価の回答傾向

原子力発電に否定的な回答者はどの項目に対しても否定的である傾向が強いが、原子力発電に肯定的な回答者はどの項目に対しても肯定的であるとは限らない。

[安心] との回答者は原子力発電に対して非常に強い肯定意見を持っている回答者である傾向がある。原子力広報で目的の一つとして挙げられている [安心感] を持ってもらうという目的はとても困難である。

逆に、[不安] との回答者は他の質問に否定的回答をする傾向が弱い。つまり、[不安] との回答者であるからといって、他の原子力発電に対する意見が否定意見を持っているとは限らない。

[有用] との回答は肯定的回答中では肯定的評価の小さい位置にある。[有用] との回答者であるからといって、他の原子力発電に対する意見が肯定意見を持っているとは限らない。原子力広報で目的の一つとして [有用感] を持ってもらうという目的は比較的容易である。

逆に、[無用] との回答者は他の質問にも否定的回答をする傾向が強い。つまり、[無用] との回答者は原子力発電に対して非常に強い否定意見を持つ回答者である。

女性は男性に比べ、否定的評価を行う傾向が強い。相対的に、原子力発電に肯定的意見を持つ傾向の強いグループは男性、高年代 (60 才以上) である。

(2) 特に関心のある問題や事柄の回答傾向

[原子力問題] への関心を示す人は [エネルギー問題、政治] へも関心を示す傾向があり、[科学技術] への関心とはそれほどでもない。

女性や原子力発電に中間意見の人々は相対的に [柔らかい話題] [身近な話題] への関心が高い。

第 2 章 調査概要

2.1. 調査目的

[エネルギーに関するアンケート] を実施し、エネルギーに関する公衆の意識を分析し、社会に広く提供することで、エネルギーに対する公衆の関心向上の一助とする。また、得られた知見を基に、エネルギー戦略立案の基礎資料とする。

2.2. 調査設計

(1) 調査対象：首都圏（東京駅から 30 km 圏内）の満 20 歳以上の男女

(2) 調査数：500 人

(3) 抽出法：割当法（首都圏における性別・年代別人口構成に合わせ、あらかじめ割り当てた目標数に達するまで回答者を選んで調査をする）

割当法の実施方法

- 1) 首都圏（東京駅から 30 km 圏内）の地域内の [丁目の範囲の場所] を 50 カ所ランダムサンプリングする。
- 2) 抽出された地点（ 丁目）の中心世帯から、らせん状に 3 軒おきに訪問する。
- 3) 訪問した世帯で、対象となる人を選ぶ。（性・年代該当者）
- 4) 対象となる人が複数名いる場合は、誕生日が訪問日に一番近い人に協力依頼をする。
- 5) 協力が得られない場合は、次の人（同一世帯の別候補、いなければ別世帯を訪問）に協力依頼をする。
- 6) 決められた性・年代の割付が満たされるまで、調査を繰り返す。

(4) 調査方法：訪問留置法（調査員が対象者宅を訪ね、調査票を渡し、後日、記入された調査票を訪問回収する）

(5) 調査期間：平成 19 年 10 月 26 日～11 月 26 日
第 4 年度調査（平成 18 年 10 月 27 日～11 月 24 日）
第 3 年度調査（平成 17 年 10 月 28 日～11 月 25 日）
第 2 年度調査（平成 16 年 10 月 29 日～11 月 29 日）
第 1 年度調査（平成 15 年 10 月 20 日～11 月 17 日）

(6) 実施機関：（財）エネルギー総合工学研究所

2.3. 調査内容

(1) 調査項目

調査目的を達成するために、下記の項目を調査することが最も重要であると判断し、それらの項目を調査した。

1) 公衆の社会や生活に関する意識

一般的な社会や生活に関する意識による公衆の分類を行い、そのグループ別に、エネルギーに対するの評価・態度がどの様に異なるのかを分析する。

2) 公衆のエネルギー問題に対する意識

エネルギー問題に対する意識を把握・分析する。公衆の意識構造の変化を把握するために、次回の調査でも今回と原則的に同じ質問を用い、意識の[変化]という観点で分析する予定である。

3) 公衆の原子力発電に関する意識

原子力発電に関する調査項目を設け、それらに対する公衆の意識を分析する。

4) 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する意識

標記の件に対する公衆の意識を分析する。

(2) 調査質問群

上記の調査項目の考え方に従い、アンケート調査に用いる質問を下記の様に作成し、調査に用いた。

1) 公衆の一般的な社会や生活に関する意識

- Q 1. 今の日本の社会への満足度(継続)
- Q 2. 国民の生活スタイルに対する評価(継続)
- Q 3. 日本が目指すべき社会(継続)
- Q 4. 特に関心のある問題や事柄(継続)
- Q 5. ニュースや報道を見る頻度(継続)
- Q 6. ニュースや事件などの情報源と信用度(継続と追加)
- Q 7. ふだんの日常生活の中で感じる不安(継続)
- Q 8. 自分の住まいの近くに作られることを受け入れられない施設(継続)
- Q 9. 上記施設の受け入れ判断をする際の判断要因(継続)

2) 公衆のエネルギー問題に対する意識

- Q 1 0 . エネルギー問題についての関心度 (継続)
- Q 1 1 . 日本の環境問題に対する努力への評価 (継続)
- Q 1 2 . 日本の新エネルギー利用に対する努力への評価 (継続)
- Q 1 3 . 今後の日本のエネルギー使用量についての予測 (継続)
- Q 1 4 . 今後の日本のエネルギー供給問題についての不安感 (継続)
- Q 1 5 . エネルギー・環境問題のための我慢の覚悟 (継続)
- Q 1 6 . 20年後の石油の値段の予測 (継続)
- Q 1 7 . 20年後の日本の石油供給問題についての予測 (継続)
- Q 1 8 . 20年後の日本の新エネルギー利用の可能性についての評価 (継続)
- Q 1 9 . 20年後の日本の二酸化炭素削減の可能性についての評価 (継続)
- Q 2 0 . エネルギー・環境問題のための対策の評価 (継続)
- Q 2 1 . エネルギー・環境問題のための個人的取り組みの有無

3) 公衆の原子力発電に関する意識

- Q 2 2 . 原子力発電の関心度 (継続)
- Q 2 3 . 原子力発電の利用 - 廃止の意見 (継続)
- Q 2 4 . 原子力発電の有用感 (継続)
- Q 2 5 . 原子力発電の安心感 (継続)
- Q 2 6 . 原子力発電の制御可能感 (継続)
- Q 2 7 . 日本の原子力発電所の運営に対する評価 (継続)
- Q 2 8 . 日本の原子力発電に関する情報公開に対する評価 (継続)
- Q 2 9 . 日本の放射性廃棄物の処理・処分に対する評価 (継続)
- Q 3 0 . 日本の原子力発電の発電コストへの貢献に対する評価 (継続)
- Q 3 1 . 日本の原子力発電のエネルギー安定供給への貢献に対する評価 (継続)
- Q 3 2 . 日本の原子力発電の環境問題解決への貢献に対する評価 (継続)
- Q 3 3 . 日本の原子力発電関係の技術水準の評価 (継続)
- Q 3 4 . 日本の原子力発電施設の事故イメージ
- Q 3 5 . 原子力発電関係情報の情報源と信用度

4) 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する意識

- Q 3 6 . この件に関する知識度
- Q 3 7 . この件に関する関心度
- Q 3 8 . この件に関する印象や考え
- Q 3 9 . この件に関する情報源
- Q 4 0 - 1 . この件に関するインターネットでの情報入手達成度
- Q 4 0 - 2 . この件に関してアクセスしたウェブサイト

第 3 章 調査結果

3.1. 単純集計結果

[この節の目的]

前章において決定した調査項目別に調査結果の分析を行い、分析結果を示す。

尚、本報告書では、基本的に調査結果を図表で示し、その図表についての説明を行う。

注) 本報告書では、原子力発電に関する基本的評価を問う問23～25の質問の回答から得られる結果を下記の様に呼ぶ。

利用度：アンケートの[Q23 . あなたは、日本は今後も原子力発電の利用を続けるべきだと思いますか、やめるべきだと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。]の回答として求める。

[新設や増設をしながら続けるべき] [現状程度のまま続けるべき] と答えた回答者を [利用派]、 [徐々にやめていくべきである] [すぐにやめるべきである] と答えた回答者を [廃止派]、それ以外を [中間派] と3分類し、これを利用度と呼ぶ。

有用感：アンケートの[Q24 . あなたは、原子力発電は、今日の社会や人々の生活にとって有用だと思いますか、無用だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。]の回答として求める。

安心感：アンケートの[Q25 . あなたは、原子力発電の安全性については、安心していただけますか、不安ですか。次の中から1つだけ選んでください。]の回答として求める。

(1) Q2、Q3：安全と経済的安定を求める気持ち強い

回答者は、今後の日本の社会を考えた場合、国民の生活スタイルは[便利で経済的に豊かな生活]と[不便でも心豊かな生活]では若干前者の方を多く選択している(Q2)。また、目指すべき社会として、民意の反映に加え、安全・安心に関する項目(事故・雇用・福祉・国防)ややさしさの項目が上位にある(Q3)。

これらの結果をみると、回答者は安全と経済的安定を求める気持ち強いといえる。エネルギー問題を考える際にも、この公衆の心情を常に考慮する必要があるといえる。

(2) Q3：民主主義の意識が上滑りしている

回答者は、目指すべき社会として、自由・平等・知る権利等の民主主義の根幹になる項目が下位にあることから推測すると、回答者は[民主]の意識が上滑りしているのかもしれない。

また、[人々が心やさしく、人情があつい]の回答割合が上昇傾向にある。

(3) Q4 : 原子力発電問題に対する関心は他事項に比べて低い

原子力発電問題に対する関心は、他事項に比べて低く（最高は環境問題）、原子力発電問題への関心は他の事項に比べて相対的に低いといえる。

経年変化をみると、環境問題への関心が年々多くなっており、2007年調査では特に、エネルギー問題と原子力発電問題への関心が多くなっている

エネルギー問題や原子力発電に関して公衆に対する活動を行う際には、公衆の[低関心]ということを経験している必要があると思われる。

(4) Q6 : 情報源としてのインターネット

関心のあるニュースや事件などについての主な情報源は、テレビ、新聞の次にインターネットとなっている。

特に、後述に示すが、グループ別にみると、20～30歳代のインターネットは新聞より多く、インターネットを情報源とする割合が高い。

約10年前にはほとんど存在しなかった様なインターネットが、重要な情報源に育っており、インターネットの影響力は今後もさらに大きくなるものと予想される。

(5) Q8、9 : NIMBY問題・立地問題について

自分の住まいの近くに作られることを受け入れられない施設として、放射性廃棄物処理処分施設、原子力発電所は産業廃棄物処理施設や化学工場と同程度の高回答率である(Q8)。他と比べて、原子力発電所が特別に強く嫌悪される施設となっているわけではない。

また、このような嫌悪施設を受け入れる場合に特に強く重視することとして、住民に対する説明や情報、および事故公害問題が最も重視され、逆に首長や議会の受入、金銭関係は下位にある(Q9)。

受け入れてもらうためには、[リスク情報を含めた十分な説明]が必要であるといえる。

(6) Q3、4、7、15、19、21 : 環境問題に対する関心が高く、覚悟も強くなっている

関心のある問題として、環境問題に関する項目が上位にあり(Q4)、不安に感じるものとして、環境問題に関する項目が上位にある(Q7)。

ただし、目指すべき社会として、[自然や環境をお金より大切]にするという意見は中位である(Q3)。

また、今後の日本で、エネルギーや環境の問題に取り組むために、生活の便利さが制限されてもよい、と答えた人は過半数であり(Q15)、エネルギーや環境の問題に対する効果的な方法として[一人一人の国民が自主的に取り組む]の意見が年々増えている(Q21)。

また、20年後の日本では、熱心に取り組めば、地球温暖化の原因の一つといわれている二酸化炭素の排出量を大幅に下げることができると思う人が大部分であり、楽観的な見通しを持っているが、年々その割合は減少する傾向が見える（Q19）。
関心が高く、この問題に対する覚悟も強くなっている。

（7）Q12、18：新エネルギーへの期待が大きい

現在の日本では、新エネルギーの利用に熱心に取り組んでいるかどうかについては、意見が分かれているが（Q12）、20年後の日本では、熱心に取り組めば、主要なエネルギー源にすることが可能だと思える人が大部分であり、楽観的な見通しを行っている（Q18）。

（8）Q13、14、16、17：エネルギー供給問題への不安や懸念が高まっている

今後の国全体のエネルギー使用量は大部分の人が多くなると回答している（Q13）。そして、今後、日本のエネルギー供給の問題について、大部分の人が不安を感じており（Q14）、20年後の石油供給の問題について、石油の値段は殆どの方が今より高くなっていると回答しており（Q16）、日本で必要な石油を十分に確保できるかどうかという石油供給の問題について、約4割の人が「確保できない」との危機感を持っている（Q17）。

特に、2007年調査では、エネルギー供給問題への不安や懸念が高まっているようである。

（9）Q22～35：原子力発電に関する意識

Q22：関心度

関心があると答えた人と関心がないと答えた人の割合はほぼ同数であったが、2007年調査では関心があると答えた人の割合は6割程度に増えた。

ただし、エネルギー問題について関心がある人の割合が約8割であることや（図3.1.10）、特に関心のある問題や事柄で原子力発電問題が下位にあること（図3.1.4）などの結果をみると、原子力発電についての関心は相対的に小さいといえる。

Q23～26：基本意識

原子力発電の利用 - 廃止の意見は、「新設や増設をしながら続ける、現状程度そのまま続ける」と回答する利用派と、「どちらともいえない」と回答（無回答を含む）する中間派と、「すぐにやめる、徐々にやめていく」と回答する廃止派の数が2003年度の調査では、ほぼ1/3程度となっていた。

近年の原子力発電の利用 - 廃止意見は、廃止意見の減少など、好意的方向に変化

する傾向がみられており、2007年の調査結果をみても、この傾向に大きな変化はなく、2007年の原子力発電関連事件・事象による大きな影響はみられない(Q23)。

原子力発電の有用感は、過半数の人が有用と回答しており、無用との意見は非常に少ない(Q24)。

原子力発電の安心感は、過半数の人が不安と回答しており、安心との回答は非常に少ない。2007年は不安意見に若干の増加がみられるものの誤差範囲内であり、大きな影響はみられない(Q25)。

原子力発電の制御可能感は、可能、不可能、どちらともいえないとの回答が同程度であるが、不可能意見に比べ可能意見の方が若干多い(Q26)。

原子力発電の有用感・安心感に大きな変化がないのに、廃止派が減少する傾向がみられる理由

[不安]と思っているグループの中の廃止意見が減少している。つまり、[不安]と思う気持ちに変化はないが、だからといって[廃止]と言う人は減少しているといえる。

Q27、28、33：原子力発電の信頼感に関する意見

原子力発電の運営に関する信頼感は、年と共に大きく改善されてきていたが、2007年は反転の傾向がみえる(Q27)。また、情報公開に関しても[非公開]との意見が減少していたが、これも2007年は反転の傾向がみえる(Q28)。

原子力発電の運営や情報公開の評価に関する信頼感に、2007年において反転の傾向がみえるのは、2007年に起きた原子力関係事件の影響と思われる。

ただし、総合的にみた日本の原子力発電関係の技術水準の評価(研究、設計、製造、運転、保守など)は、世界の中で平均レベルかそれ以上と答える人がほとんどであり、大きな変化はみられない(Q33)。

Q30～32：原子力発電の有用感に関する意見

日本の原子力発電は発電コストの安定化や低価格化に貢献しているとの回答や、エネルギーの安定供給や、温室効果ガスである二酸化炭素の排出削減などの環境問題の解決に貢献しているとの回答の方が、貢献していないとの回答に比べ多い。

ただし、環境問題の解決に貢献しているかどうかに対しては、[どちらともいえない]との回答が半数以上もあるなど中間回答が多く、貢献を認める度合いは[エネルギーの安定供給>発電コストの安定化や低価格化>環境問題の解決]の順になっている。

Q 3 4 : 日本の原子力発電施設の事故イメージは確定していない

日本の原子力発電施設の今後 1 0 0 年以内に起こりうる事故イメージを聞くと、
[志望事故は起こりえない] から [死亡者数万人以上] まで回答が分散している。

[わからない] が約 3 割であることも併せて考えると、回答者の事故イメージは
さまざまであり、確定していないといえる。

**(1 0) Q 3 8 : 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する印象
や考え**

この件に関する印象や考えを聞いたところ、多くの意見はほぼ 5 割以下の回答割
合となっており、2 0 0 4 年夏の関西電力美浜原子力発電所の配管破裂事故に対す
る同様な調査では 6 割 ~ 8 割の回答割合の意見もあったことと比べても、特に強く
特徴的な意見はないといえる。比較的冷静な対応であったと思われる。

[質問別の結果]

(0) 回答者の分類

1) 図 3 . 0 . 1 . 回答者の性別と年齢層と職業 (F 1 ~ 3)

回答者の性別と年齢層は実際の母集団の比率に合わせてある。

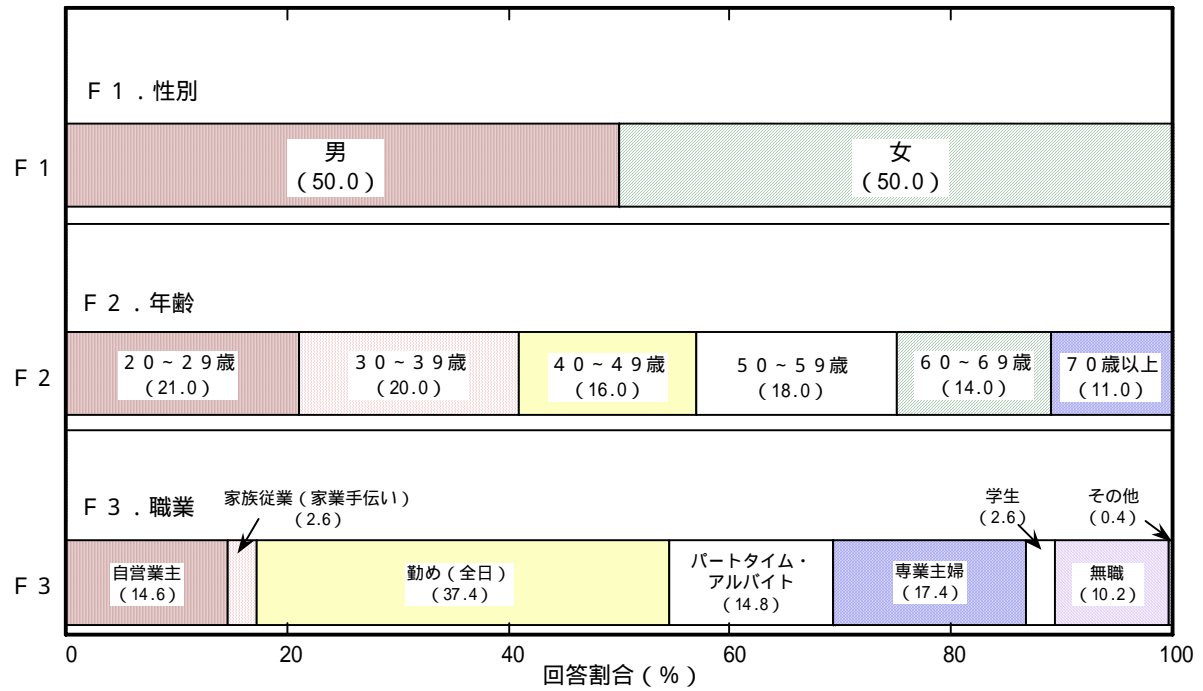


図 3 . 0 . 1 . 回答者の性別と年齢層と職業 (F 1 ~ 3)
 (2 0 0 7 年 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

(1) 公衆の一般的な社会や生活に関する意識

1) 図 3 . 1 . 1 . 今の日本の社会への満足度 (Q 1)

不満の方が満足に比べて若干多く、経年変化はあまりない。

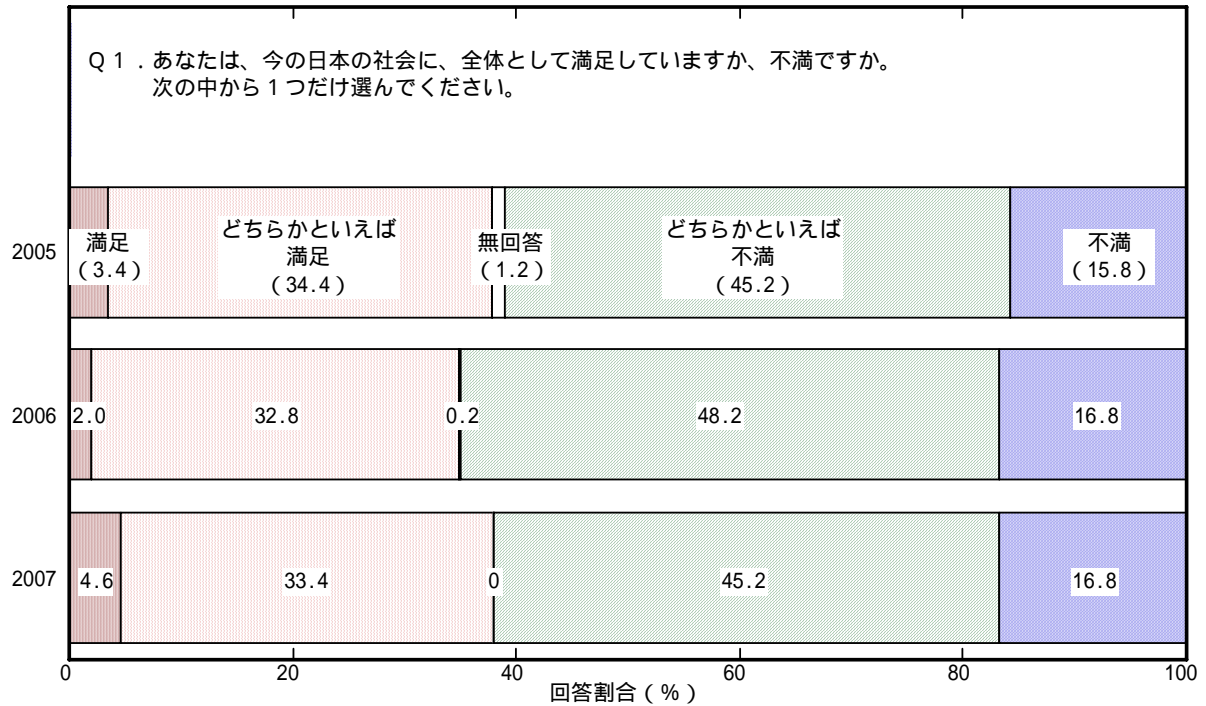


図 3 . 1 . 1 . 今の日本の社会への満足度 (Q 1)
(2 0 0 5 ~ 2 0 0 7 年 / 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

2) 図3.1.2. 国民の生活スタイルに対する評価 (Q2)

[便利で経済的に豊かな生活]の方が [不便でも心豊かな生活]よりも若干多い。

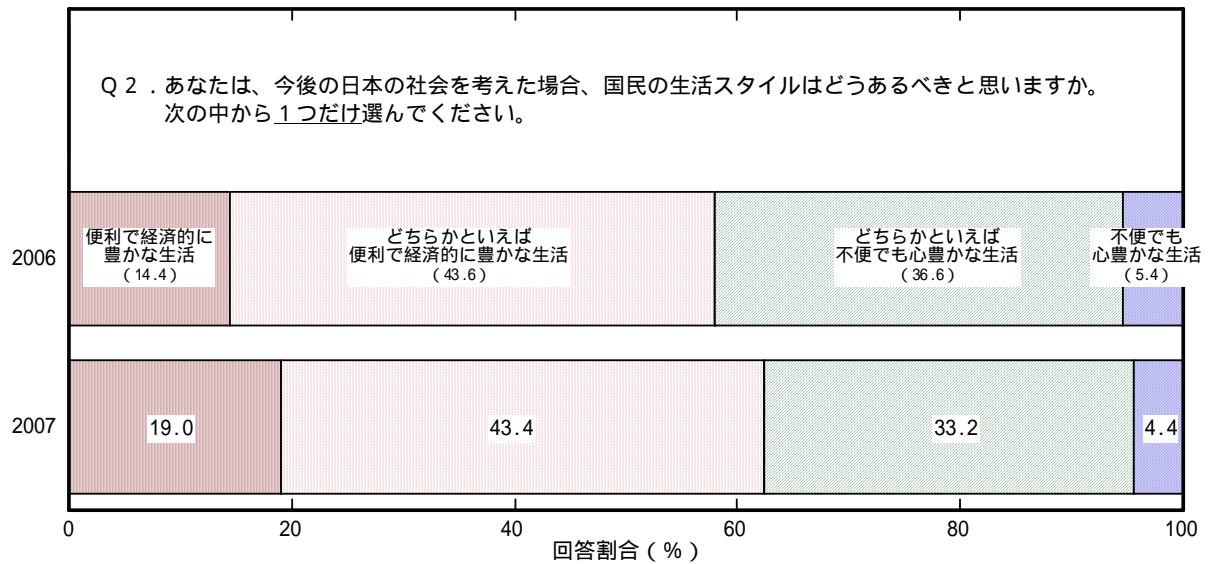


図3.1.2. 国民の生活スタイルに対する評価 (Q2)
(2006~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km圏内)

3) 図3.1.3. 日本が目指すべき社会 (Q3 / 複数回答)

目指すべき社会として、民意の反映 (政府・自治体の政策決定に国民の声が十分取り入れられる) に加え、安全・安心に関する項目 (事故・雇用・福祉・国防) ややさしさの項目が上位にある。

逆に、自由・平等・知る権利等の民主主義の根幹になる項目が下位にある。

過去の結果と比べると、[人々がやさしく、人情があつい] の回答率が大きくなっている。

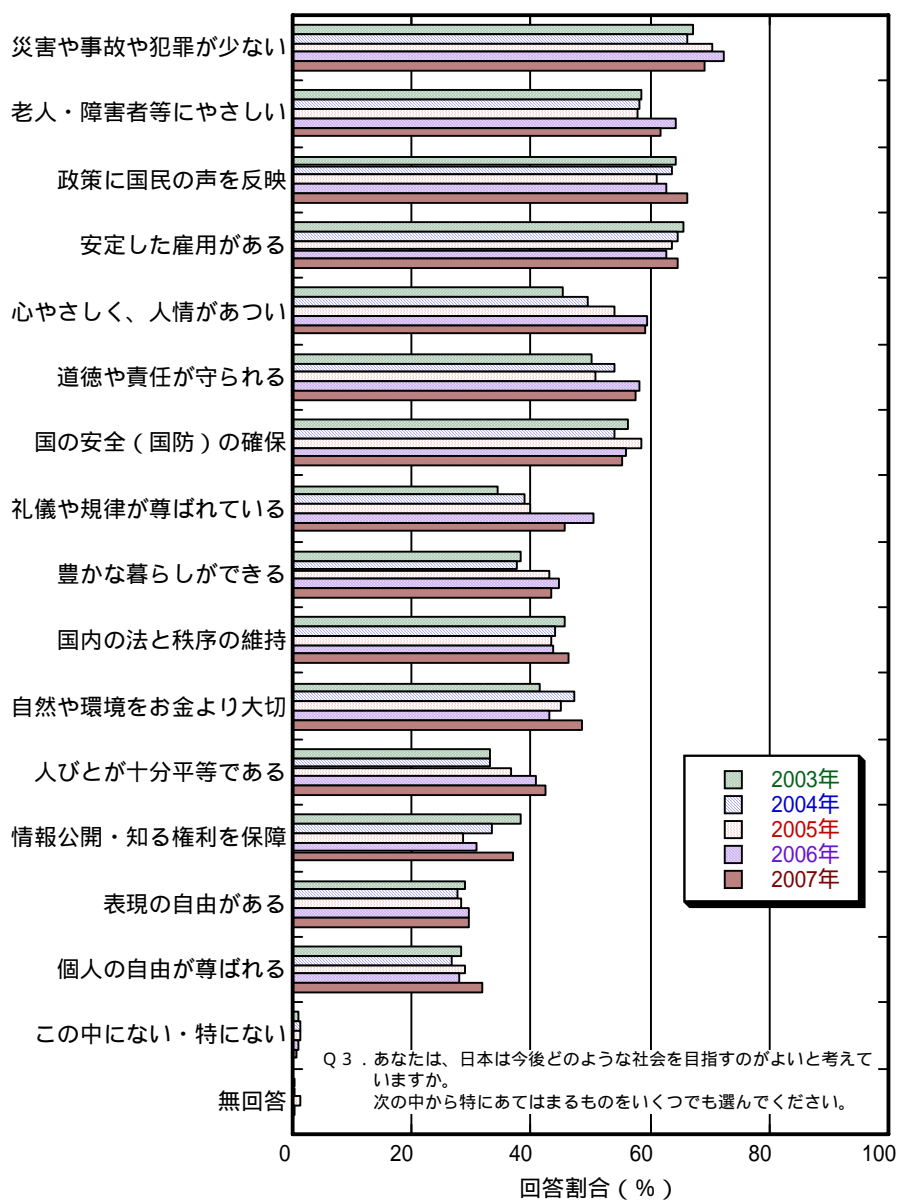


図3.1.3. 日本が目指すべき社会 (Q3 / 複数回答)
(2003~2007年 / 10月~11月 / 首都圏 30km 圏内)

4) 図3.1.4. 特に関心のある問題や事柄 (Q4 / 複数回答)

特に関心のある問題として、安全と収入に係る項目が上位にある。これはQ3 (日本が目指すべき社会) の結果とほぼ同傾向の結果である。

環境問題への関心が年々多くなっており、今年は特に、エネルギー問題と原子力発電問題への関心が多くなっている (選択肢 [原子力発電問題] は2006年調査から採用)。

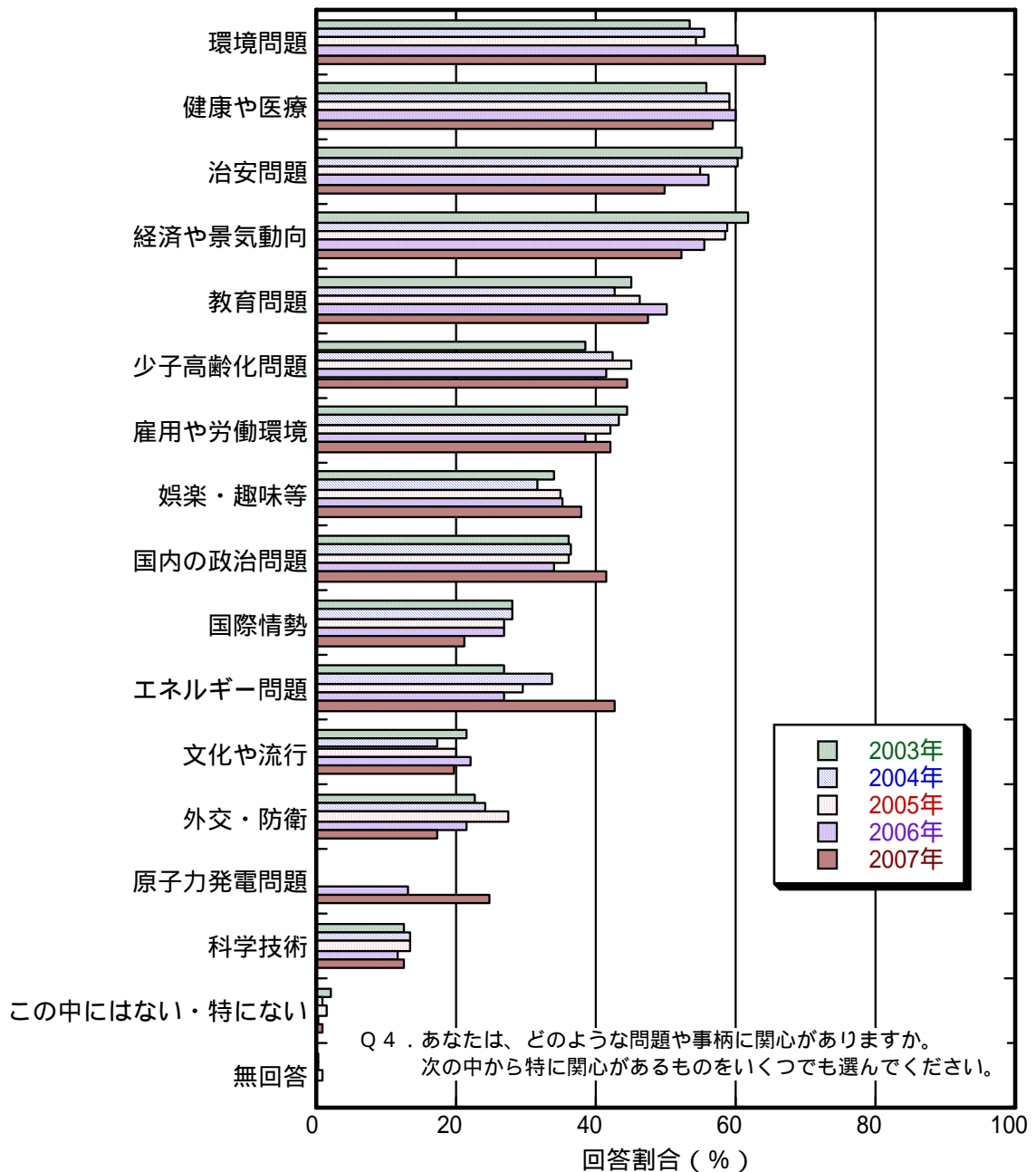


図3.1.4. 特に関心のある問題や事柄 (Q4 / 複数回答)
(2003~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km圏内)

5) 図3.1.5. ニュースや報道を見る頻度 (Q5)

ほとんどの人が「よく見る」「どちらかといえば見る」と回答している。

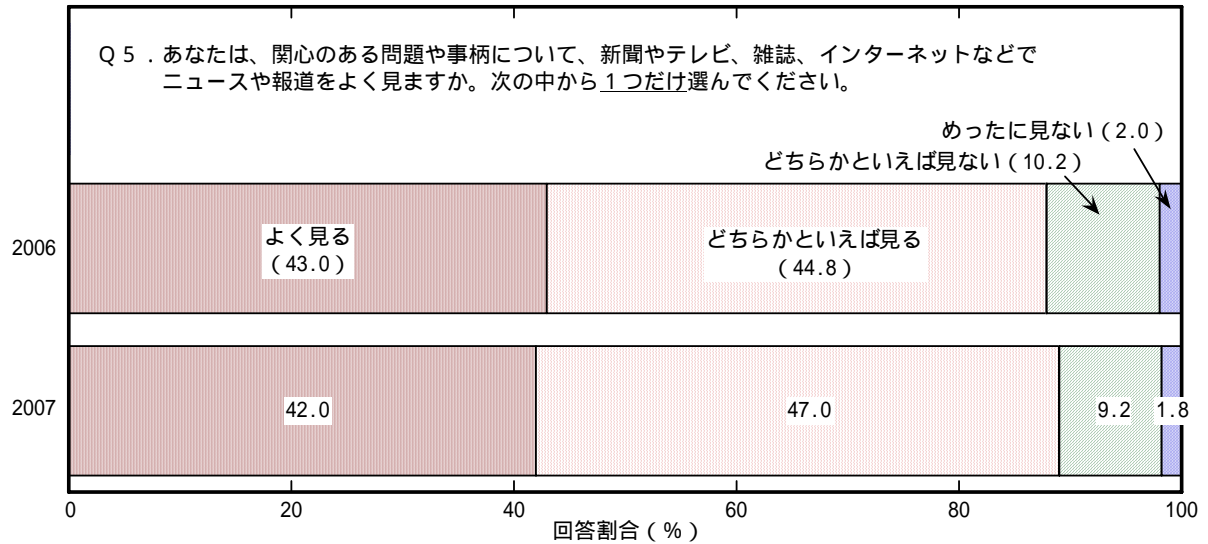


図3.1.5. ニュースや報道を見る頻度 (Q5)
(2006~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

6) 図3.1.6.1. ニュースや事件などの情報源と信用している情報源
(Q6 / 複数回答)

図3.1.6.2. ニュースや事件などの情報源の推移 (Q6 / 複数回答)

回答者の関心のあるニュースや事件などについての主な情報源は、[テレビ、新聞]の次に、[インターネット]となっている。新聞を信用する割合は高い。

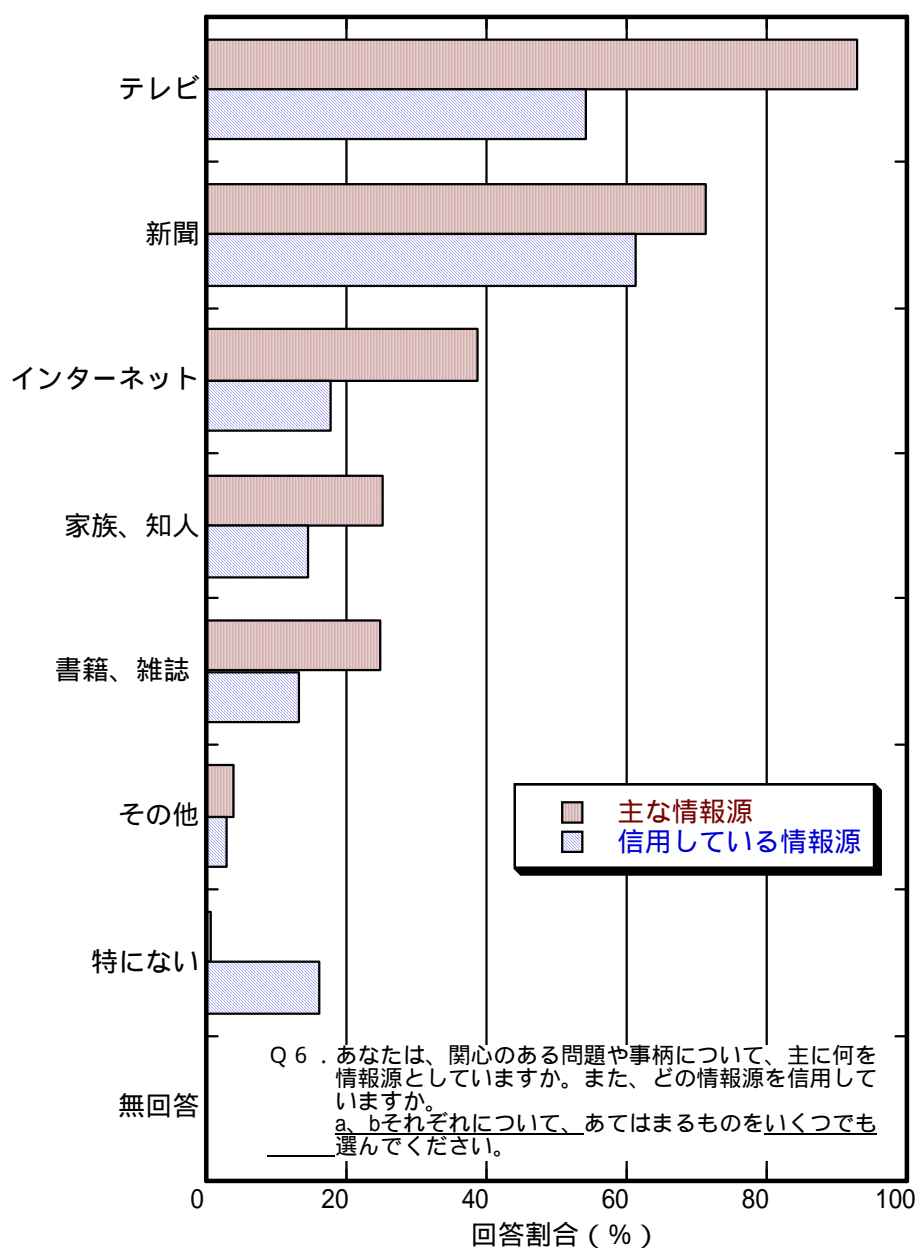


図3.1.6.1. ニュースや事件などの情報源と信用している情報源 (Q6 / 複数回答)
(2006~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km圏内)

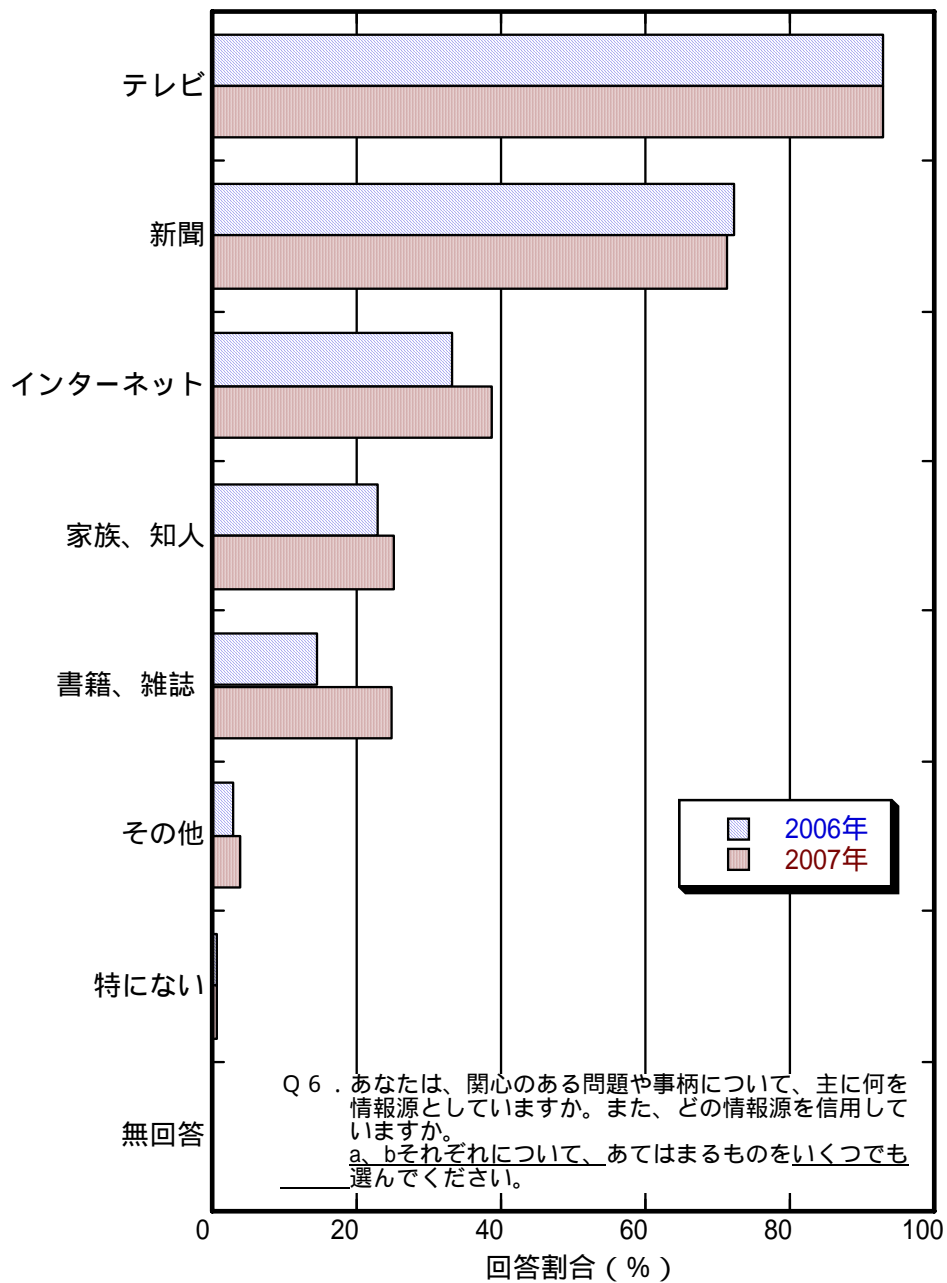


図3 . 1 . 6 . 2 . ニュースや事件などの情報源の推移 (Q 6 / 複数回答)
(2 0 0 6 ~ 2 0 0 7 年 / 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

7) 図3. 1. 7. ふだんの日常生活の中で特に強く不安を感じるもの (Q7 / 複数回答)
 不安を感じるものとして、安全や環境問題等が上位にある。これもQ3 (日本が目指すべき社会)、Q4 (特に関心のある問題や事柄) の結果とほぼ同傾向の結果である。

[エネルギー危機] や [原子力発電所の事故] は下位にある。

2007年は [地球規模の環境破壊、税金、食品添加物や食品汚染、物価高、エネルギー危機、原子力発電所の事故] などの回答率が前年に比べ大きくなっている。

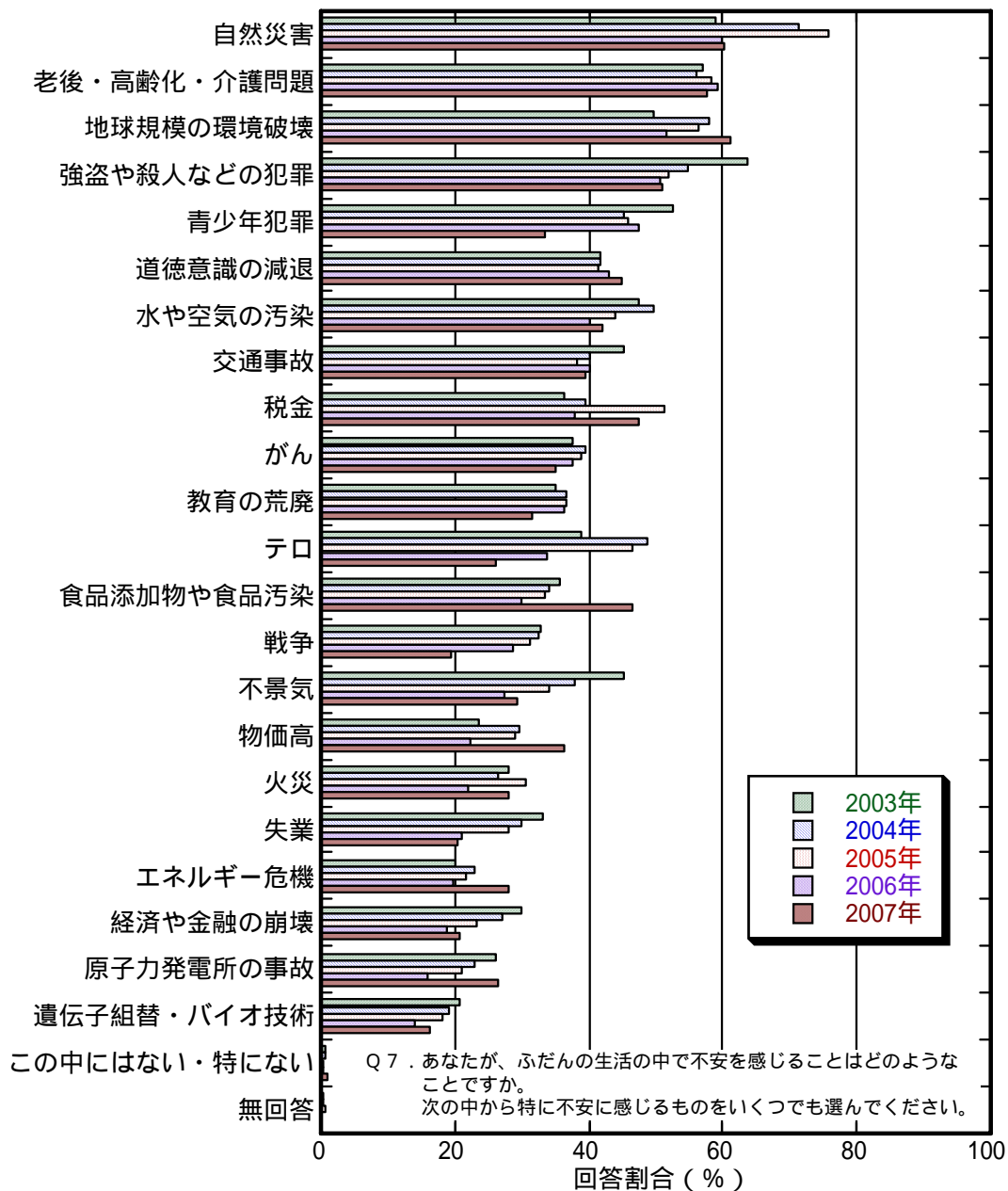


図3. 1. 7. ふだんの日常生活の中で特に強く不安を感じるもの
 (Q7 / 複数回答) (2003~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km 圏内)

8) 図3.1.8. 自分の住まいの近くに作られることを受け入れられない施設
(Q8 / 複数回答)

自分の住まいの近くに作られることを受け入れられない施設としては、[放射性廃棄物処理処分施設][産業廃棄物の処理施設][原子力発電所][化学工場]の順で回答率が大きい。廃棄物処理処分施設への嫌悪感が大きいといえる。他と比べて、原子力発電所が特別に嫌悪施設となっているわけではない。

過去の結果と比べても大きな変化はない。

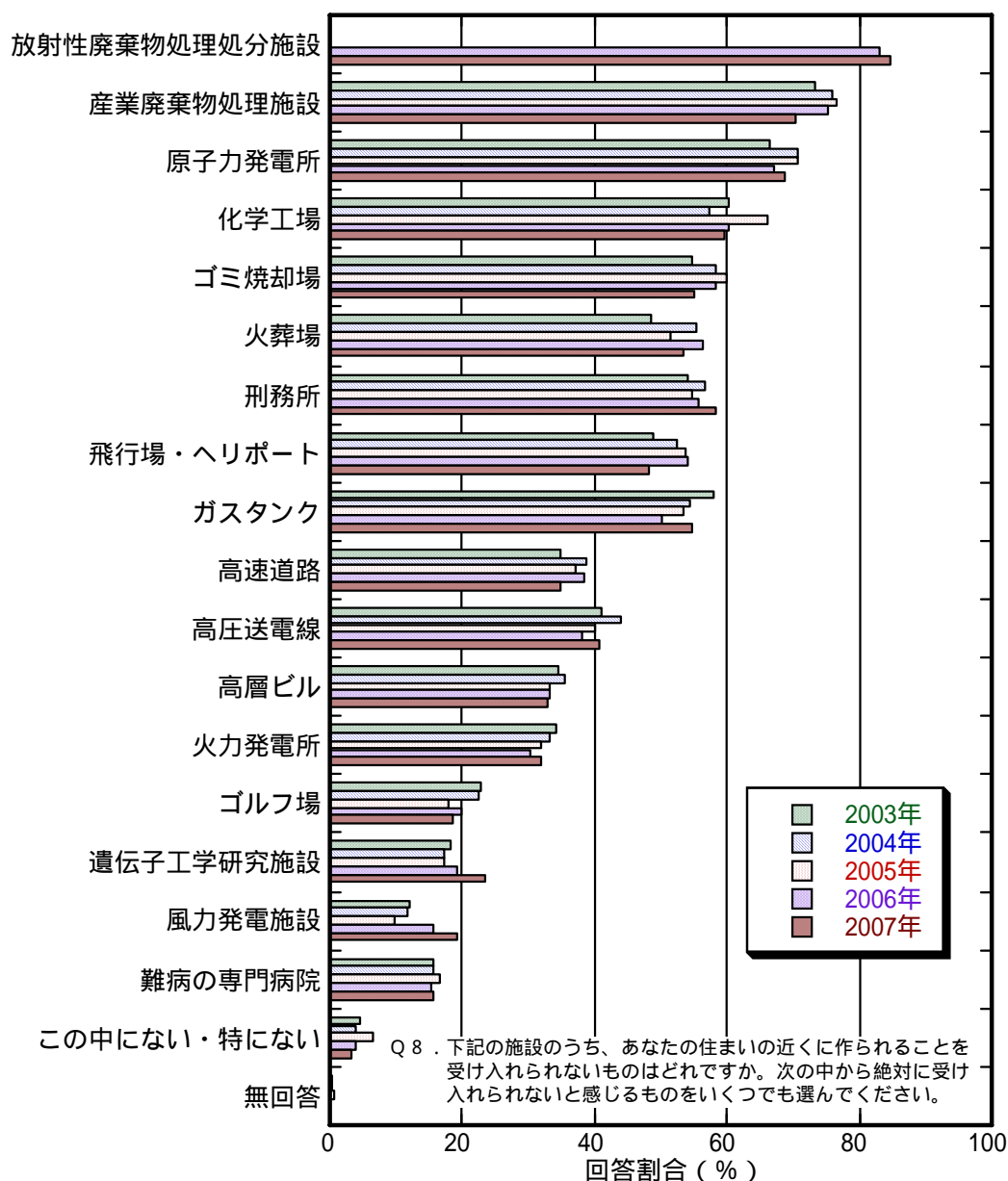


図3.1.8. 自分の住まいの近くに作られることを受け入れられない施設
(Q8 / 複数回答) (2003~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km圏内)

9) 図3.1.9. 嫌悪施設を受け入れる場合に特に強く重視すること
(Q9 / 複数回答)

嫌悪施設を受け入れる場合に特に強く重視することとして、住民に対する説明や情報、および事故公害問題が最も重視されている。嫌悪施設を受け入れてもらうためには、[リスク情報を含めた十分な説明]が必要であるといえる。

逆に、首長や議会の受入、金銭関係は下位にある。

過去の結果と比べても大きな変化はない。

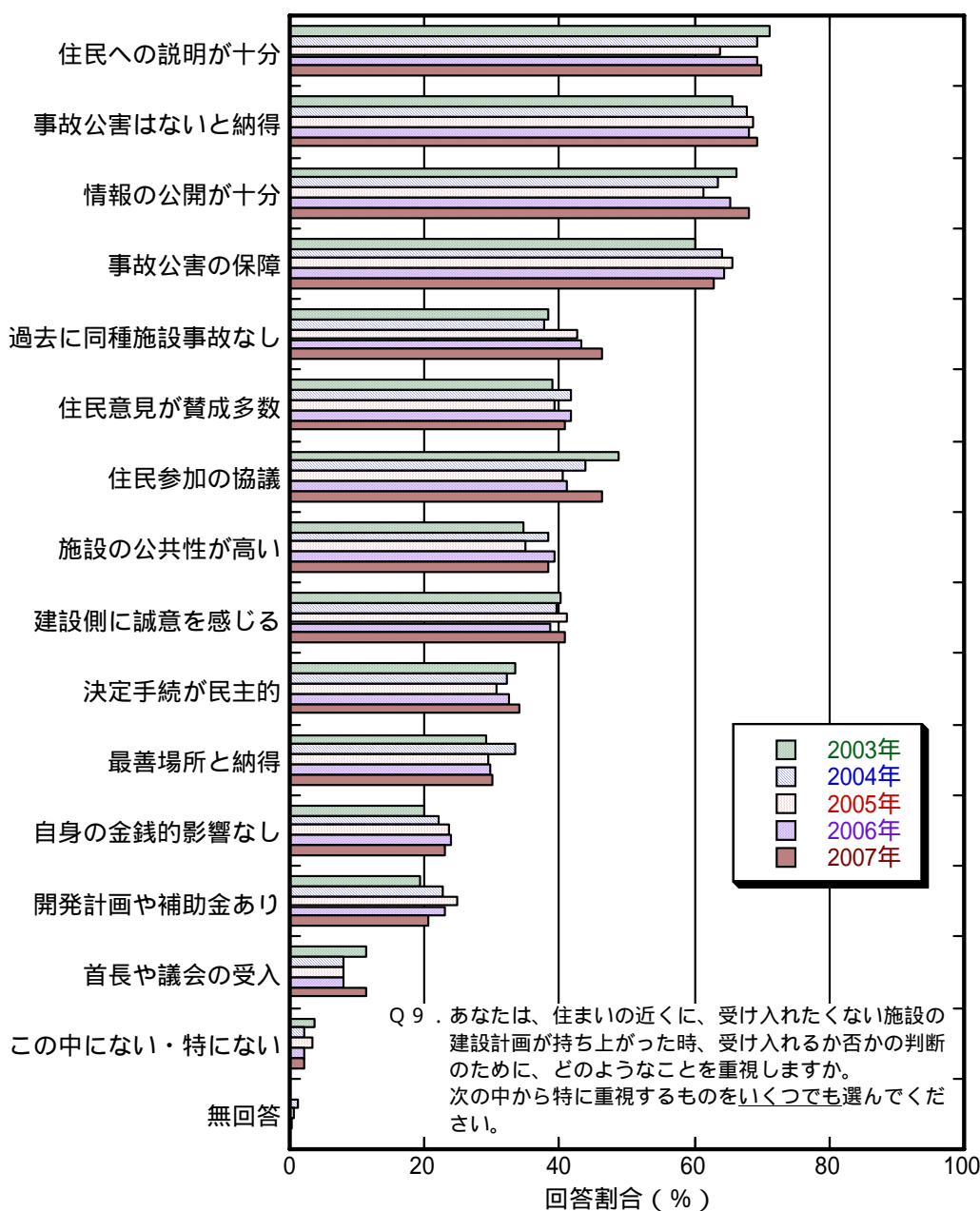


図3.1.9. 嫌悪施設を受け入れる場合に特に強く重視すること (Q9 / 複数回答)
(2003~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km圏内)

(2) 公衆のエネルギー問題に対する意識

1) 図3.1.10. エネルギー問題についての関心 (Q10)

多くの人がエネルギー問題について関心があると答えている。

2007年は関心がある割合が多くなっている。

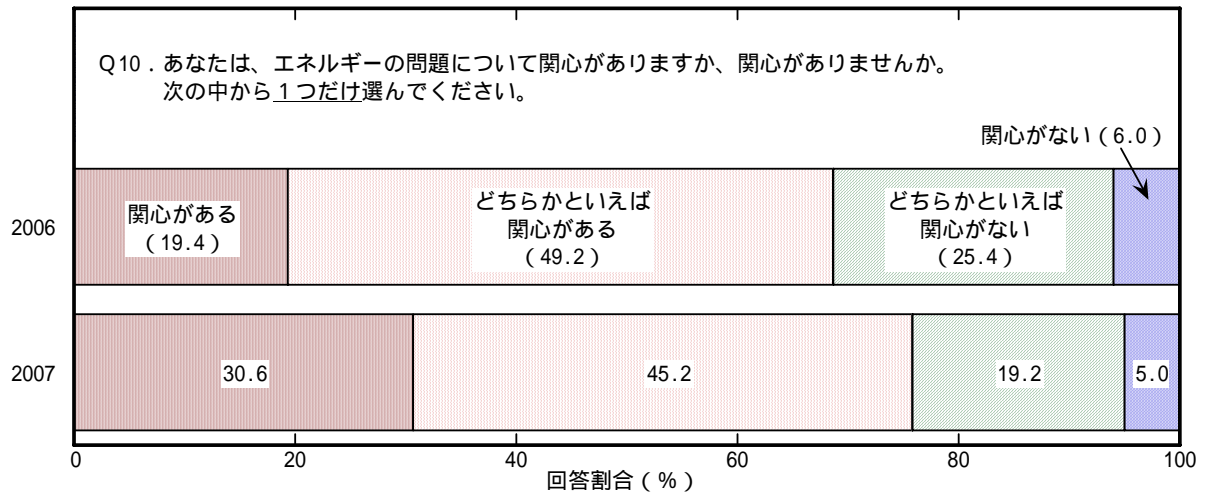


図3.1.10. エネルギー問題についての関心 (Q10)
(2006~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

2) 図3.1.11. 現在の日本の環境問題に対する取り組みについての認識 (Q11)

現在の日本では、地球温暖化などの環境問題に対して、熱心に取り組んでいるかどうかについて、意見が分かれており、中間意見の割合も高い。
否定的意見は減少傾向にある。

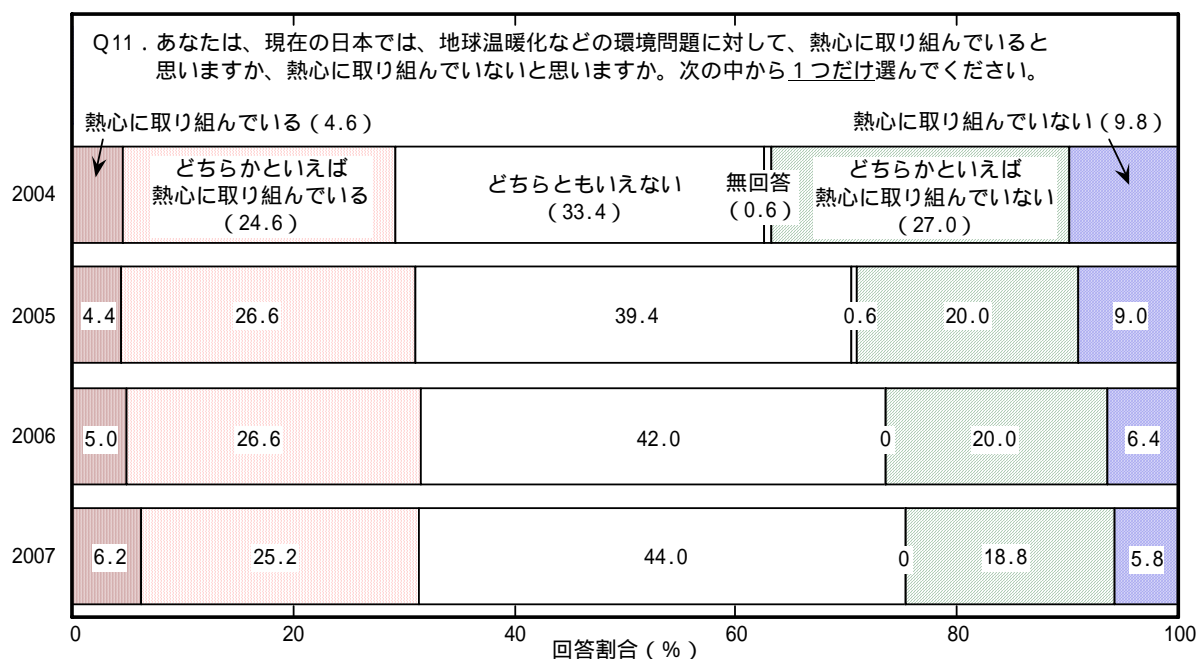


図3.1.11. 現在の日本の環境問題に対する取り組みについての認識 (Q11)
(2004~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

3) 図3.1.12. 現在の日本の新エネルギーに対する取り組みについての認識 (Q12)

現在の日本が新エネルギーの利用に熱心に取り組んでいるかどうかについて、意見が分かれている。

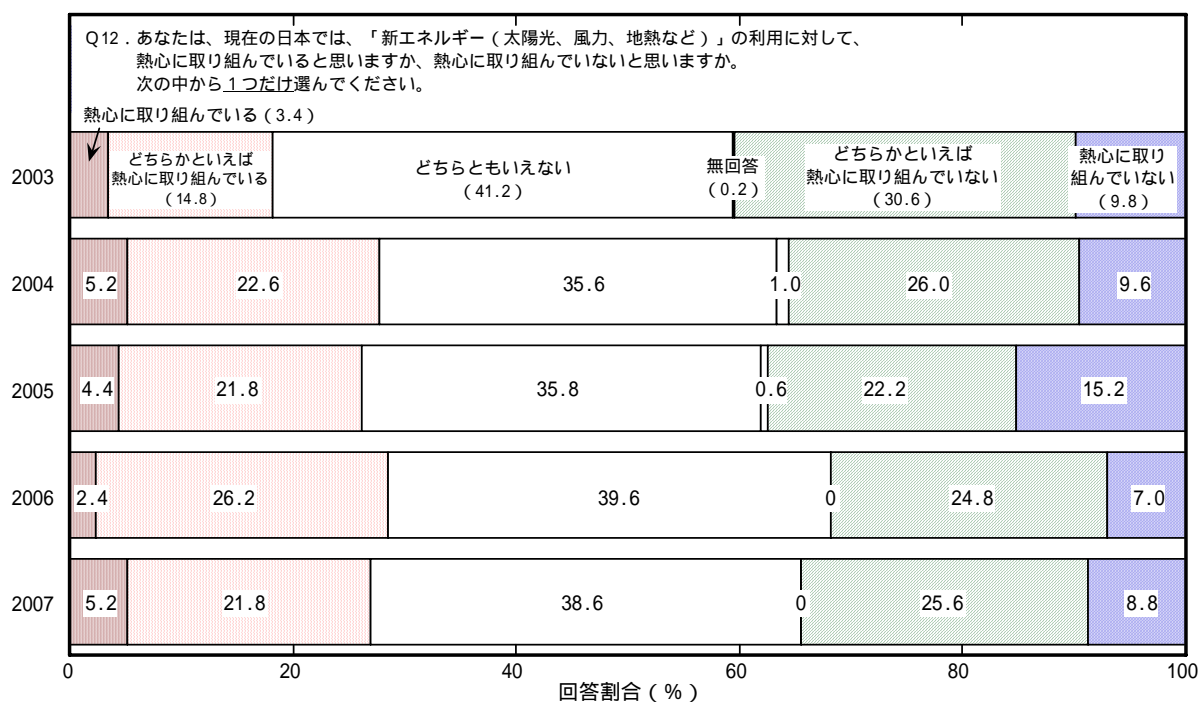


図3.1.12. 現在の日本の新エネルギーに対する取り組みについての認識 (Q12)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

4) 図3.1.13. 今後の日本のエネルギー使用量についての認識 (Q13)

今後の国全体のエネルギー使用量は大多数の人が増えると回答している。

将来、エネルギー使用量が多くなるとの認識が変わったとき、公衆のエネルギーや原子力発電に対する意識に変化があるかもしれない。

2007年の調査では、[増える]との意見が増えている。

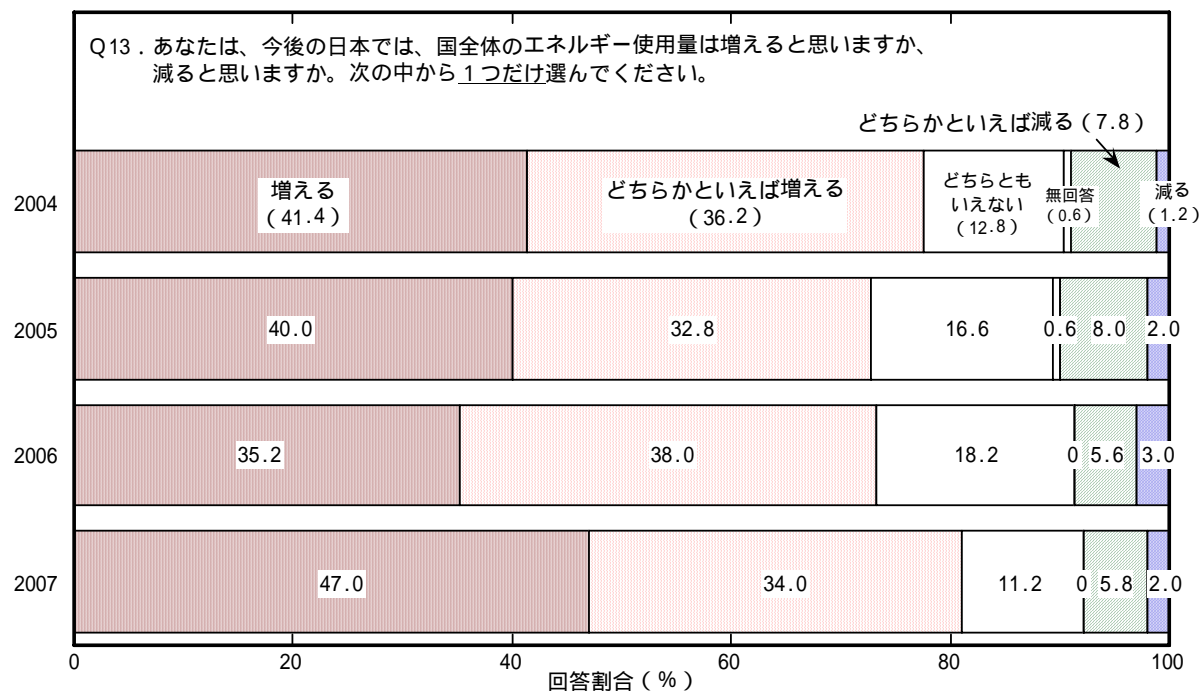


図3.1.13. 今後の日本のエネルギー使用量についての認識 (Q13)

(2004~2007年 / 10月~11月 / 首都圏 30km 圏内)

5) 図3.1.14. 今後の日本のエネルギー供給問題についての不安感 (Q14)

今後、日本が必要なエネルギーを十分に確保できるかどうかというエネルギー供給の問題について、大部分の人が不安を感じると回答している。

2007年の調査では、[不安を感じる]との意見が増えている。

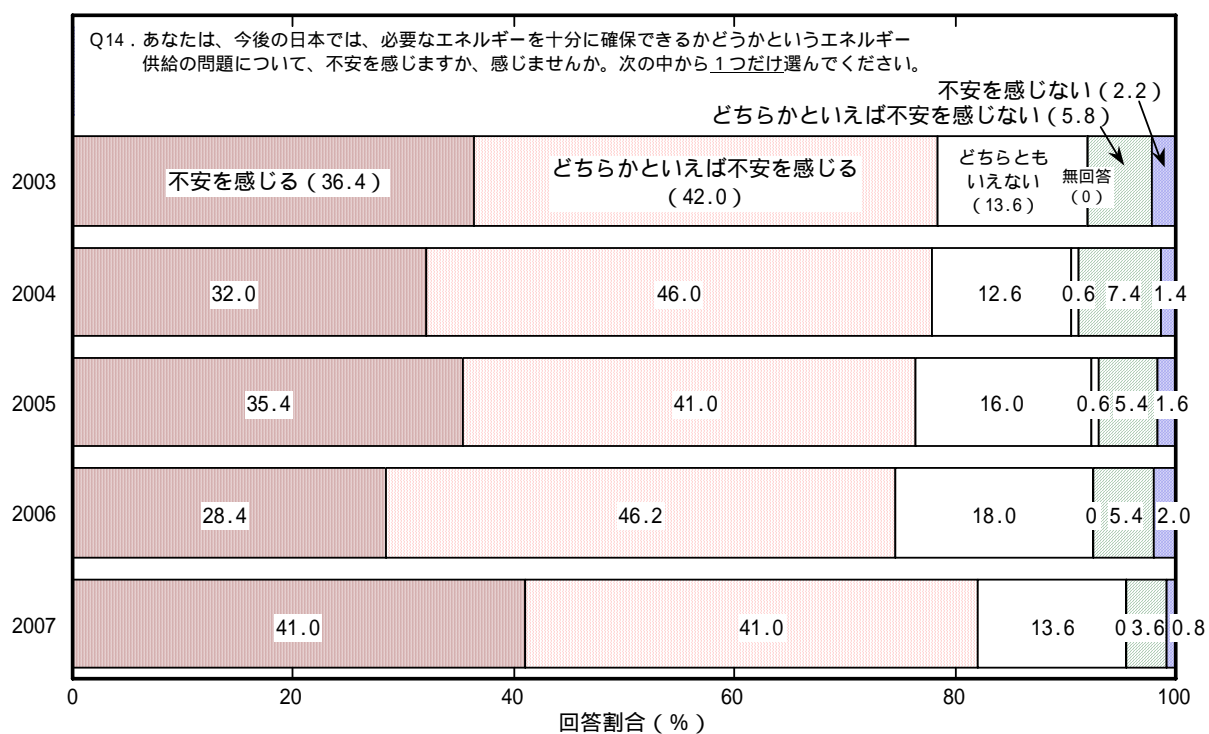


図3.1.14. 今後の日本のエネルギー供給問題についての不安感 (Q14)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

6) 図3.1.15. エネルギーや環境の問題に取り組むための方策についての認識 (Q15)

今後の日本で、エネルギーや環境の問題に取り組むために、「どちらかといえば」も含め、[生活の便利さが制限されてもよい]と答える人は半分以上いる。
2006年調査以降、制限受入意見が増加、拒否意見が減少傾向にある。

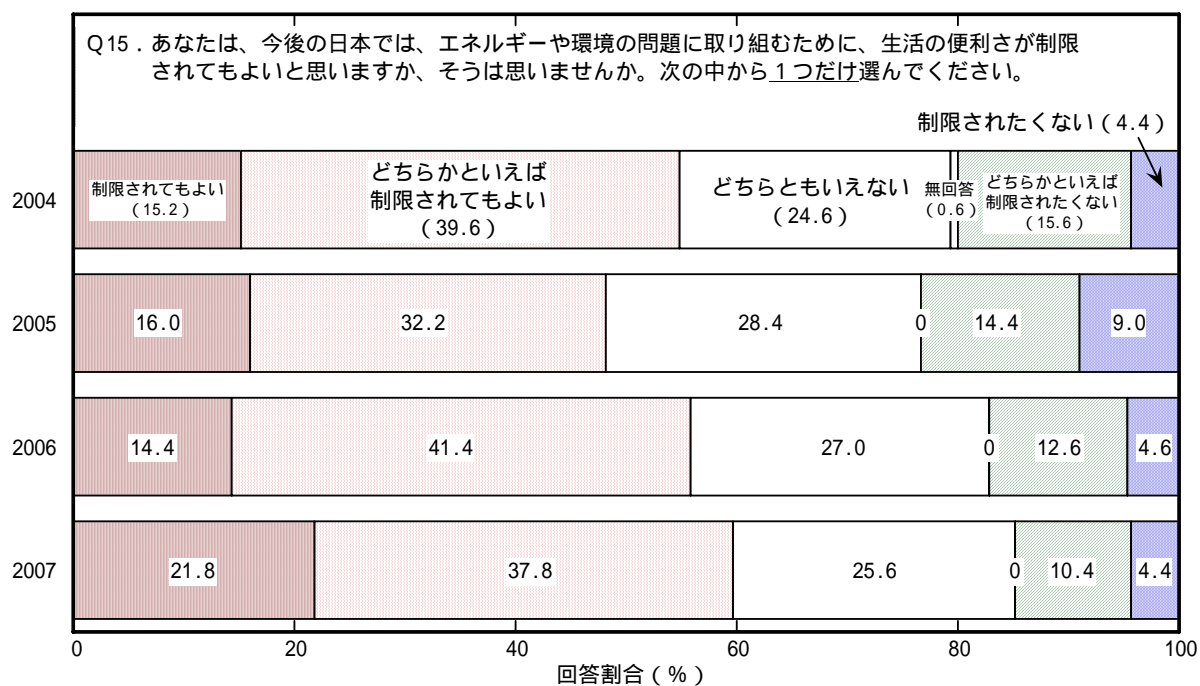


図3.1.15. エネルギーや環境の問題に取り組むための方策についての認識 (Q15)
(2004~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

7) 図3.1.16. 20年後の日本の石油の値段についての認識 (Q16)

殆どの方が、20年後の石油の値段は今より高くなっていると回答している。
2007年の調査では、[非常に高くなっている]の意見が増えている。

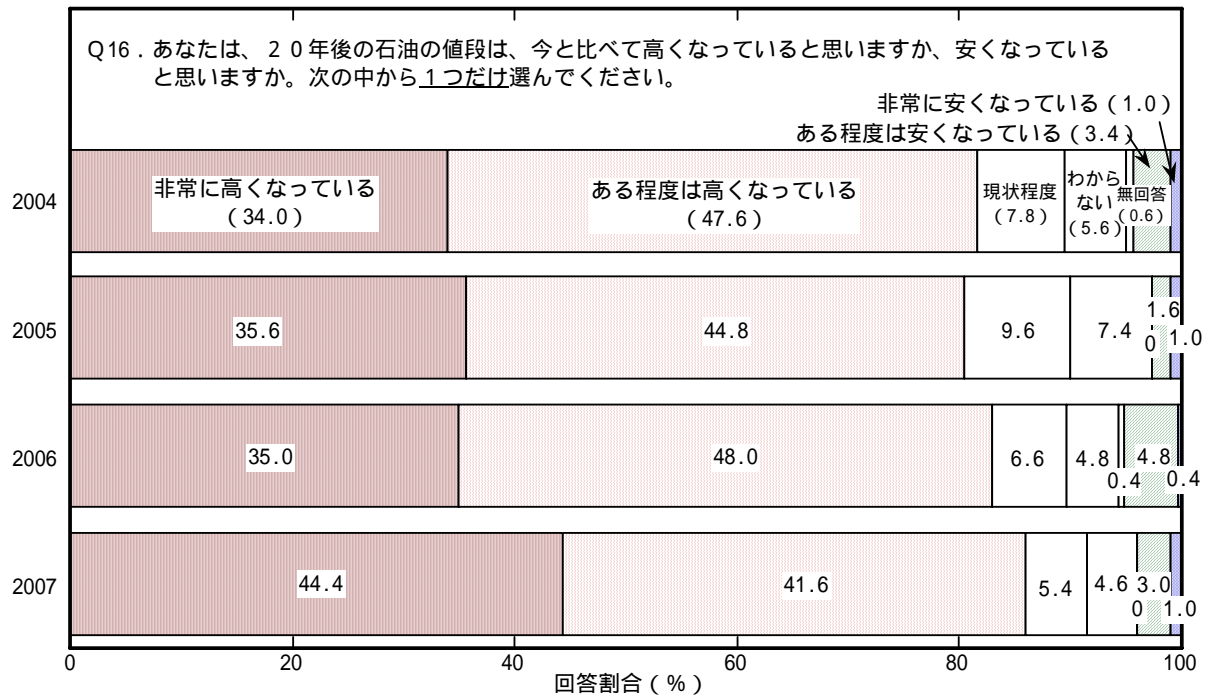


図3.1.16. 20年後の日本の石油の値段についての認識 (Q16)
(2004~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

8) 図3.1.17. 20年後の日本の石油の確保についての認識 (Q17)

20年後の日本で必要な石油を十分に確保できるかどうかという石油供給の問題について、2006年までは約4割の人が[確保できない]、約3割の人が[確保できる]、3割強の人が[どちらともいえない]と答えていたが、2007年調査では[確保できる]が減少し、[確保できない]が増えている。

エネルギー供給問題への不安や懸念が高まっているようである。

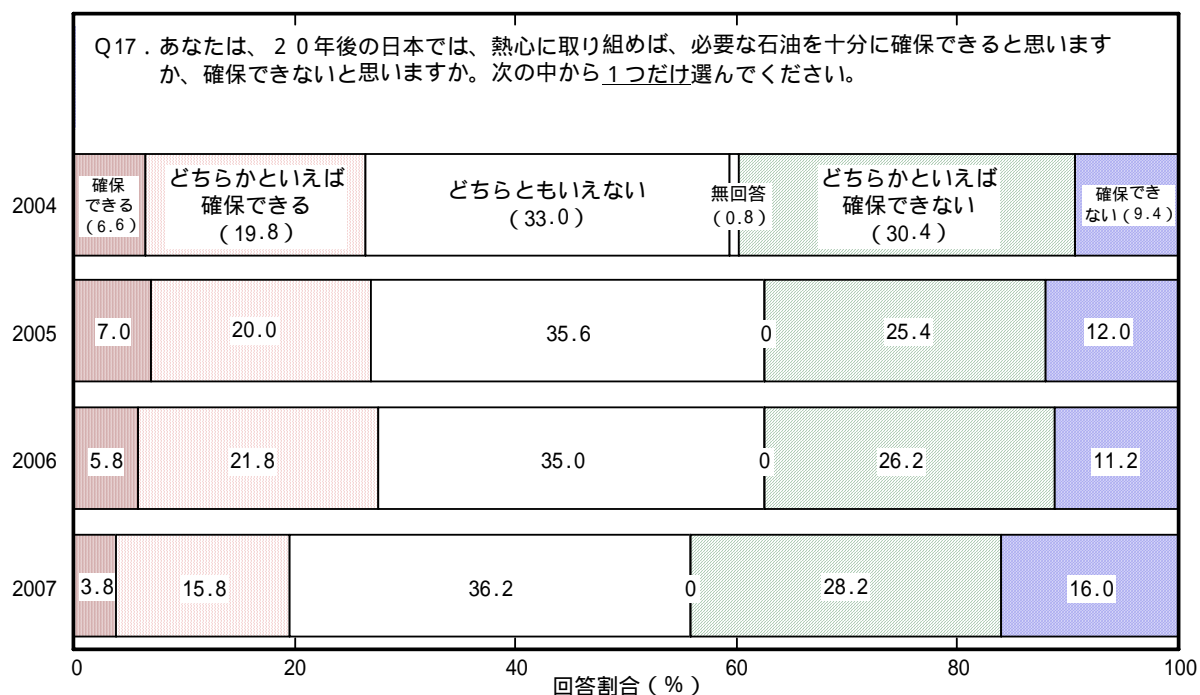


図3.1.17. 20年後の日本の石油の確保についての認識 (Q17)
(2004~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

9) 図3.1.18. 20年後の日本の新エネルギーの可能性についての認識 (Q18)

20年後の日本では、熱心に取り組めば「新エネルギー」は主要なエネルギー源にすることが可能だと思う人が大部分であり、不可能と思う人はほとんどいない。

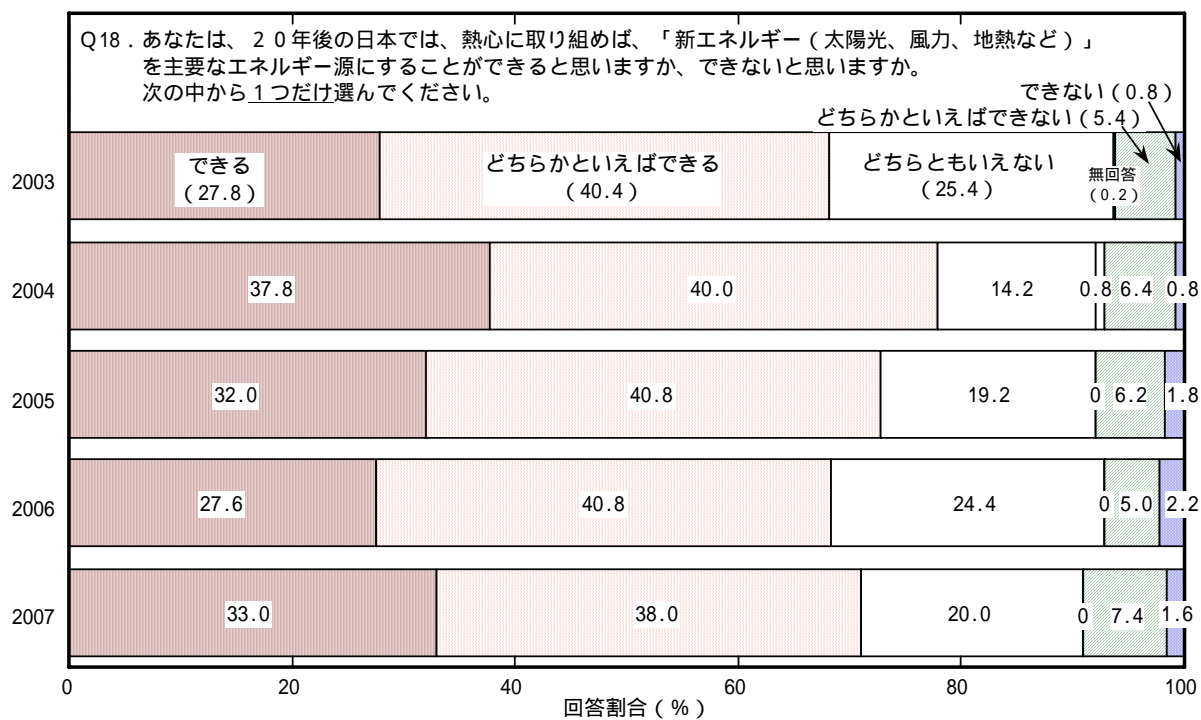


図3.1.18. 20年後の日本の新エネルギーの可能性についての認識 (Q18)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

10) 図3.1.19. 20年後の日本の二酸化炭素の排出量低減可能性についての認識 (Q19)

20年後の日本では、熱心に取り組めば、地球温暖化の原因の一つといわれている二酸化炭素の排出量を大幅に下げることができると思う人が大部分であり、不可能と思う人はあまりいないが、可能との意見が減少する傾向がみえる。

地球温暖化問題への不安や懸念が高まっているようである。

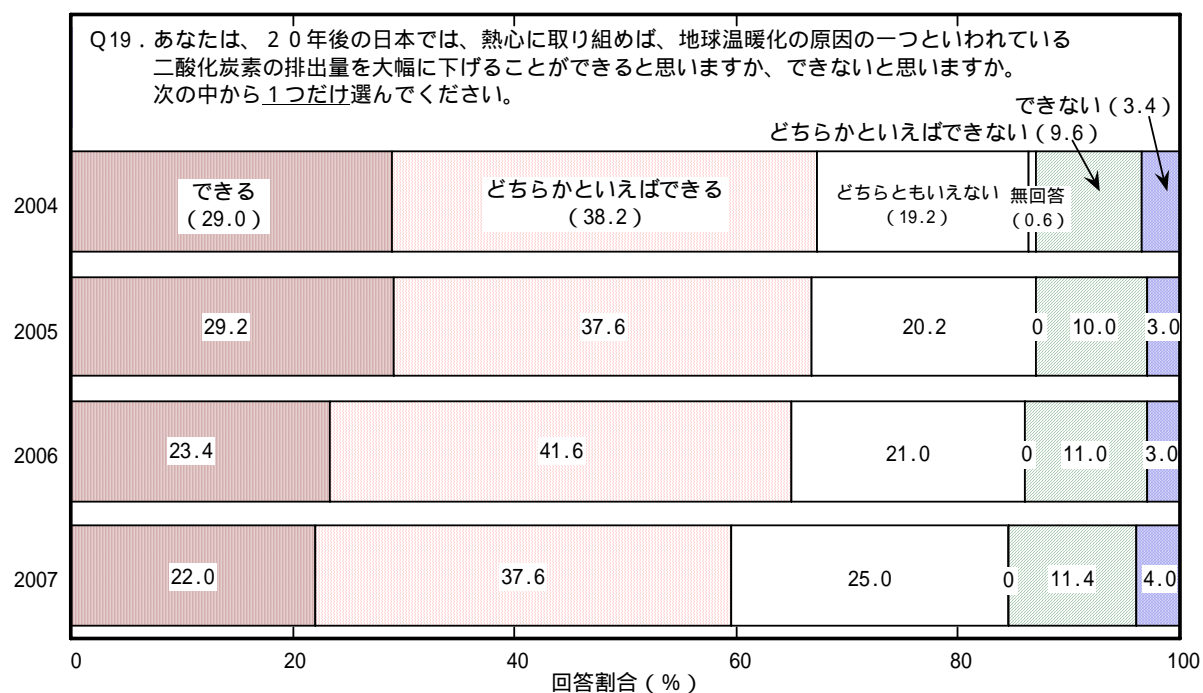


図3.1.19. 20年後の日本の二酸化炭素の排出量低減可能性についての認識 (Q19) (2004~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

11) 図3.1.20. 今後の日本のエネルギー・環境問題に対する効果的な方法 (Q20)

今後の日本のエネルギーや環境の問題に対して、[科学技術の進歩や発展により解決する] との回答が徐々に減少し、[一人一人の国民が自主的に取り組む] との回答が増えている。

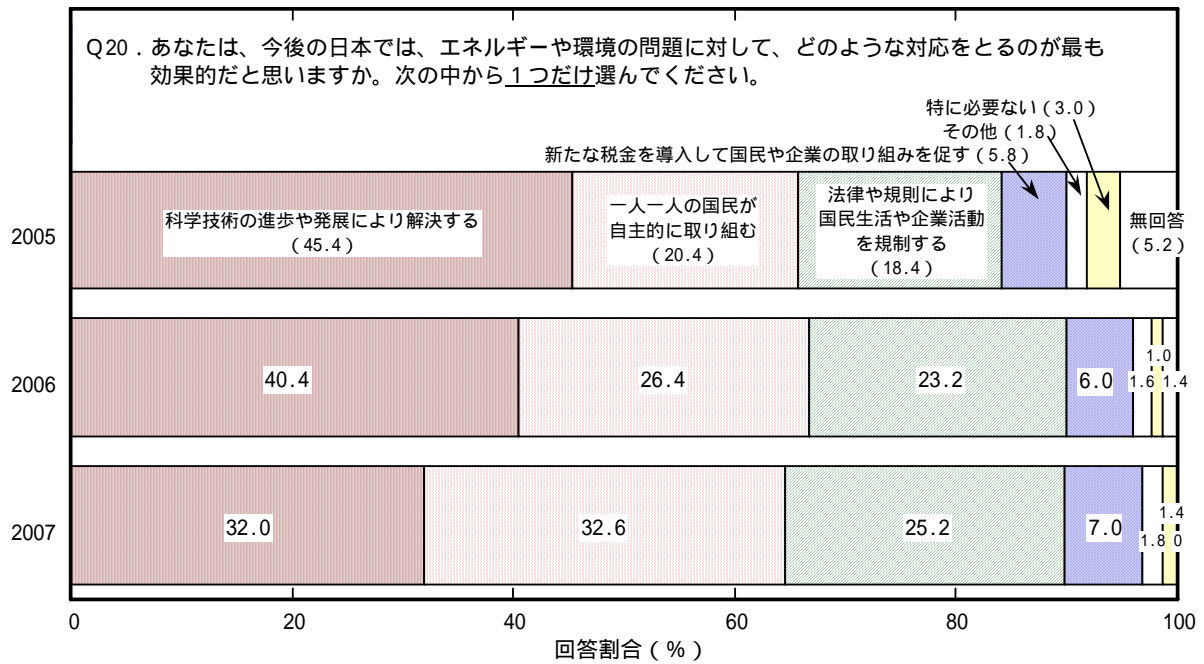


図3.1.20. 今後の日本のエネルギー・環境問題に対する効果的な方法 (Q21)
(2005~2007年 / 10月~11月 / 首都圏 30km 圏内)

12) 図3.1.21. エネルギー・環境問題のための個人的取り組みの有無
(Q21)

エネルギー・環境問題のために [個人的に取り組んでいる] と答える人は6割程度である。

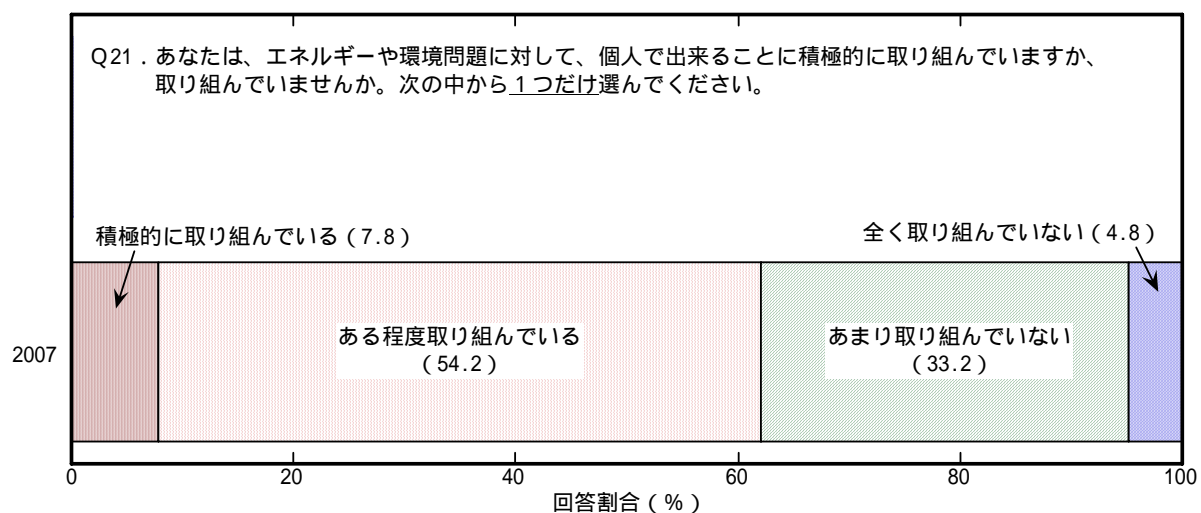


図3.1.21. エネルギー・環境問題のための個人的取り組みの有無 (Q21)
(2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

(3) 公衆の原子力発電に関する意識

1) 図 3 . 1 . 2 2 . 原子力発電についての関心度 (Q 2 2)

[どちらかといえば] を含め、関心があると答えた人と関心がないと答えた人の割合はほぼ同数であったが、2007年調査では関心があると答えた人の割合は6割程度に増えた。

エネルギー問題について関心がある人の割合が約8割であることや(図3.1.10)、特に関心のある問題や事柄で原子力発電問題が下位にあること(図3.1.4)などの結果をみると、原子力発電についての関心は相対的に小さいといえる。

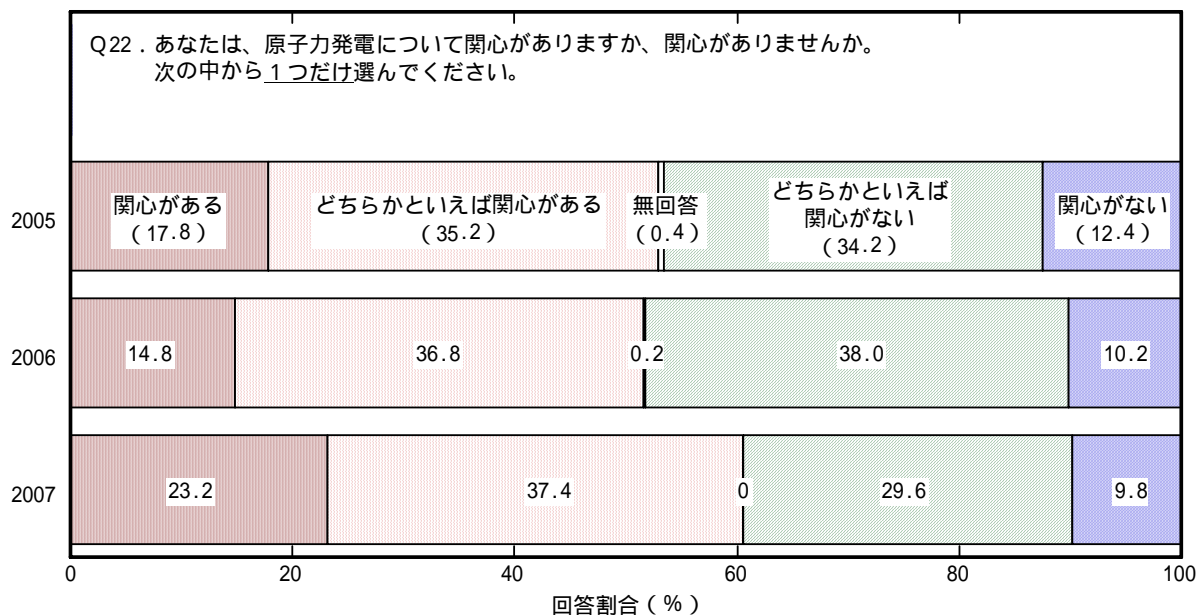


図 3 . 1 . 2 2 . 原子力発電についての関心度 (Q 2 2)
(2 0 0 5 ~ 2 0 0 7 年 / 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

2) 図3.1.23. 原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q23)

原子力発電の利用 - 廃止の意見は、[新設や増設をしながら続ける、現状程度のまま続ける]と回答する利用派と、[どちらともいえない]と回答(無回答を含む)する中間派と、[すぐにやめる、徐々にやめていく]と回答する廃止派の数が2003年度の調査では、ほぼ1/3程度となっていた。

近年の原子力発電の利用 - 廃止意見は、廃止意見の減少など、好意的方向に変化する傾向がみられており、2007年の調査結果をみても、この傾向に大きな変化はなく、2007年の原子力発電関連事件・事象による大きな影響はみられない。

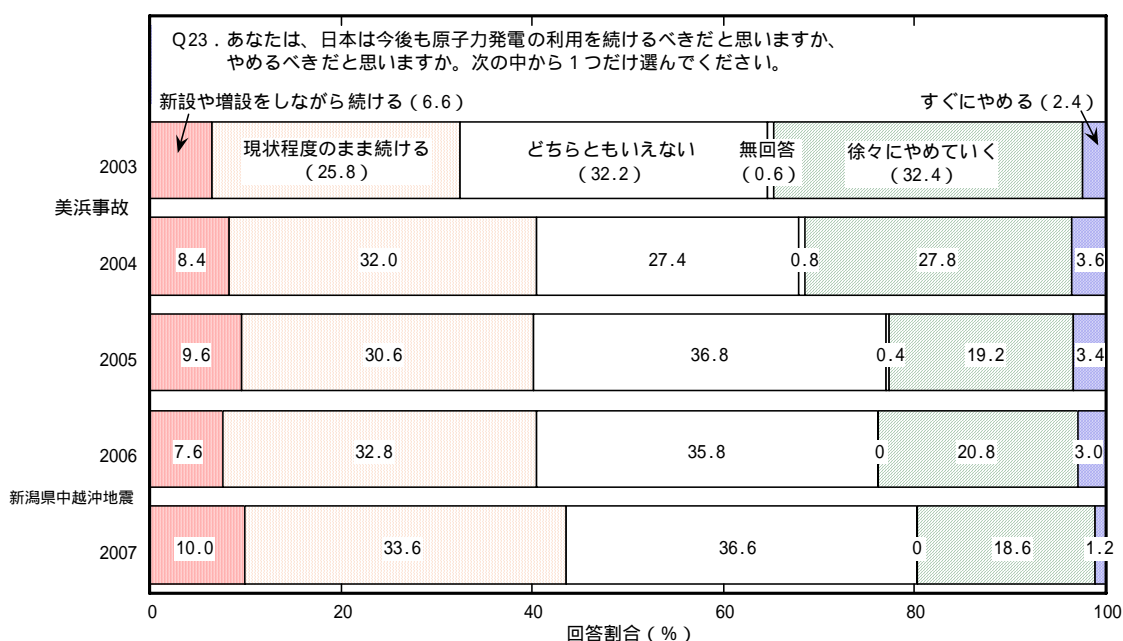


図3.1.23. 原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

3) 図3.1.24. 原子力発電の有用感 (Q24)

原子力発電の有用感は、過半数の人が有用と回答しており、無用との回答は非常に少ない。

また、推移を見てもあまり大きな変化はない。

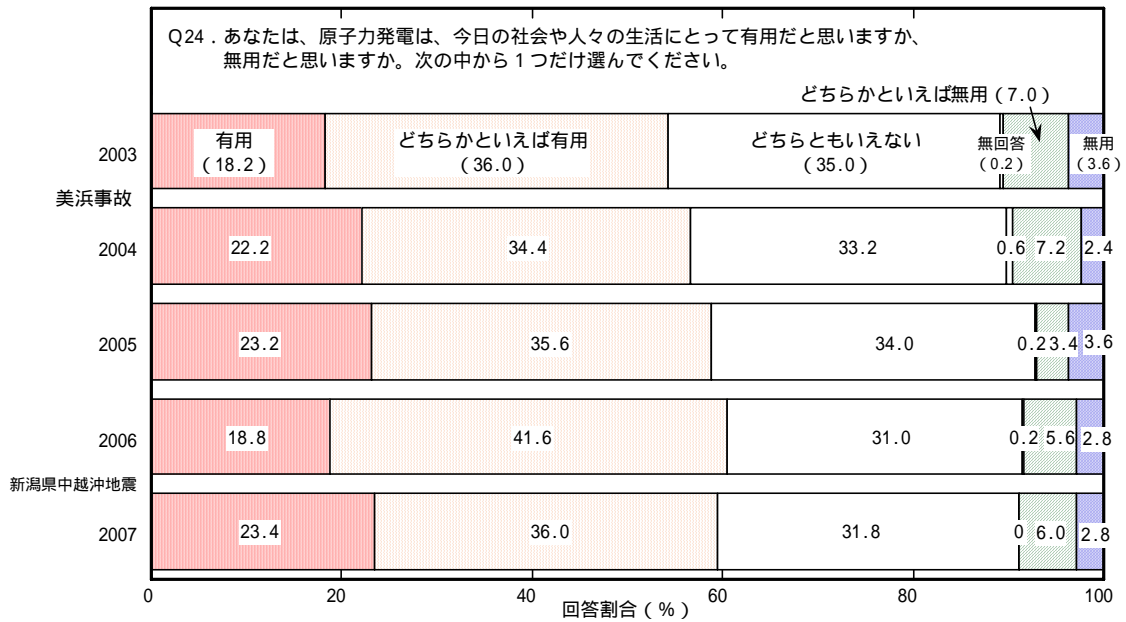


図3.1.24. 原子力発電の有用感 (Q24)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

4) 図3.1.25. 原子力発電の安心感 (Q25)

原子力発電の安心感は、過半数の人が不安と回答しており、安心との回答は少ない。

2007年は不安意見に若干の増加がみられるものの誤差範囲内であり、大きな影響はみられない。

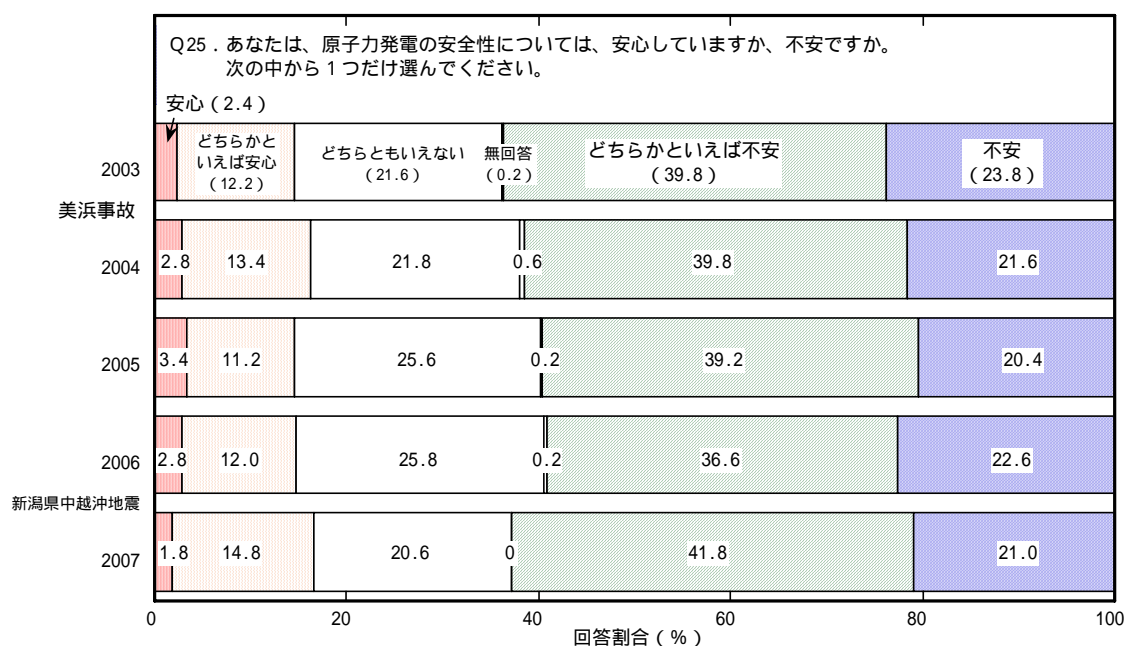


図3.1.25. 原子力発電の安心感 (Q25)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

- 5) 図3.1.26. 原子力発電についての有用感と安心感の組合わせ (Q24とQ25)
- 図3.2.27. 有用感&安心感別にみた原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q23)
- 図3.1.28-1. [有用&非不安]と答えた人の原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q23)
- 図3.1.28-2. [有用&不安]と答えた人の原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q23)
- 図3.1.28-3. [非有用&不安]と答えた人の原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q23)

前年度までの調査から、また後述の今年度の調査結果からも、有用感と安心感は原子力発電に対する利用度評価と大きな関係がある。無用感をもつ人はそのほとんどが[廃止意見]となり、安心感をもつ人はその多くが[利用意見]となるが、無用感や安心感をもつ人の人数は少数である。また、半数以上の人々は原子力発電に有用感または不安感を持ち、有用感を持つことがただちに原子力発電の利用派となるわけではなく、不安感を持つことがただちに原子力発電の廃止派となるわけではない。

この、原子力発電に対する利用度評価と大きな関係があると思われる原子力発電の有用感と安心感の2つを用いて公衆を便宜的に[有用&非不安グループ、有用&不安グループ、非有用&不安グループ、その他グループ]の4グループに分類してみた。その他グループ以外の3グループはそれぞれ約3割前後の割合を占めている。また、推移を見てもこれらのグループの割合にあまり大きな変化はない。

これらの4グループ別に原子力発電に対する利用度評価を図3.2.27に示す。この図をみると、有用&非不安グループは当然、殆どが利用派であり、非有用&不安グループは約半数が廃止派となっている。

[有用&非不安]グループの原子力発電に対する利用度評価の推移をみると、あまり大きな変化はみられない。

[有用&不安]グループの原子力発電に対する利用度評価の推移をみると、利用派が増え、廃止派が減少する傾向がみられる。このグループでは[不安だが有用だから利用]となる人が増え、[有用だが不安だから廃止]となる人が減少したといえる。

[非有用&不安]グループの原子力発電に対する利用度評価の推移をみると、廃止派が減少する傾向がみられる。このグループでは[非有用&不安ではあるが、廃止と言いきるには躊躇]する人が増えたといえる。

上記のことから、近年、原子力発電に対する廃止派の割合が減少しているのは、[不安]と思っているグループの中の廃止意見が減少しているためといえる。つまり、[不安]と思う気持ちに変化はないが、だからといって[廃止]と言う人は減少しているといえる。

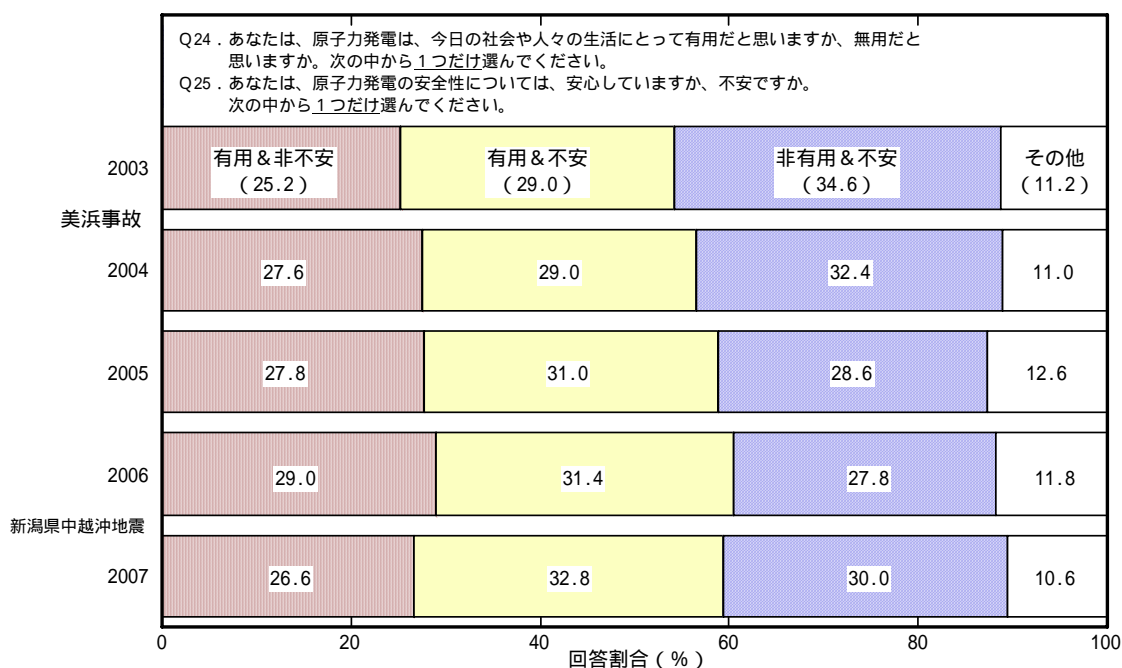


図3.1.26. 原子力発電についての有用感と安心感の組み合わせ (Q24とQ25)
 (2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

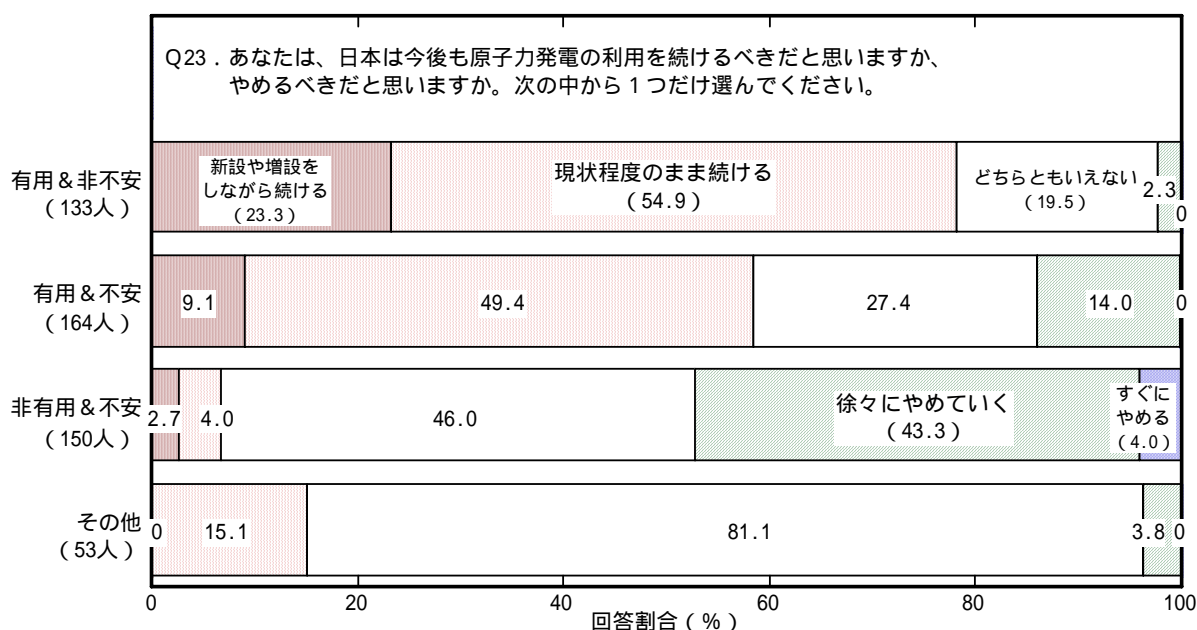


図3.1.27. 有用感&安心感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23)
 (2007年10月~11月/首都圏30km圏内)

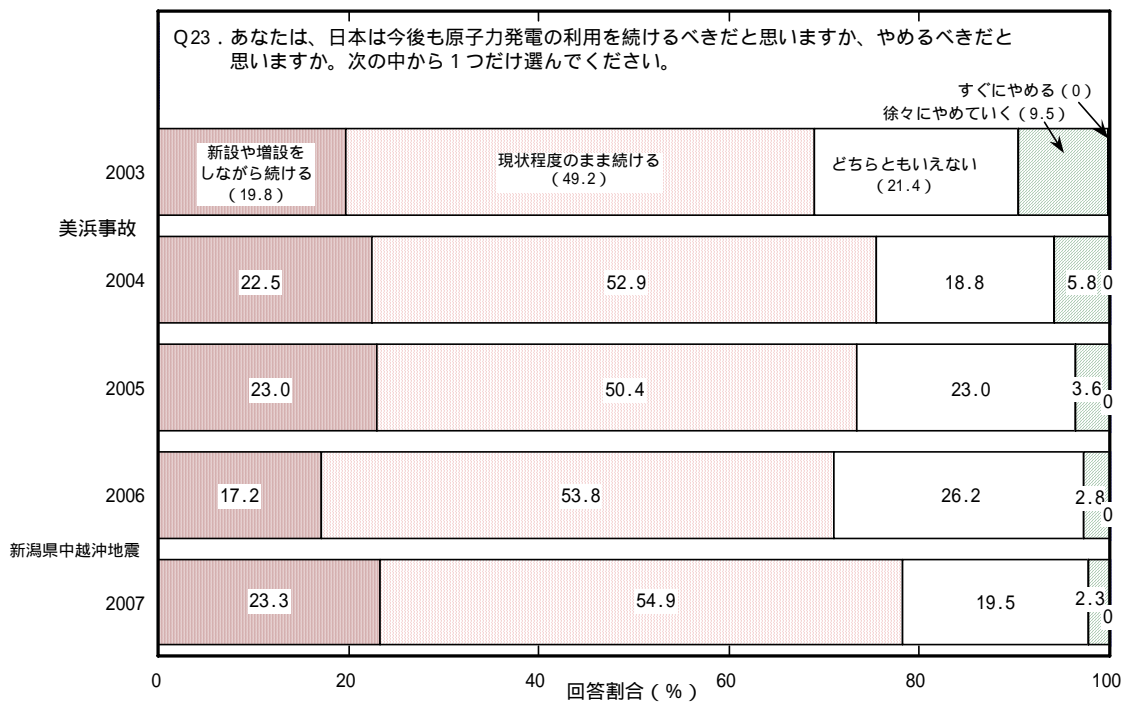


図3.1.28-1. [有用&非不安]と答えた人の原子力発電の利用・廃止の意見(Q23)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

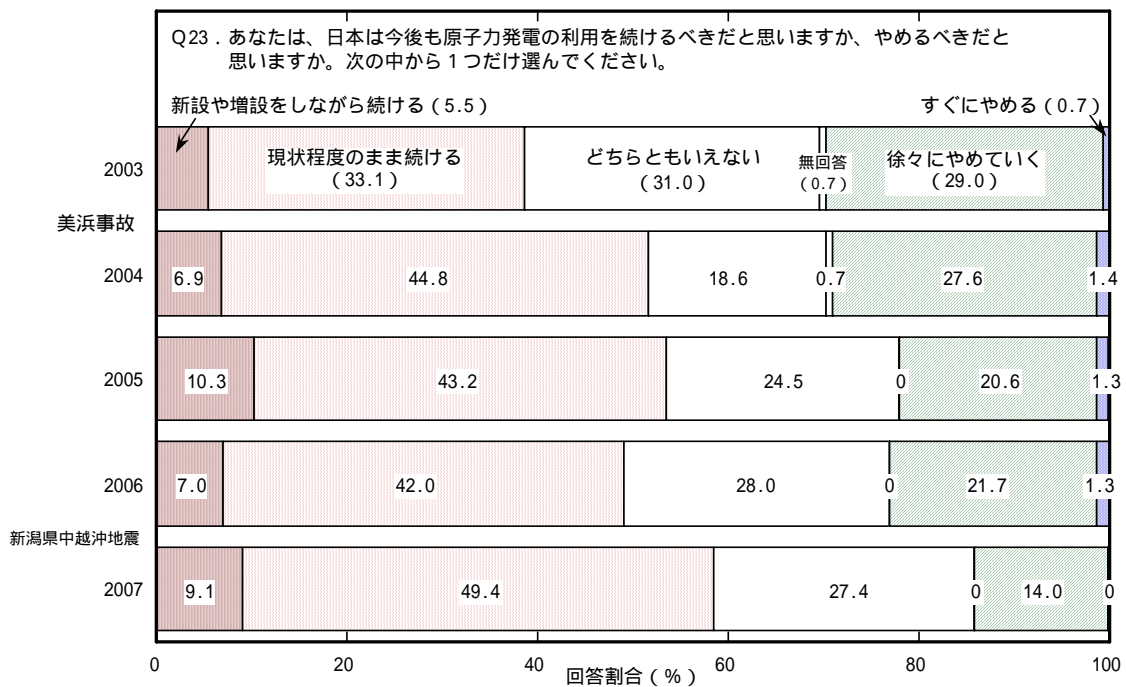


図3.1.28-2. [有用&不安]と答えた人の原子力発電の利用・廃止の意見(Q23)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

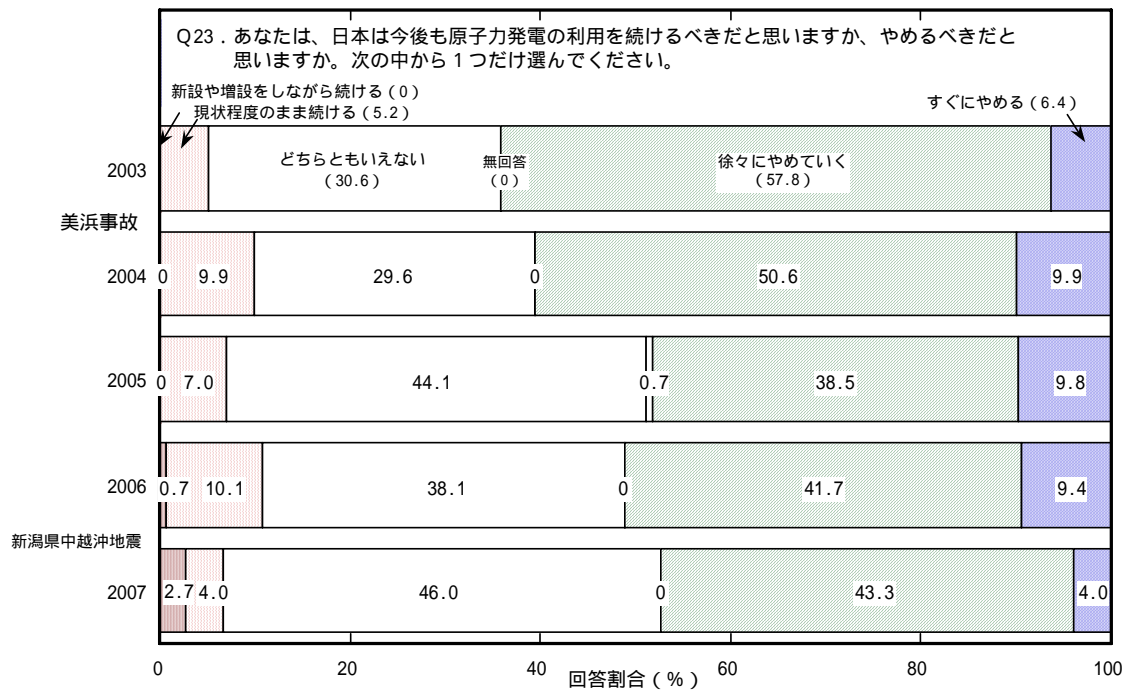


図3.1.28.3. [非有用&不安]と答えた人の原子力発電の利用・廃止の意見(Q23)
 (2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

6) 図3.1.29. 原子力発電の制御可能感 (Q26)

原子力発電の制御可能感は [可能] の回答が約40%、[どちらともいえない] の回答が約30%、[不可能] の回答が約30%である。

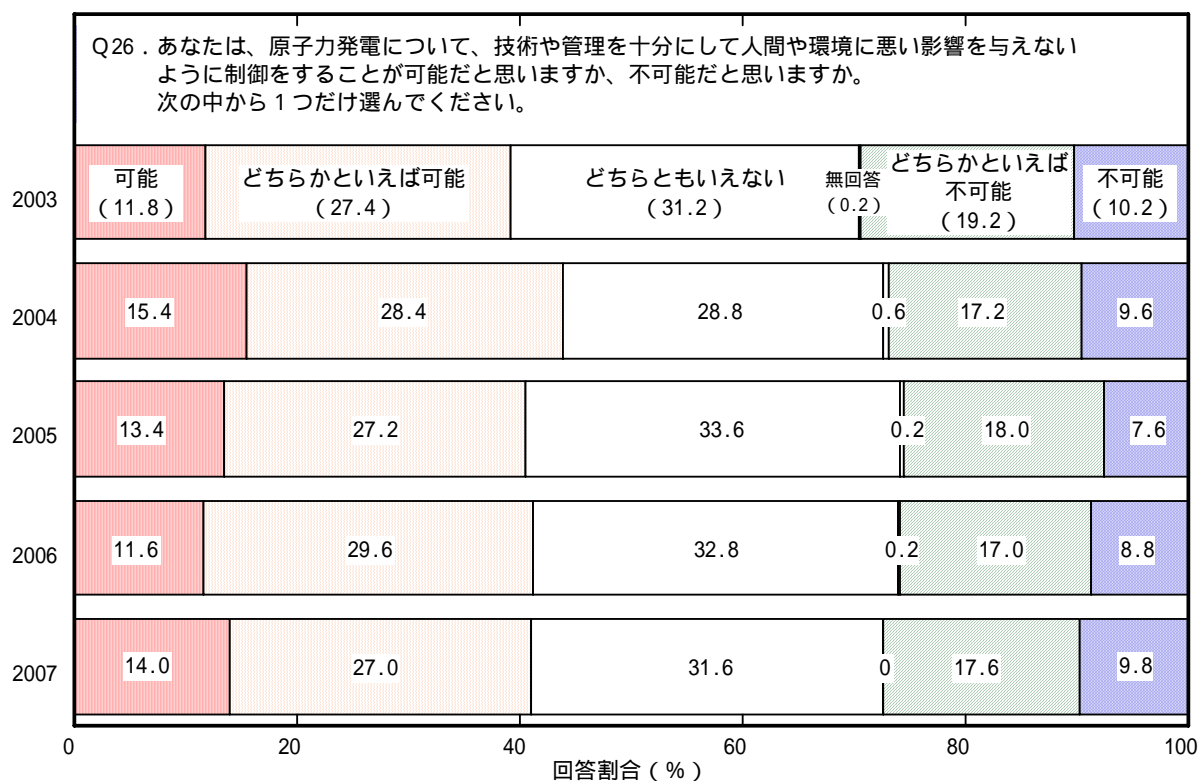


図3.1.29. 原子力発電の制御可能感 (Q26)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

16) 原子力発電の安心感・安全感に関する意見 (Q27~29)

図3.1.30. 日本の原子力発電所の運営に関する意見 (Q27)

図3.1.31. 原子力発電所に関する情報公開の評価 (Q28)

図3.1.32. 放射性廃棄物の処理・処分に関する意見 (Q29)

年と共に、日本の原子力発電所は適切に運営されていないとの回答が増え、適切に運営されていないとの回答が減少していたが、2007年は反転の傾向がみえる。

同様に、年と共に、原子力発電所に関する情報が非公開であるとの回答や、放射性廃棄物の処理・処分適切にできないとの回答が減少していたが、情報公開の評価についても2007年は反転の傾向がみえる。

原子力発電の運営や情報公開の評価に関する信頼感に、2007年において反転の傾向がみえるのは、2007年に起きた原子力関係事件の影響と思われる。

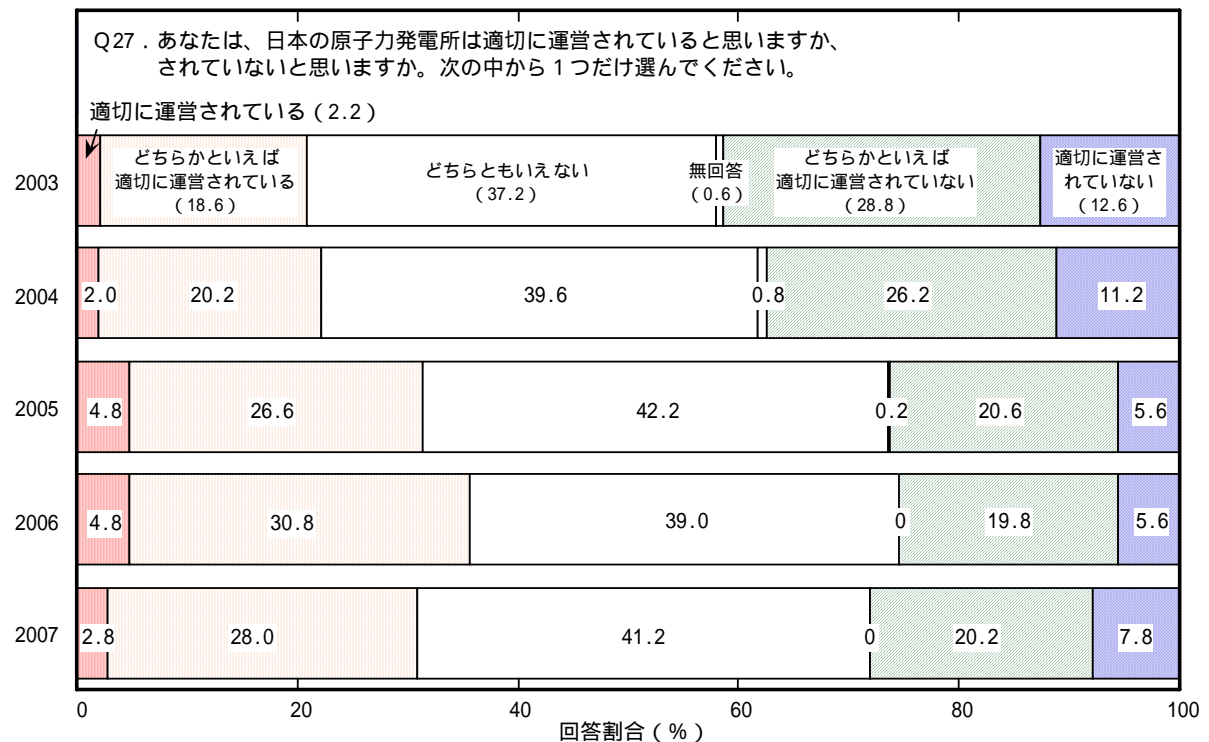


図3.1.30. 日本の原子力発電所の運営に関する意見 (Q27)

(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

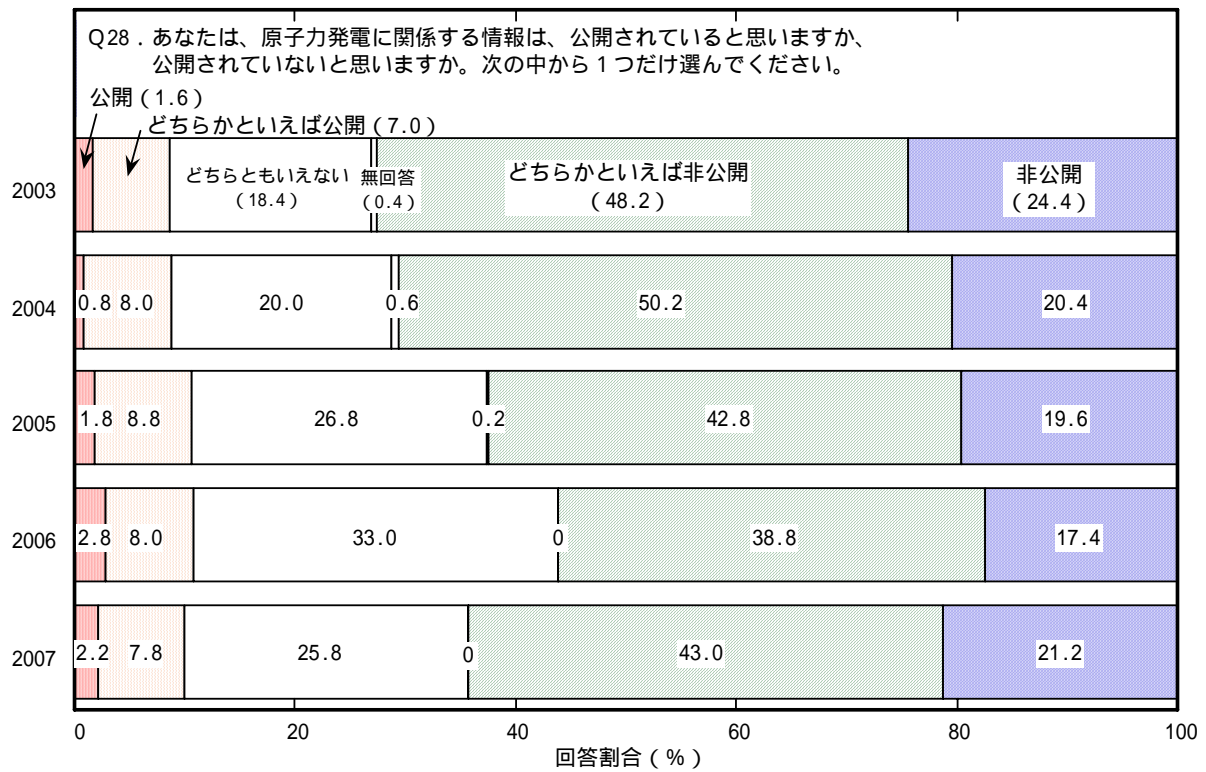


図3.1.31. 原子力発電に関する情報公開の評価 (Q28)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

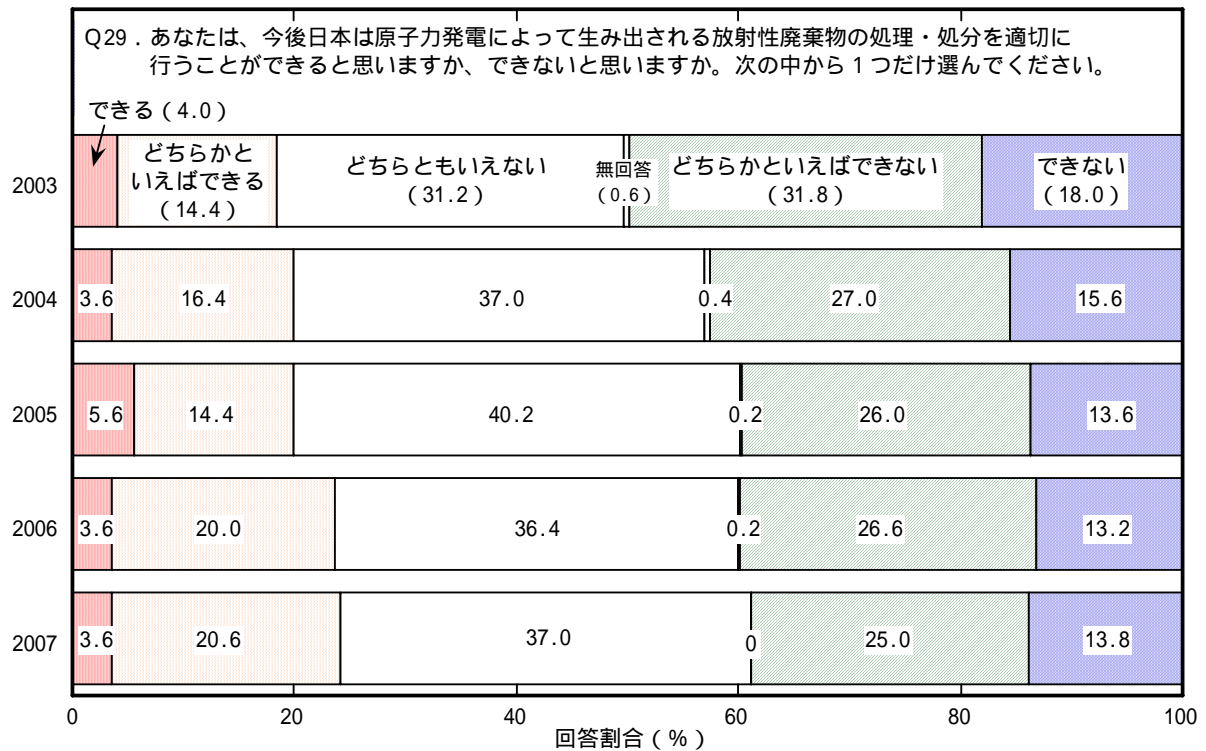


図3.1.32. 放射性廃棄物の処理・処分に関する意見 (Q29)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

17) 原子力発電の有用感に関する意見 (Q30～32)

図3.1.33. 日本の原子力発電の発電コストの安定化や低価格化への貢献に関する意見 (Q30)

図3.1.34. 日本の原子力発電のエネルギーの安定供給への貢献に関する意見 (Q31)

図3.1.35. 日本の原子力発電の環境問題の解決への貢献に関する意見 (Q32)

日本の原子力発電は発電コストの安定化や低価格化に貢献しているとの回答や、エネルギーの安定供給や、温室効果ガスである二酸化炭素の排出削減などの環境問題の解決に貢献しているとの回答の方が、貢献していないとの回答に比べ多い。

ただし、環境問題の解決に貢献しているかどうかに対しては、[どちらともいえない]との回答が半数以上もあるなど、中間回答が多く、貢献を認める度合いは[エネルギーの安定供給 > 発電コストの安定化や低価格化 > 環境問題の解決]の順になっている。

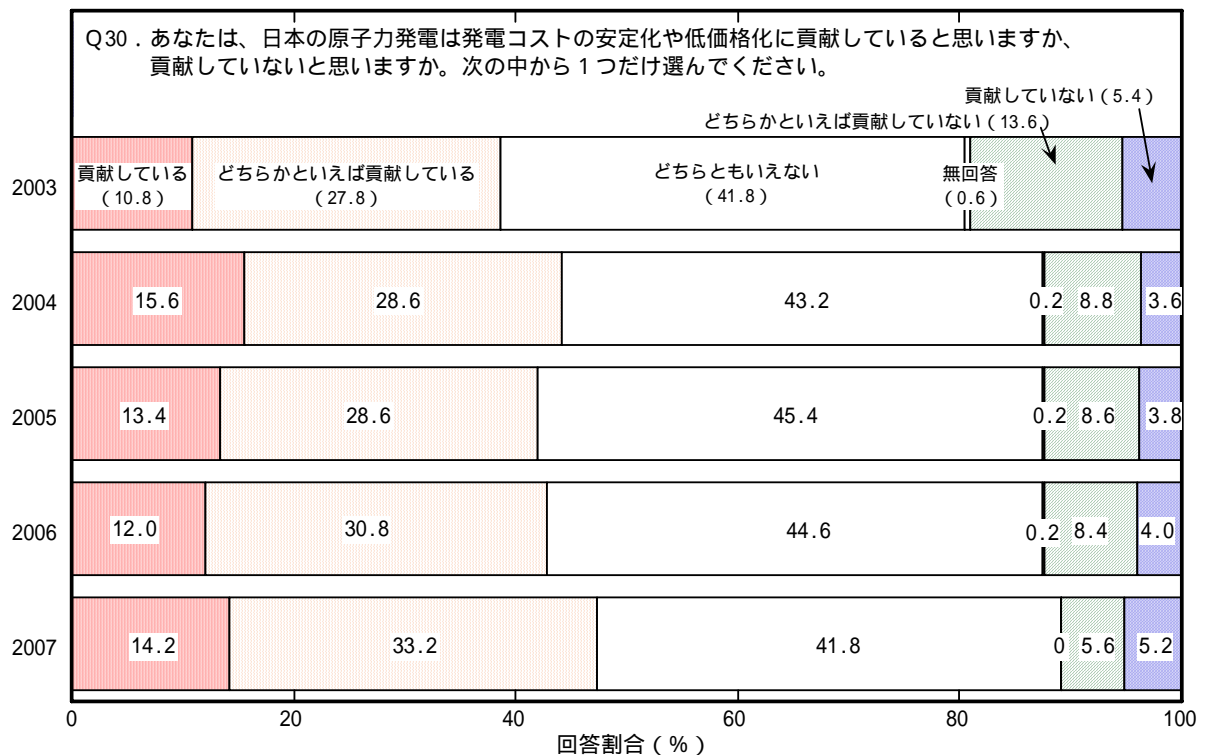


図3.1.33. 日本の原子力発電の発電コストの安定化や低価格化への貢献に関する意見 (Q30)

(2003～2007年/10月～11月/首都圏30km圏内)

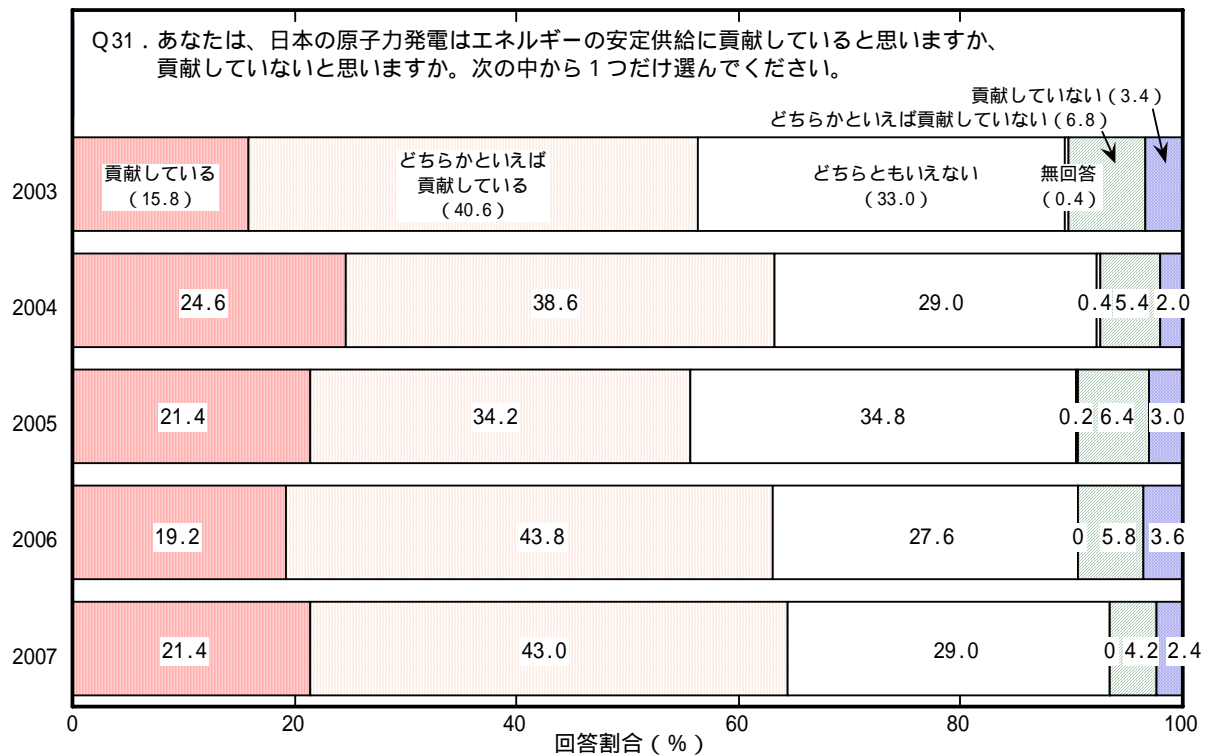


図3.1.34. 日本の原子力発電のエネルギーの安定供給への貢献に関する意見 (Q31)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

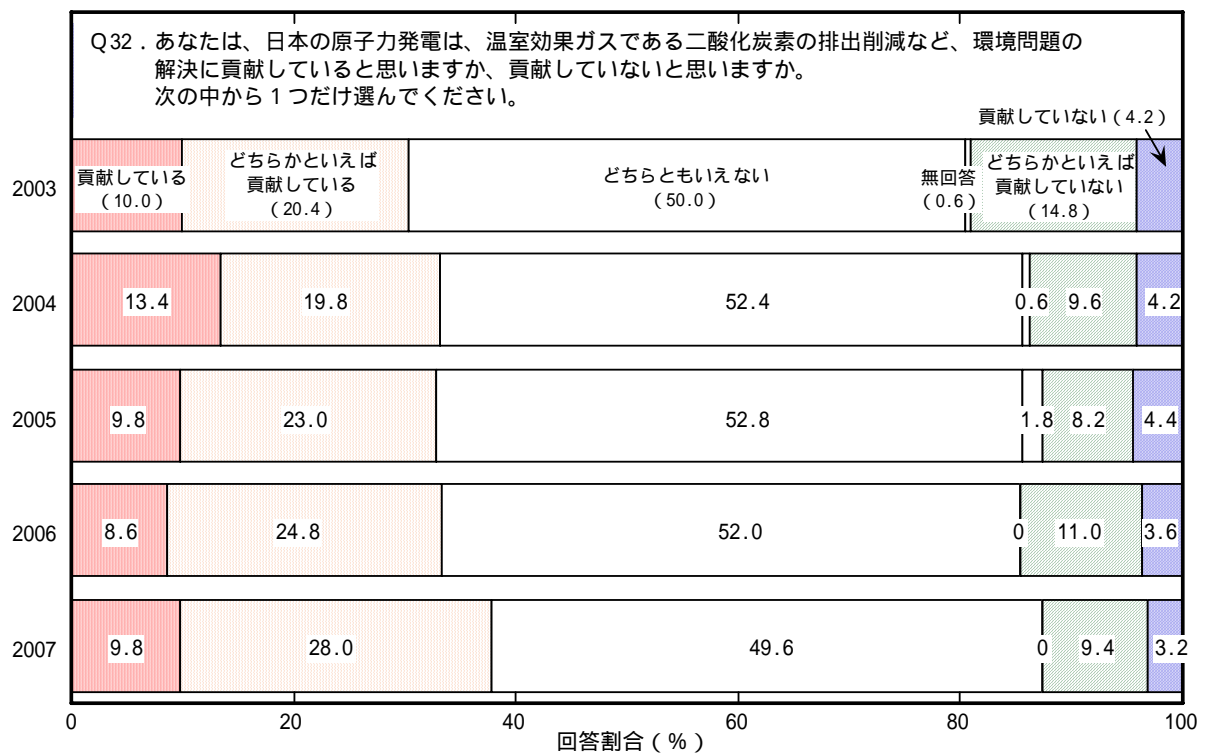


図3.1.35. 日本の原子力発電の環境問題の解決への貢献に関する意見 (Q32)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

18) 図3.1.36. 日本の原子力発電関係の技術水準の評価 (Q33)

日本の原子力発電関係の技術水準（研究、設計、製造、運転、保守など）は総合的にみて、世界の中で平均レベルかそれ以上と答える人がほとんどであり、平均レベルより下との回答は1割程度である。

総合的にみた日本の原子力発電関係の技術水準の評価には大きな変化はみられない。

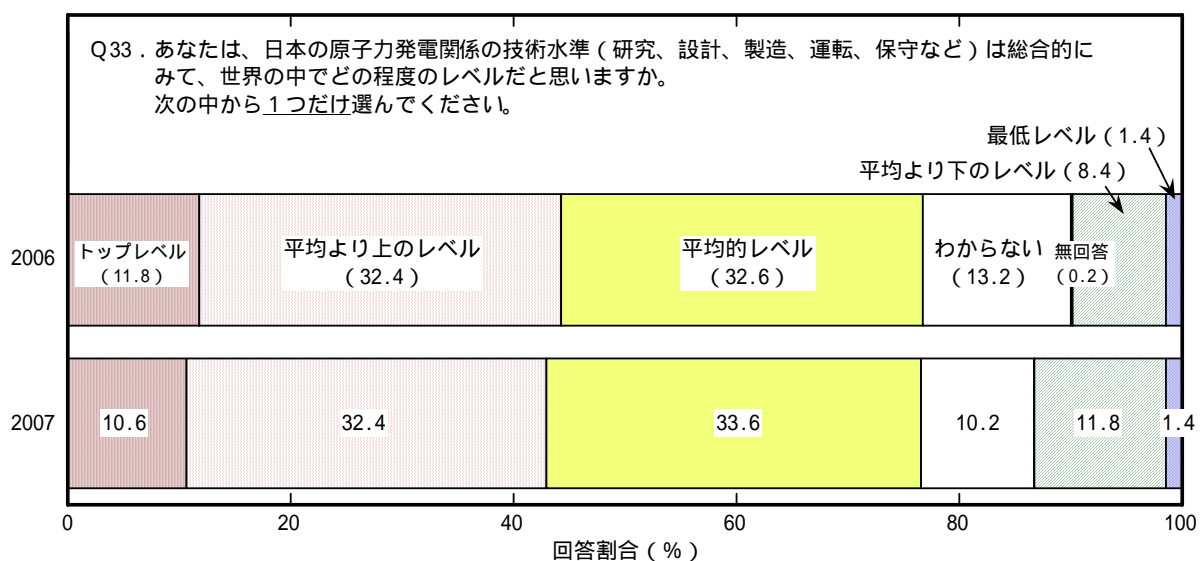


図3.1.36. 日本の原子力発電関係の技術水準の評価 (Q33)
(2006~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

19) 図3.1.37. 日本の原子力発電施設の事故イメージ (Q34)

日本の原子力発電施設の今後100年以内に起こりうる事故イメージを聞くと、[志望事故は起こりえない]から[死亡者数万人以上]まで回答が分散している。
 [わからない]が約3割であることも併せて考えると、回答者の事故イメージはさまざまであり、確定していないといえる。

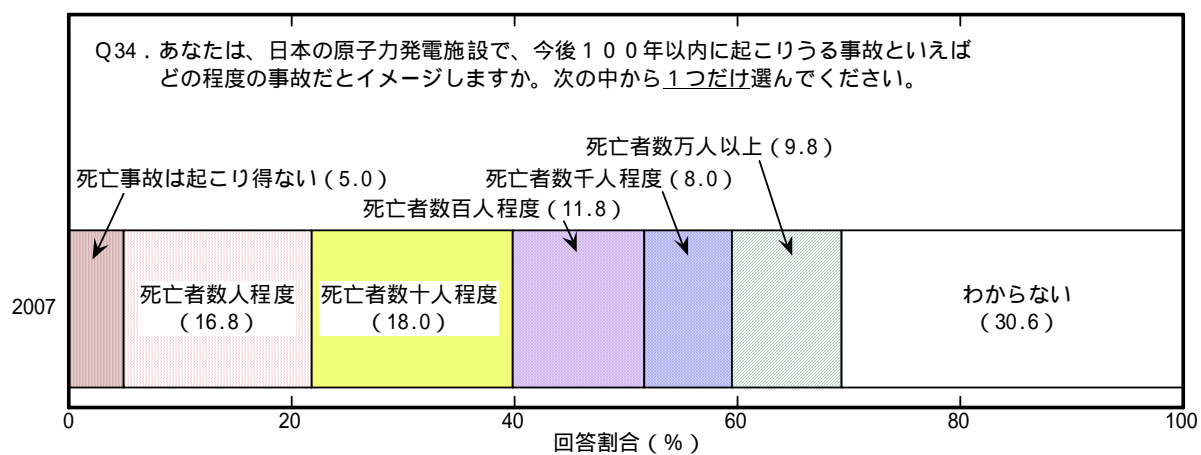


図3.1.37. 日本の原子力発電施設の事故イメージ (Q34)
 (2007年10月~11月/首都圏30km圏内)

20) 図3.1.38. 原子力発電関係情報の主な情報源と信用している情報源
(Q35 / 複数回答)

同様の質問であるQ6の[図3.1.6. ニュースや事件などの情報源]に比べると、[テレビ][新聞]は同程度の回答率であるが、積極的に情報を取りに行くタイプのメディアである[インターネット][家族、知人][書籍、雑誌]の回答率が低い。

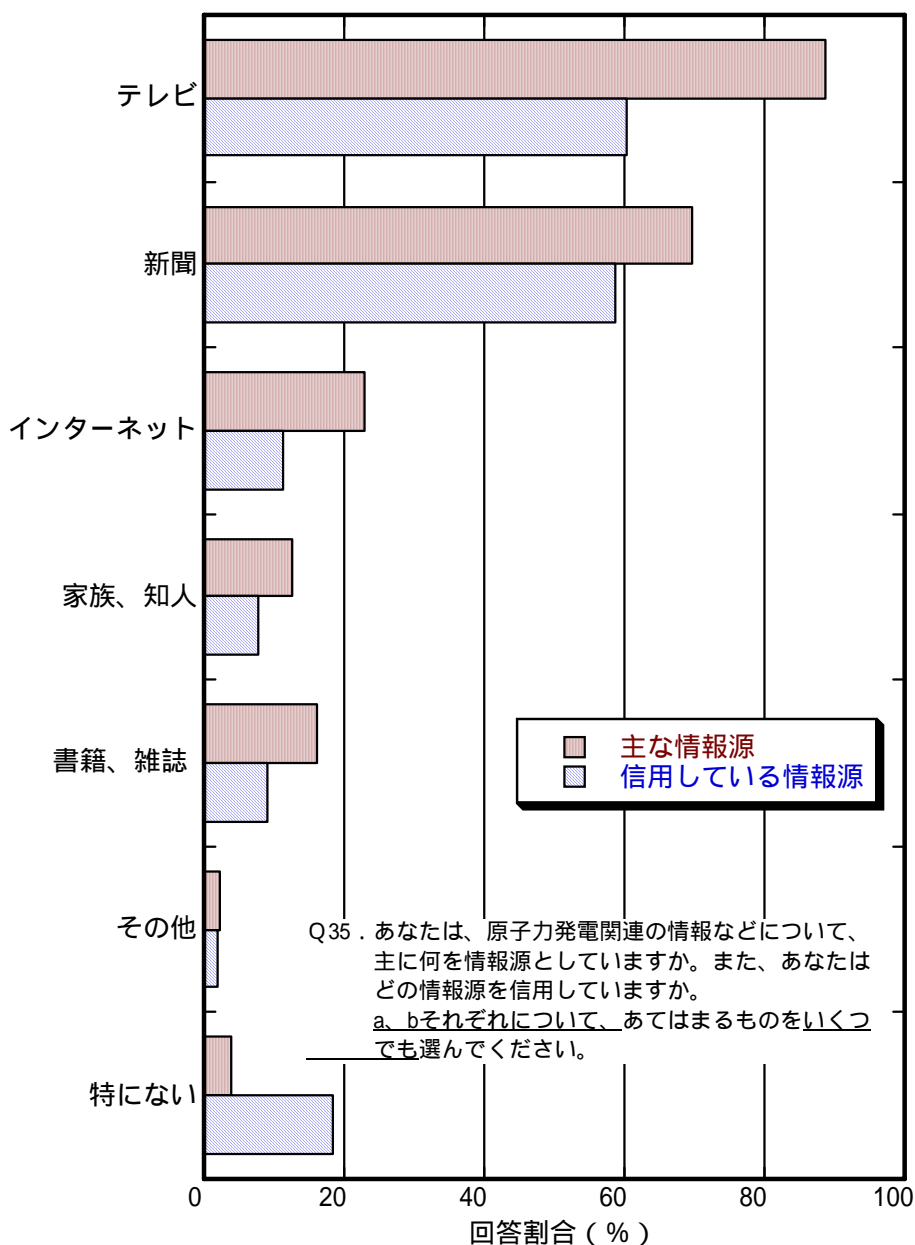


図3.1.38. 原子力発電関係情報の主な情報源と信用している情報源
(Q35 / 複数回答) (2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

21) 図3.1.39.新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する知識と関心(Q36、37)

この問題に対する知識と関心は高いとの回答である。

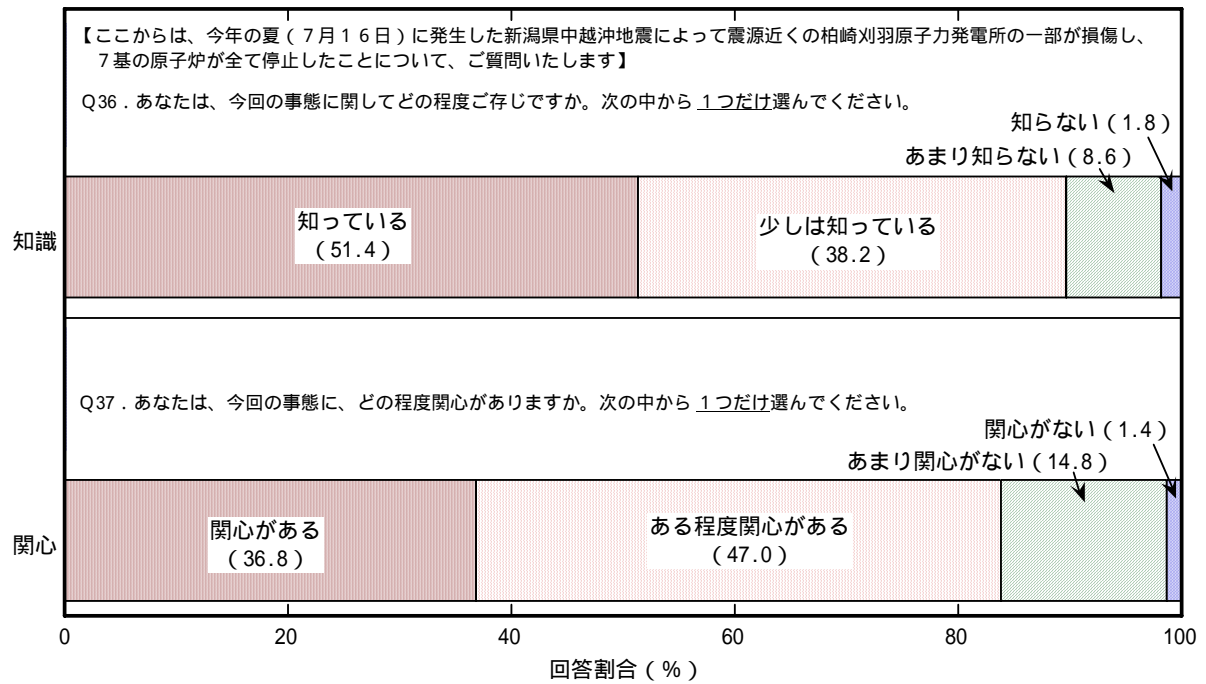


図3.1.39.新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する知識と関心(Q36、37)
(2007年10月~11月/首都圏30km圏内)

22) 図3.1.40.新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する印象
や考え (Q38 / 複数回答)

この件に関する印象や考えを聞いたところ、多くの意見はほぼ5割以下の回答割合となっており、2004年夏の関西電力美浜原子力発電所の配管破裂事故に対する同様な調査では6割～8割の回答割合の意見もあったことと比べても、特に強く特徴的な意見はないといえる。比較的冷静な対応であったと思われる。

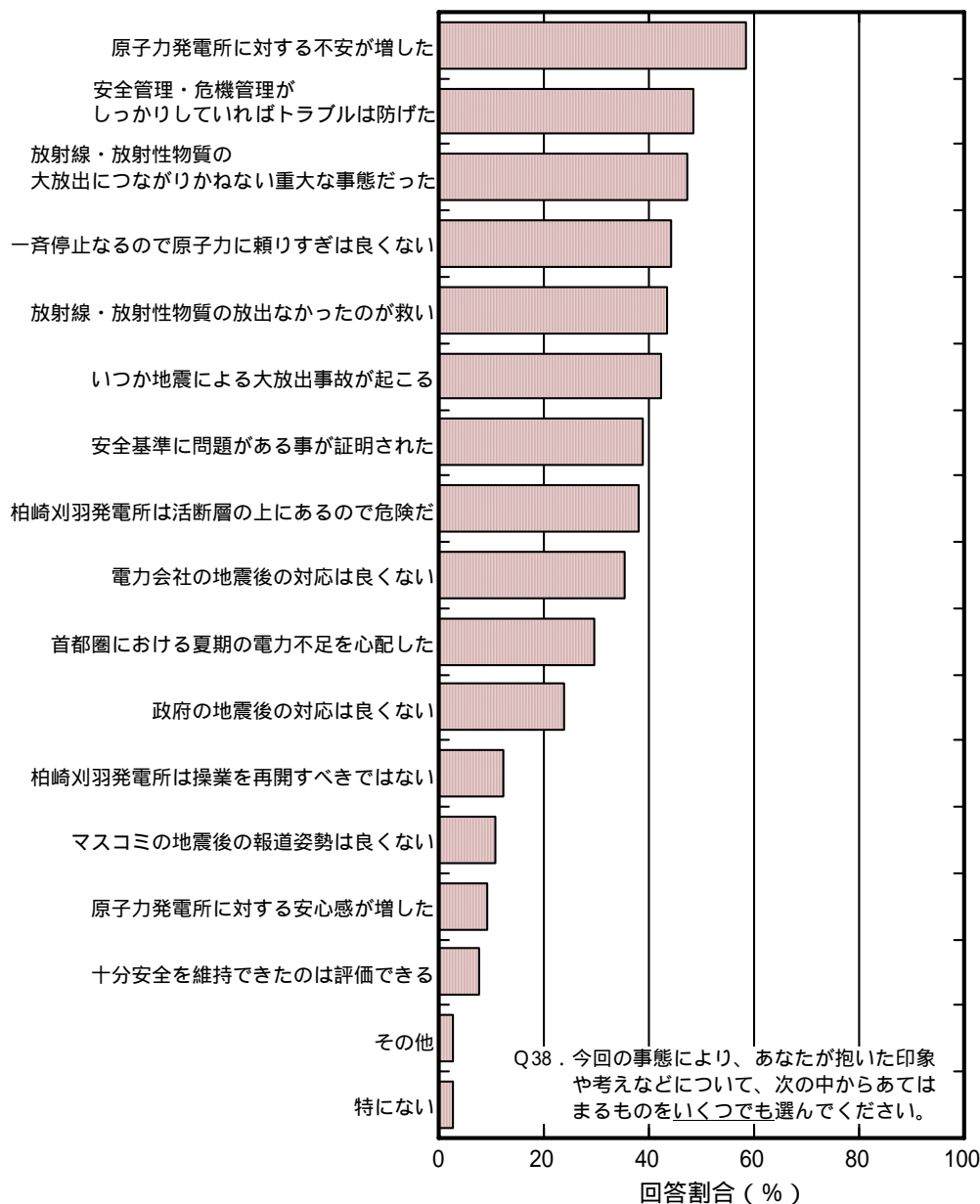


図3.1.40.新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する印象や考え
(Q38 / 複数回答)

(2007年10月～11月 / 首都圏30km 圏内)

23) 図3.1.41.新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する情報源 (Q39 / 複数回答)

この問題の情報源としては、同様の質問であるQ35の[図3.1.38.原子力発電関係情報の主な情報源と信用している情報源]と同様に[テレビ][新聞]が多く、[インターネット][家族、知人][書籍、雑誌]の回答率が低い。

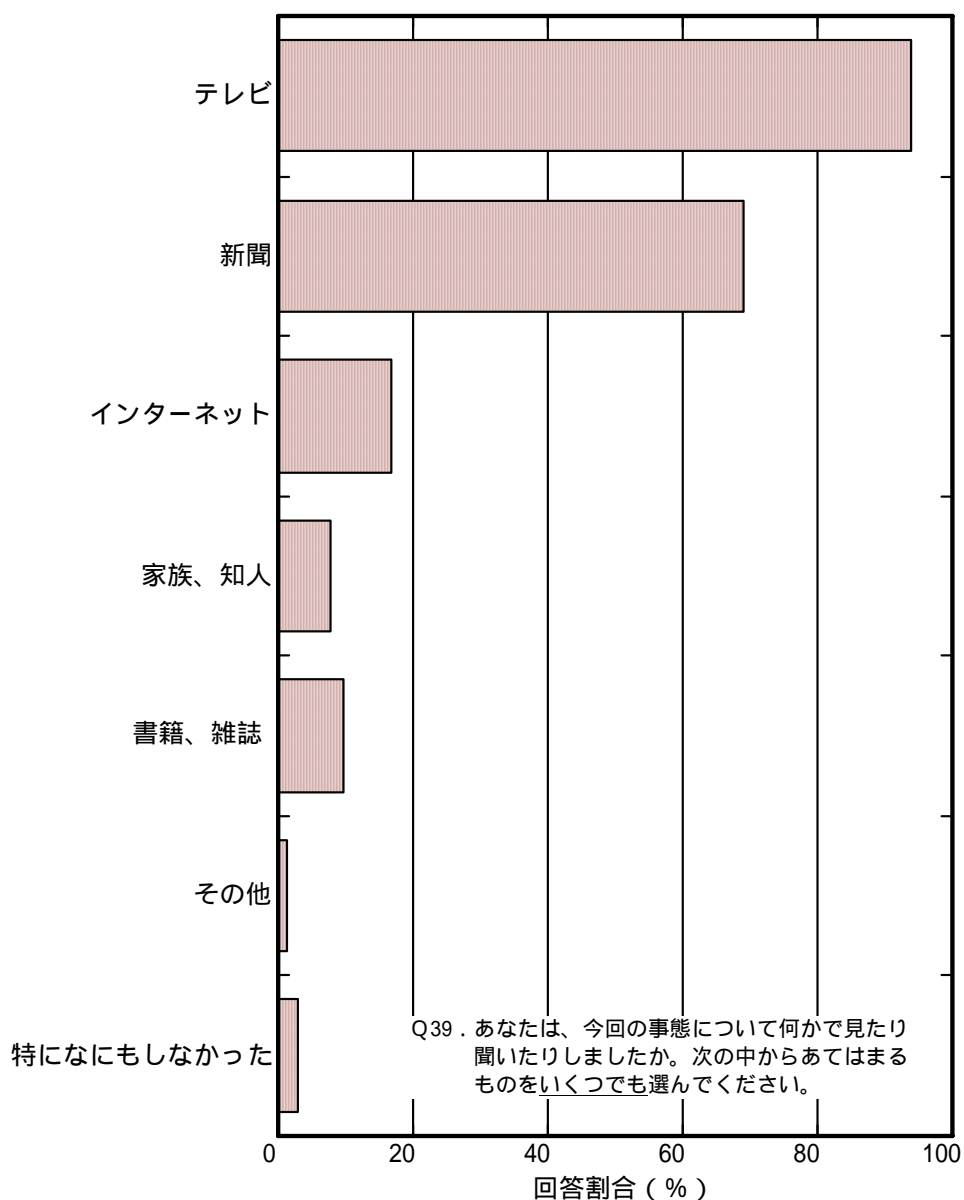


図3.1.41.新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する情報源 (Q39 / 複数回答) (2007年10月~11月 / 首都圏30km 圏内)

24) 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関するインターネットでの情報入手

図3.1.42-1. 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関するインターネットでの情報入手達成度 (Q40-1)

図3.1.42-2. 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関してアクセスしたウェブサイト (Q40-2 / 複数回答)

インターネットでこの問題の情報入手した人の多くがある程度も含めて「知りたいことが入手できた」としている。

また、アクセスしたウェブサイトとしては、「マスコミ・報道関係」「ポータルサイト」「東京電力」のサイトが多く、他は少ない。

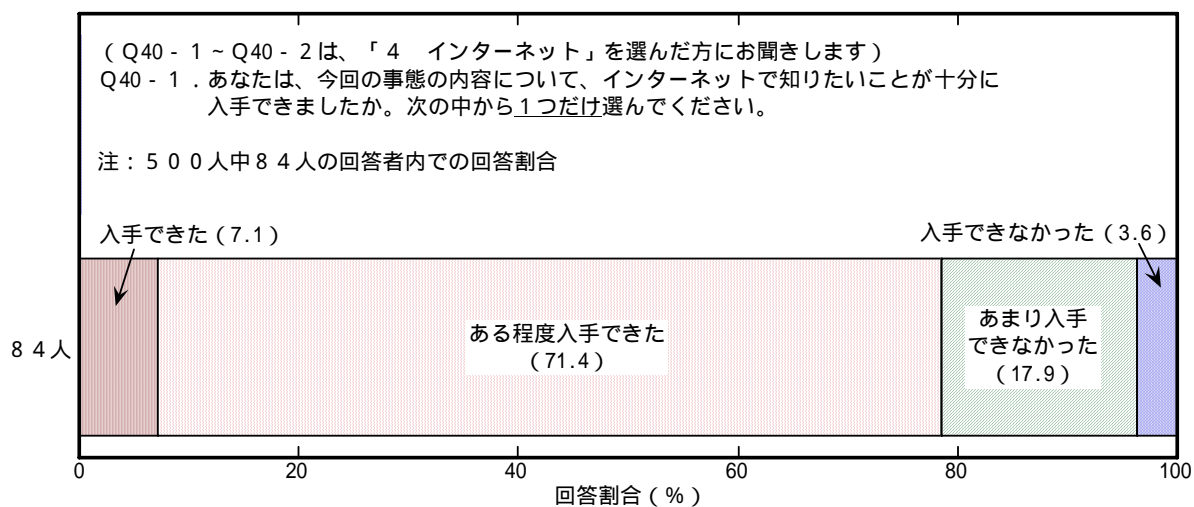


図3.1.42-1. 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関するインターネットでの情報入手達成度 (Q40-1)
 (2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

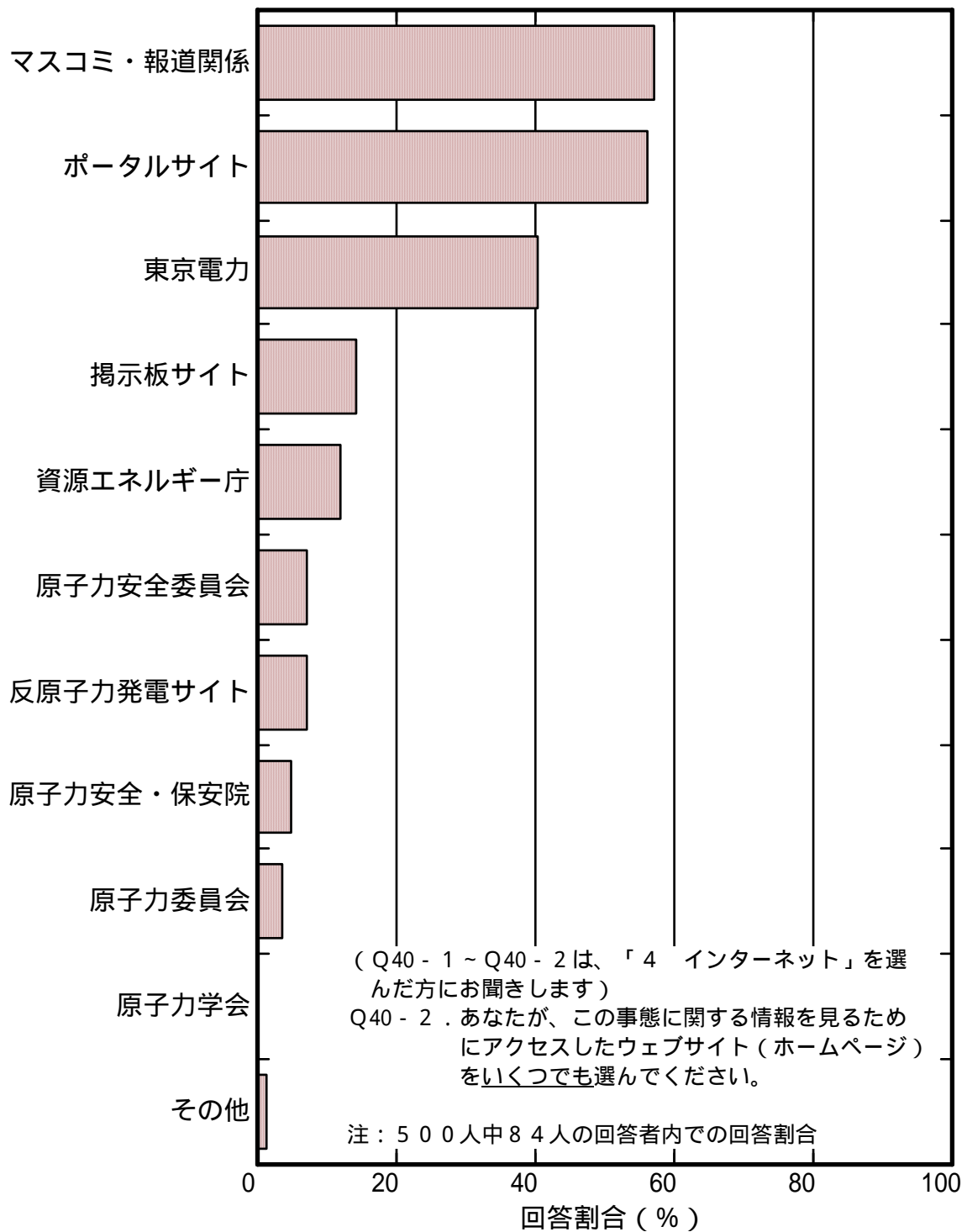


図3 . 1 . 4 2 - 2 . 新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関してアクセスしたウェブサイト (Q 4 0 . 2 / 複数回答)
 (2 0 0 7 年 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

3.2. クロス集計結果

[この節の目的]

この節では、性別などでグループ分けしてクロス集計を行い、各グループ等にごのような特徴があるのかを分析し、公衆の意識構造を探る。

[この節の結果]

(1) Q6：20代～30代、男性はインターネットを情報源にする割合が強い

男性、20代～30代はインターネットを情報源とする割合が高い。特に、20代～30代のインターネットの割合は新聞より多い。

男性、20代～30代の人々にとってインターネットの影響力は大きいものと思われる。

女性は家族、知人からの情報が男性に比べ多い。

(2) 女性の原子力発電に対する意識に肯定的変化がみられ、男女差は縮小の傾向がみられる

Q7：前年までの調査では、女性は男性に比べ、全般的にみて不安感が強く、[原子力発電の事故]もそうであったが、今年は[原子力発電の事故]の回答率が男性とほぼ同じになっている。

Q22：女性は原子力発電に関心が低いですが、2007年の調査では、男女共に原子力発電についての関心が高くなっている。

Q23：原子力発電の利用 - 廃止の意見について、女性は男性に比べ若干否定的であり、[どちらともいえない]との中間意見が多い。

[廃止]意見は、男女共に減少傾向がみられ、[利用]意見は、女性は若干増加傾向がみられる。

Q24：原子力発電の有用感に関する意見では、女性の方が男性に比べ(どちらともいえない、無回答)との中間意見が多く、その分、肯定的意見(有用)が少ない。

[有用]意見は、男性はあまり変化がないが、女性は増加傾向がみられる。

Q25：原子力発電の安心感に関しては、従来、大きな変化はみられず、女性の方が男性に比べ安心感が少なく、不安感が多いという結果を示していた。

しかし、2007年では、男性に不安意見の増加がみられる。

おそらくは、2007年に発生した過去情報隠蔽の問題や新潟県中越沖地震の影響と思われる。

男性のみ不安意見の増加がみられた理由は不明である。

Q 2 6 : 原子力発電の制御可能感は、男女共に大きな変化はみられないが、若干、男性は否定的方向に、女性は肯定的方向に変化する傾向がみられる。そのため、2 0 0 7 年の調査では男女差はあまりみられない。

まだ、明確に断言できないが、女性は原子力発電に肯定的になりつつあるようであり、男女差は縮小の傾向がみられる。

(3) 原子力発電の利用・廃止の態度決定要因

Q 2 2 ~ 3 2 : 半数以上の人々は原子力発電に有用感または不安感を持つ。

[利用派] になるには有用感を持つことがほぼ必要条件であり、安心感の有無はあまり関係ない。

無用感を持つことは原子力発電の [廃止派] となることとほぼ同義であるが、不安感を持つことがただちに原子力発電の [廃止派] となるわけではない。

原子力発電に [関心がある] と答える人は [関心がない] と答える人に比べ、原子力発電を [利用] と答える割合も [廃止] と答える割合も多くなるが、 [利用] と答える割合の方がより多くなる。関心を持てば、より多くの人々が原子力発電の [利用派] になるものと思われる。

また、原子力発電に [関心がある] と答える人は [関心がない] と答える人に比べ、原子力発電を [安心、制御可能] と答える割合も [不安、制御不能] と答える割合も多くなるが、有用感に関しては [有用] と答える割合が特に多くなる。

原子力発電への関心 有用 利用 (関心度 UP が有用感 UP に繋がり、それが利用意見に繋がる)、となるものと思われる。

2 0 0 7 年は原子力発電への関心が高まっており (図 3 . 1 . 2 2)、それが原子力発電に対する好意的方向への変化に影響を与えたと思われる。

相関関係

- 1) [原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q 2 3)] には [有用感 (Q 2 4)] と [安心感 (Q 2 5)] [制御可能感 (Q 2 6)] などが関係する。この中では [有用感 (Q 2 4)] との関係が一番強い。
- 2) [原子力発電の利用 - 廃止の意見 (Q 2 3)] には [有用感 (Q 2 4)] と強い関係があるが、具体的な有用感の有無である [供給安定への貢献感] [コスト安定への貢献感] [環境問題への貢献感] との関係はそれほど大きくない。

- 3) [安心感 (Q25)] には [制御可能感 (Q26)] と [運営の適切感 (Q27)] [情報公開感 (Q28)] [廃棄物処理可能感 (Q29)] が関係する。原子力発電は適切に運営されれば基本的に安全なものであるという認識と、実際に適切に運営されているとの信頼感、さらには日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識、情報が公開されているという認識が安心感を生み出す大きな要因となっている。
- 4) [運営の適切感 (Q27)] には [情報公開感 (Q28)] [廃棄物処理可能感 (Q29)] と関係がある。情報公開されているとの認識と、日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識が、運営への信頼感に繋がり、さらにそれが原子力発電への安心感に繋がる、といえる。
- 5) [制御可能感 (Q28)] には [運営の適切感 (Q27)] [廃棄物処理可能感 (Q29)] と関係がある。日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識が、運営への信頼感、原子力発電への制御可能感 (つまり安全感) に繋がる、といえる。

[集計別の結果]

(1) 性別・年代別にみた意見

1) 図 3 . 2 . 1 . 性別にみた特に関心のある問題や事柄 (Q 4 / 複数回答)

男性は [経済や景気動向] [雇用や労働環境] [国内の政治問題] [科学技術] の回答が女性に比べて多く、女性は [健康や医療] [環境問題] [少子高齢化問題] [文化や流行] の回答が男性に比べて多い。

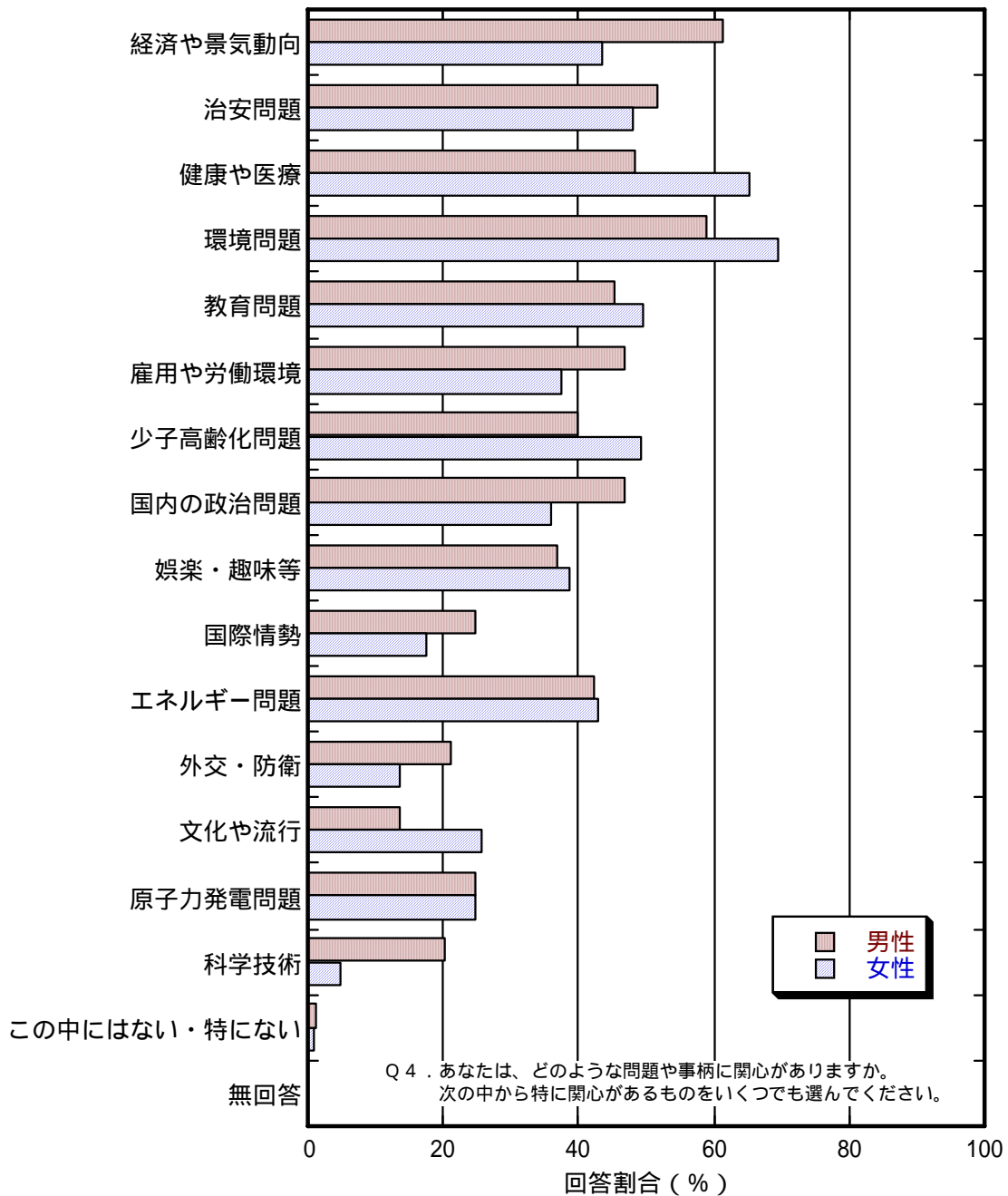


図 3 . 2 . 1 . 性別にみた特に関心のある問題や事柄 (Q 4 / 複数回答)

(2 0 0 7 年 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

2) 図3.2.2-1. 性別・年代別にみたニュースや事件などの情報源 (Q6 / 複数回答)

図3.2.2-2. 性別・年代別にみたニュースや事件などの信用している情報源 (Q6 / 複数回答)

男性、20代~30代はインターネットを情報源とする割合が高い。特に、20代~30代のインターネットの割合は新聞より多い。

男性、20代~30代の人々にとってインターネットの影響力は大きいものと思われる。女性は家族、知人からの情報が男性に比べ多い。

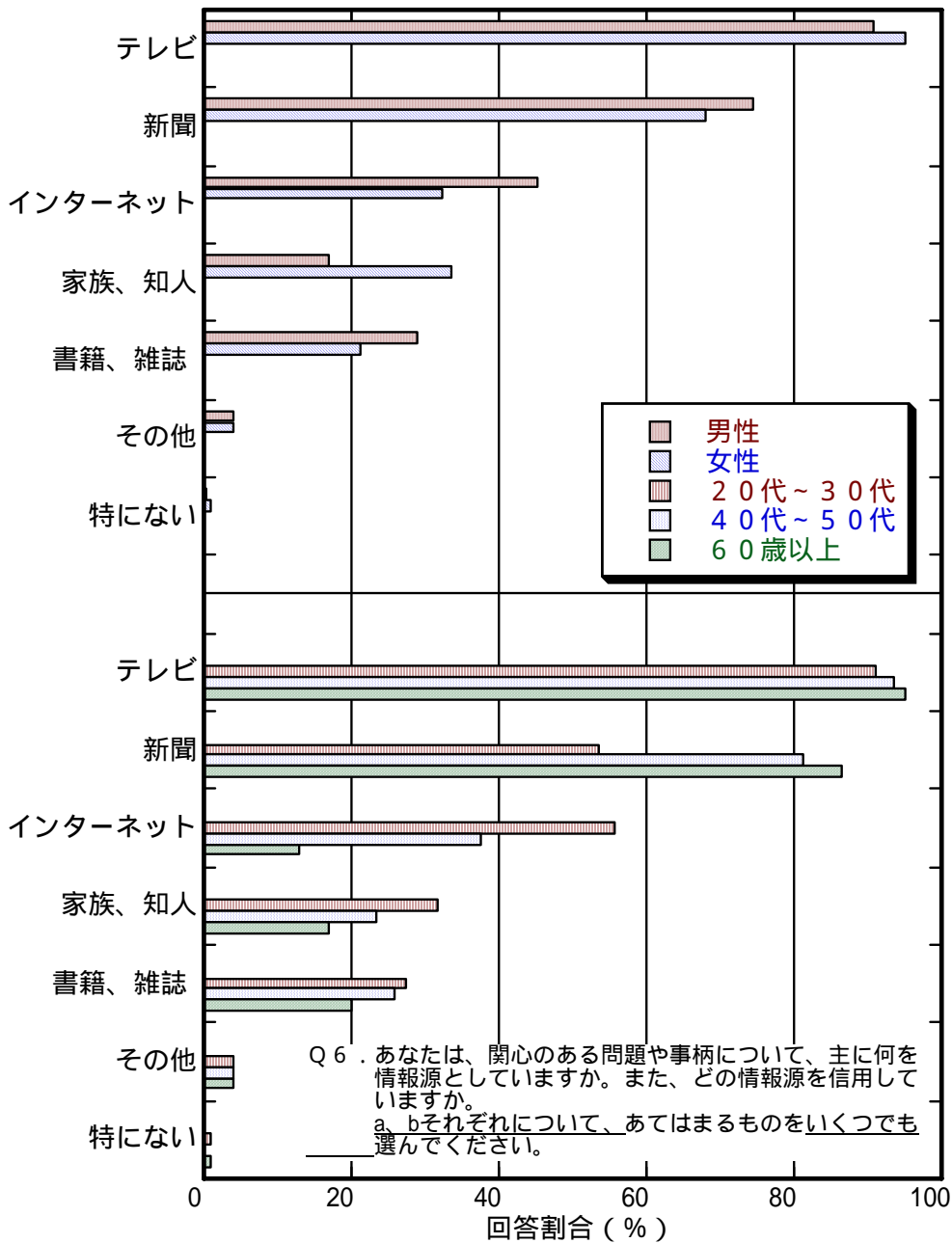


図3.2.2-1. 性別・年代別にみたニュースや事件などの情報源 (Q6 / 複数回答)

(2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

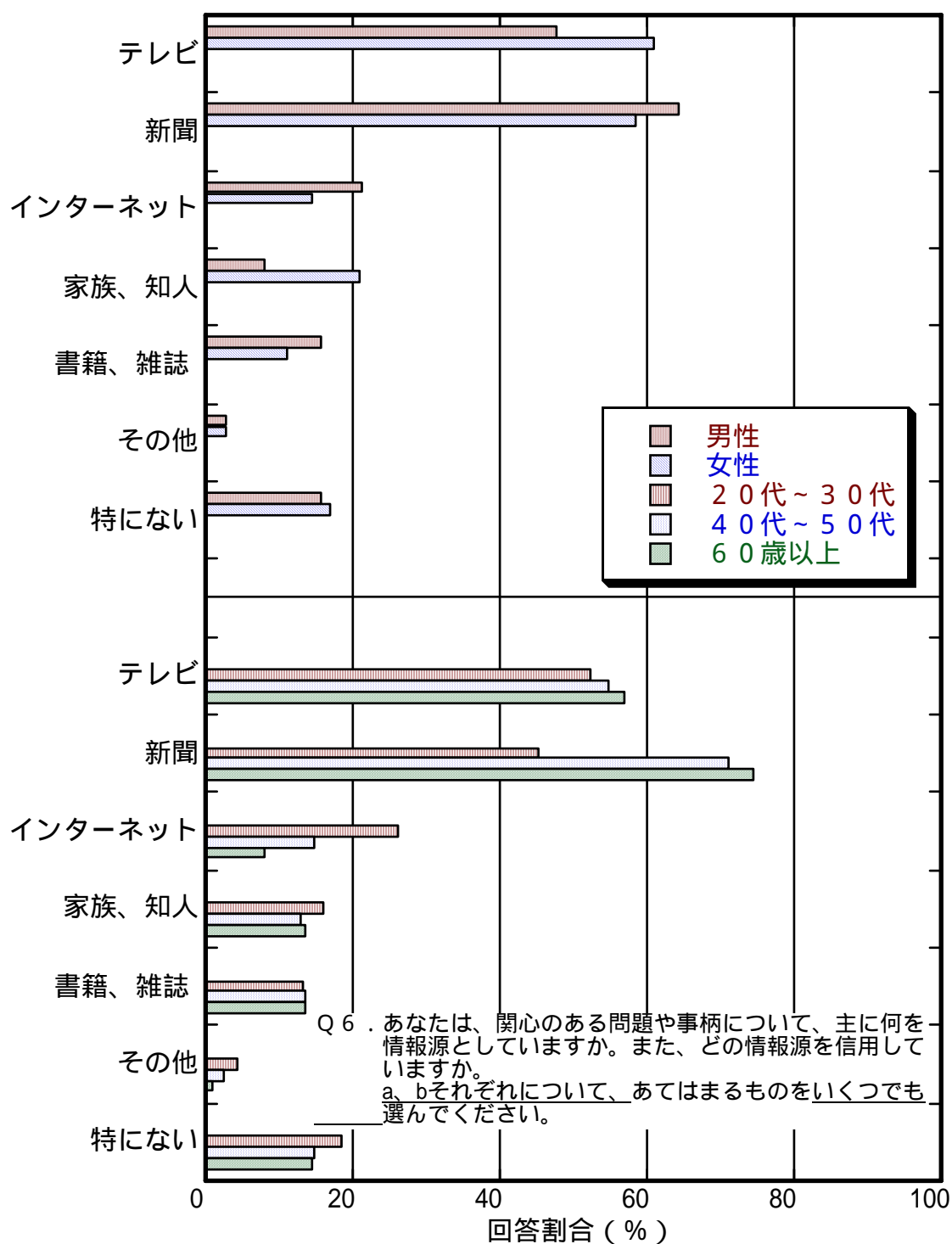


図3.2.2-2. 性別・年代別にみたニュースや事件などの信用している情報源 (Q6 / 複数回答) (2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

3) 図3.2.3. 性別にみたふだんの日常生活の中で特に強く不安を感じるもの
(Q7 / 複数回答)

前年までの調査では、女性は男性に比べ、全般的にみて不安感が強く、[原子力発電の事故]もそうであったが、今年は[原子力発電の事故]の回答率が男性とほぼ同じになっている。

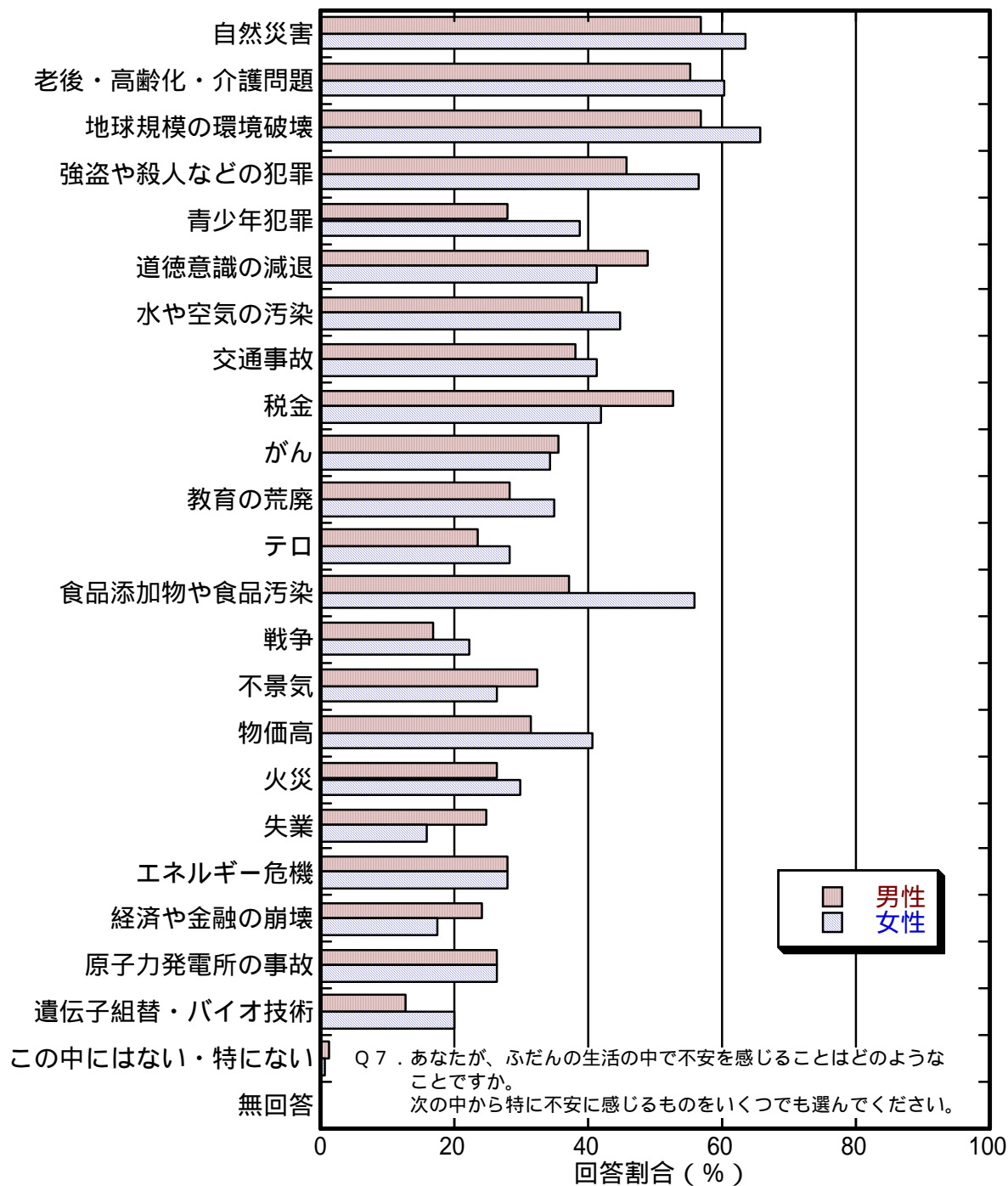


図3.2.3. 性別にみたふだんの日常生活の中で特に強く不安を感じるもの
(Q7 / 複数回答) (2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

4) 図3.2.4. 性別にみた原子力発電についての関心度の推移 (Q22)

2007年の調査では、男女共に原子力発電についての関心が高くなっている。

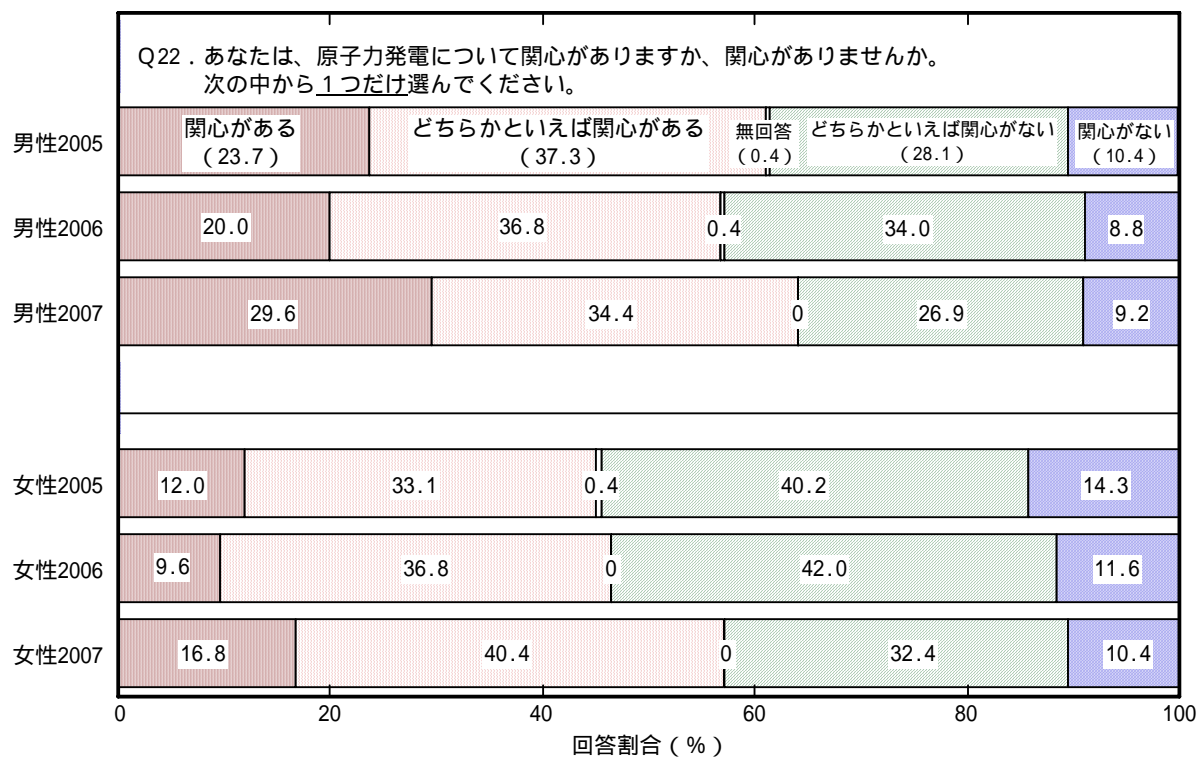


図3.2.4. 性別にみた原子力発電についての関心度の推移 (Q22)

(2005~2007年 / 10月~11月 / 首都圏30km圏内)

5) 図3.2.5. 性別にみた原子力発電の利用・廃止の意見の推移 (Q23)

原子力発電の利用 - 廃止の意見について、女性は男性に比べ若干否定的である。また、女性は男性に比べ [どちらともいえない] との中間意見が多い。

[廃止] 意見は、男女共に減少傾向がみられる。[利用] 意見は、男性はあまり変化がなさそうであるが、女性は若干増加傾向がみられる。

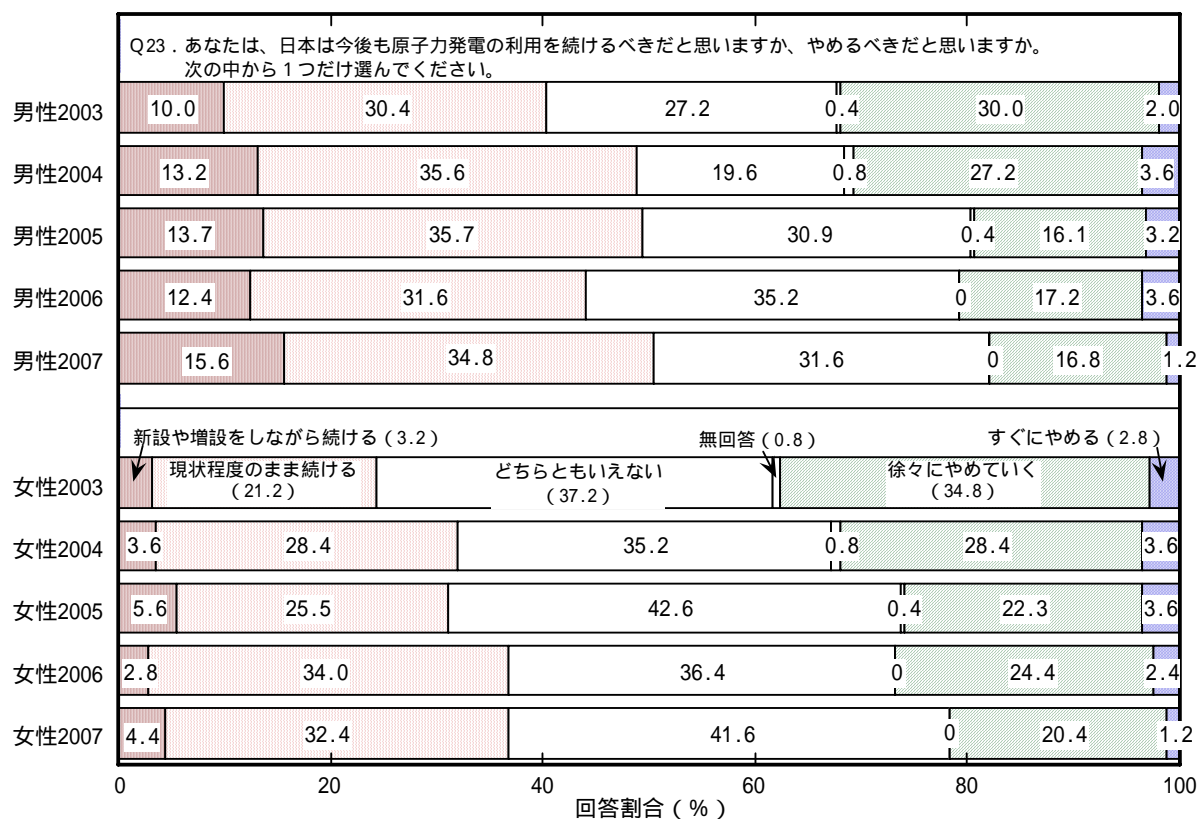


図3.2.5. 性別にみた原子力発電の利用・廃止の意見の推移 (Q23)
(2003~2007年 / 10月~11月 / 首都圏 30km 圏内)

6) 図3.2.6. 性別にみた原子力発電の有用感の推移 (Q24)

[有用]意見に男女差がみられる。女性の方が男性に比べ中間意見が多く、その分、肯定的意見(有用)が少ない。

[有用]意見は、男性はあまり変化がないが、女性は増加傾向がみられる。

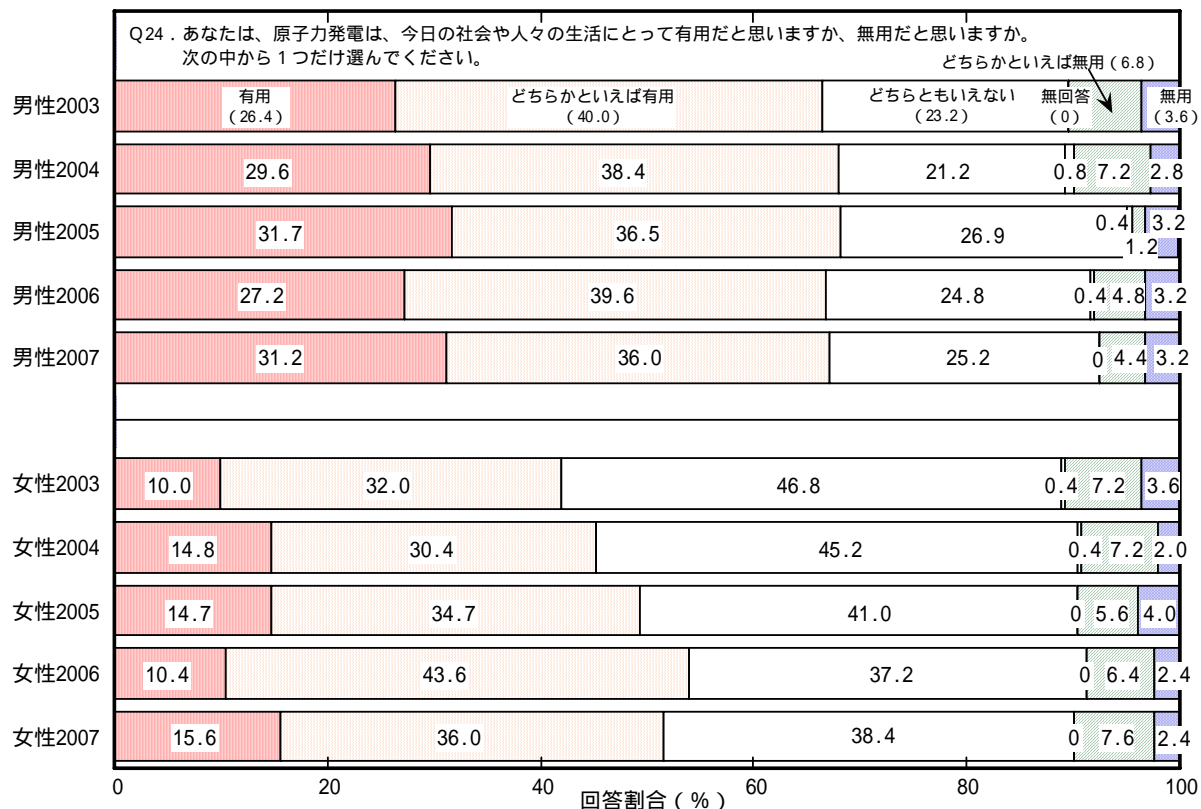


図3.2.6. 性別にみた原子力発電の有用感の推移 (Q24)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

7) 図3.2.7. 性別にみた原子力発電の安心感の推移 (Q25)

安心感に関しては、従来、大きな変化はみられず、女性の方が男性に比べ安心が少なく、不安感が多いという結果を示していた。

しかし、2007年では、男性に不安意見の増加がみられる。

おそらくは、2007年に発生した過去情報隠蔽の問題や新潟県中越沖地震の影響と思われる。

男性のみ不安意見の増加がみられた理由は不明である。

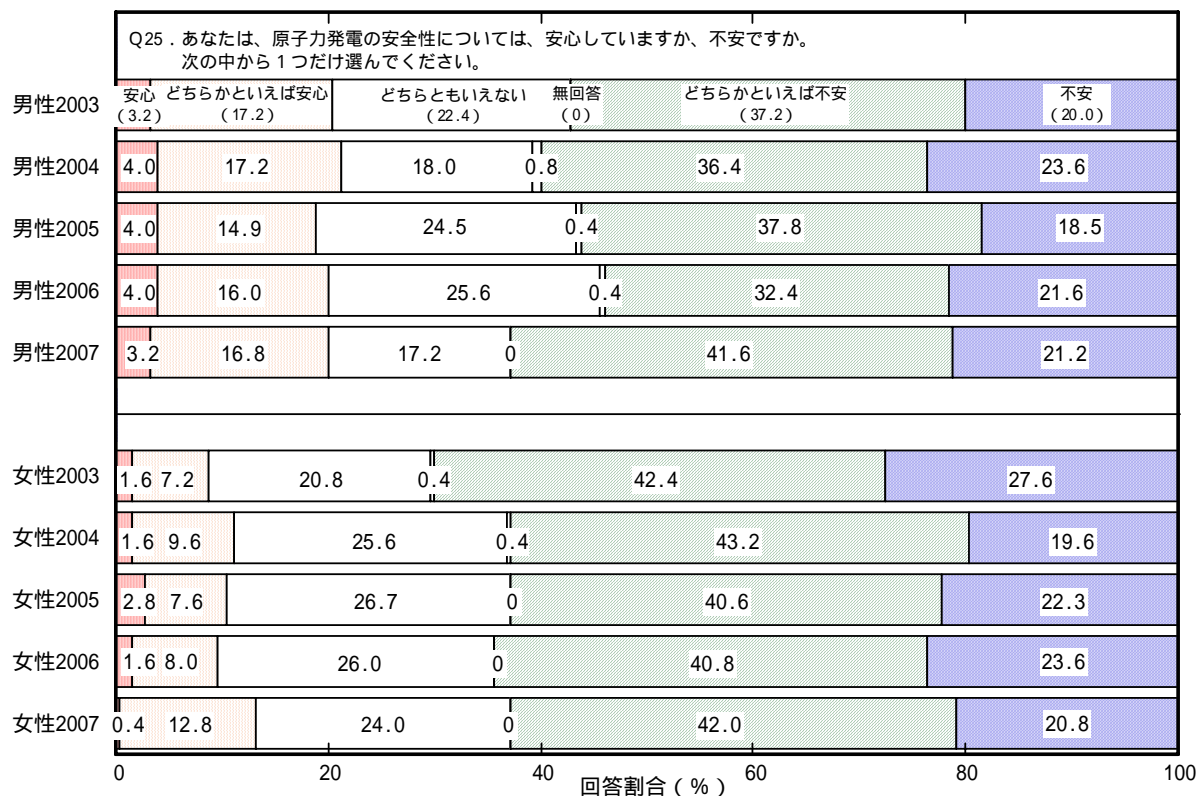


図3.2.7. 性別にみた原子力発電の安心感の推移 (Q25)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

8) 図3.2.8. 性別にみた原子力発電の制御可能感の推移 (Q26)

男女共に、制御可能感に大きな変化はみられないが、若干、男性は否定的方向に、女性は肯定的方向に変化する傾向がみられる。そのため、2007年の調査では男女差はあまりみられない。

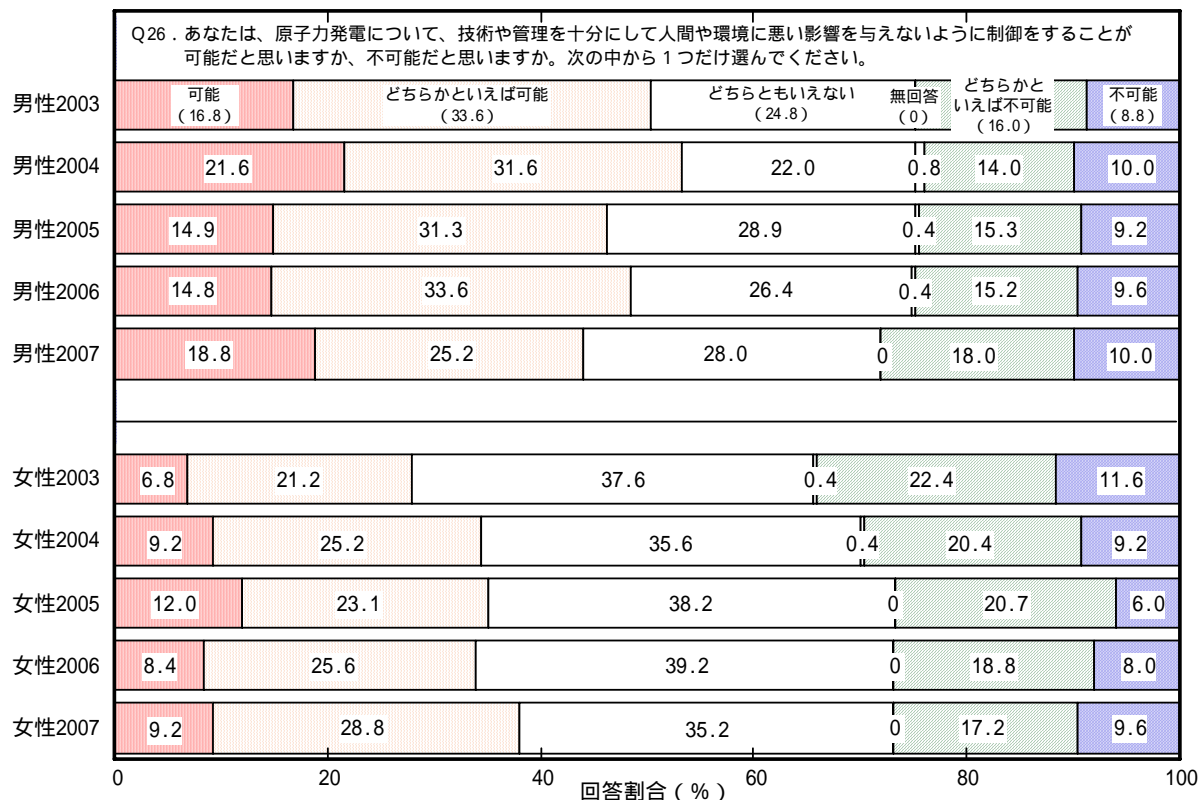


図3.2.8. 性別にみた原子力発電の制御可能感の推移 (Q26)
(2003~2007年/10月~11月/首都圏30km圏内)

(3) 有用感・安心感・制御可能感別にみた意見

1) 図3.2.9. 原子力発電の有用感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見
(Q 2 3)

原子力発電を[無用]と答える人の数は少ないが、その殆どが[廃止]意見である。原子力発電を[有用]と答える人はその多くが[利用]意見である。[利用]意見を持つには有用感を持つことがほぼ必要条件であることが分かる。

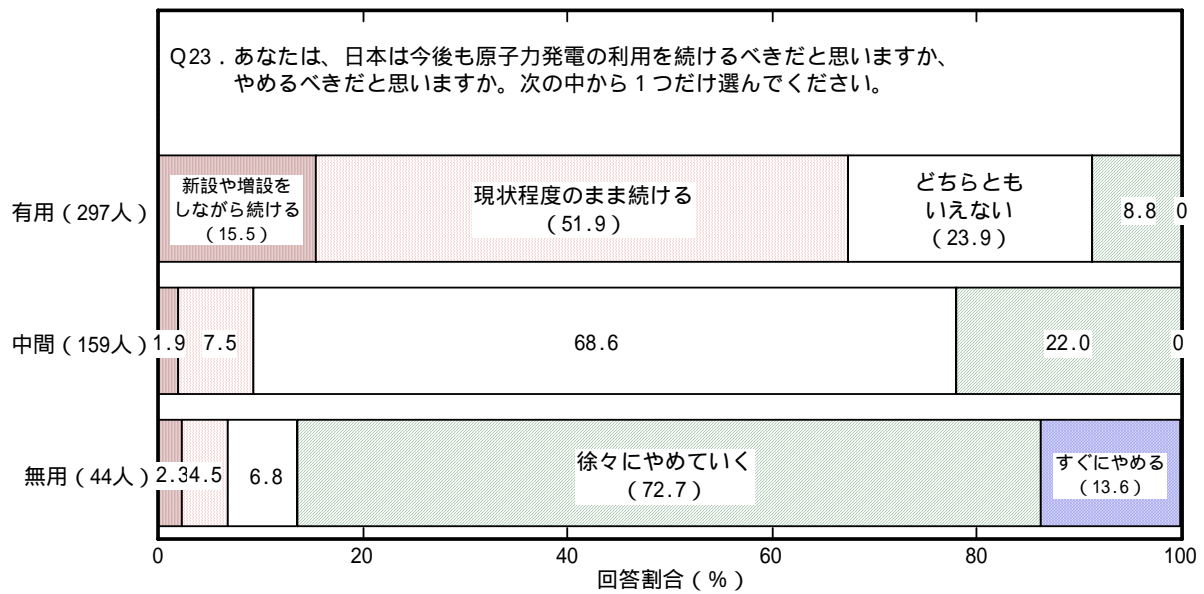


図3.2.9. 原子力発電の有用感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q 2 3)
(2 0 0 7 年 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

2) 図3.2.10. 原子力発電の安心感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23)

原子力発電を「安心」と答える人はその殆どが「利用」意見である。安心感を持つことは利用派になりやすくなる要因ではあるが、安心感を持つ人々の割合は小さい。また、原子力発電を「不安」と答える人の「利用」意見と「廃止」意見は同程度である。不安感を持つというだけで廃止派となる訳ではない。

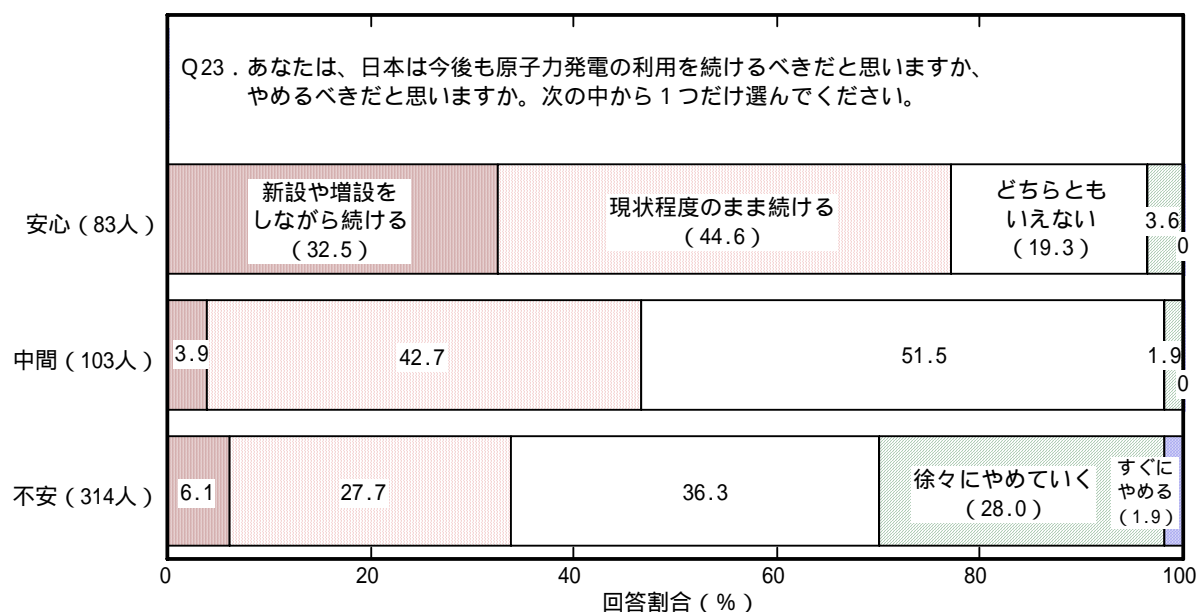


図3.2.10. 原子力発電の安心感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23)
(2007年10月～11月 / 首都圏30km圏内)

3) 図3.2.11. 原子力発電の制御可能感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23)

原子力発電を「制御可能」と答える人はその殆どが「利用」意見である。原子力発電を「制御不可能」と答える人の「廃止」意見は多いが、「利用」意見も若干ある。

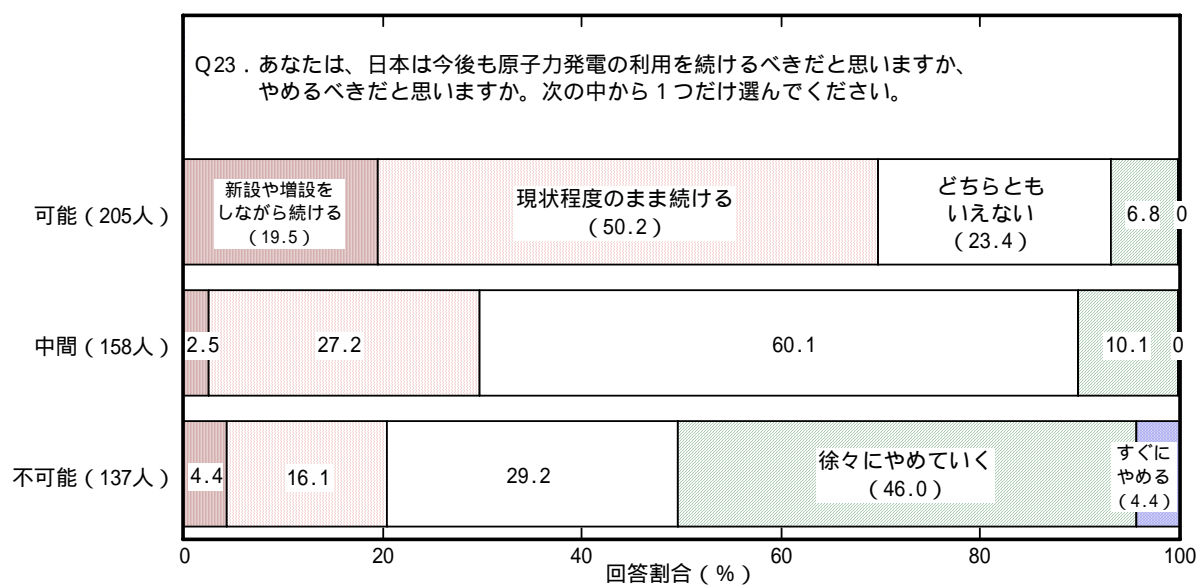


図3.2.11. 原子力発電の制御可能感別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23) (2007年10月～11月/首都圏30km圏内)

(4) 原子力発電の関心度別にみた意見

1) 図3.2.12. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23)

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、原子力発電を「利用」と答える割合が多くなる。

関心を持てば、「どちらともいえない」人が減少し、より多くの人々が原子力発電の利用意見を持つようになるものと思われる。

2007年は原子力発電への関心が高まっており(図3.1.22)、それが原子力発電に対する好意的方向への変化に影響を与えたと思われる。

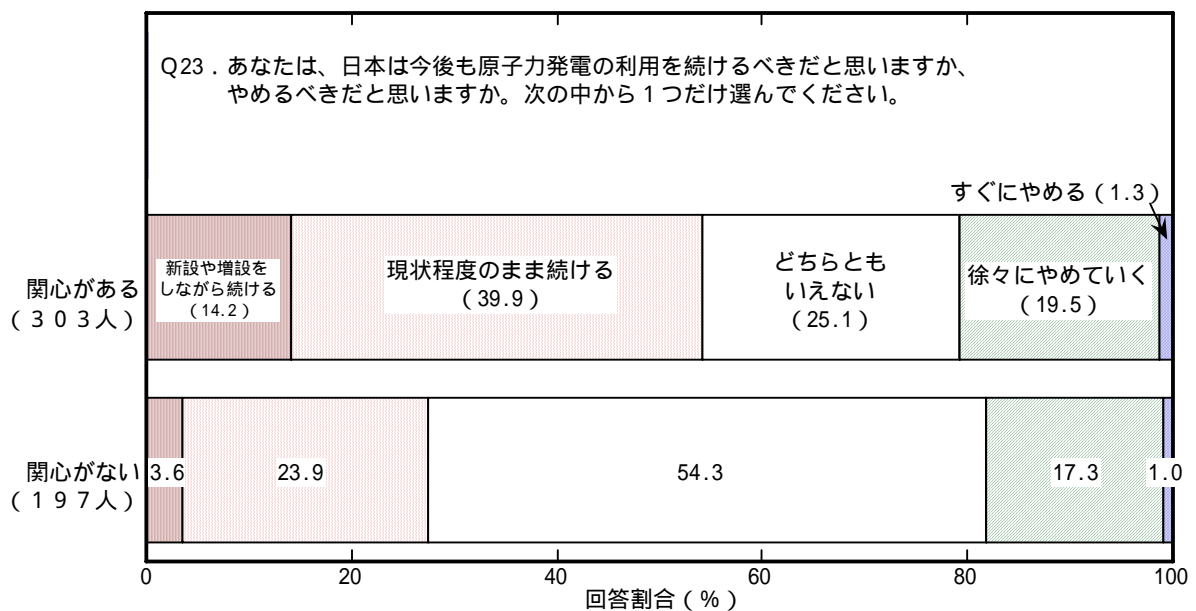


図3.2.12. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電の利用・廃止の意見 (Q23) (2007年10月~11月/首都圏30km圏内)

2) 図3.2.13. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電の有用感、安心感、制御可能感 (Q24、Q25、Q26)

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、原子力発電を「安心」と答える割合も「不安」と答える割合も多くなるが、有用感には「有用」と答える割合が特に多くなっている。

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、原子力発電を「利用」と答える割合の方がより多くなっているが、その要因は、関心があれば、原子力発電を「有用」と思うためと推察される。

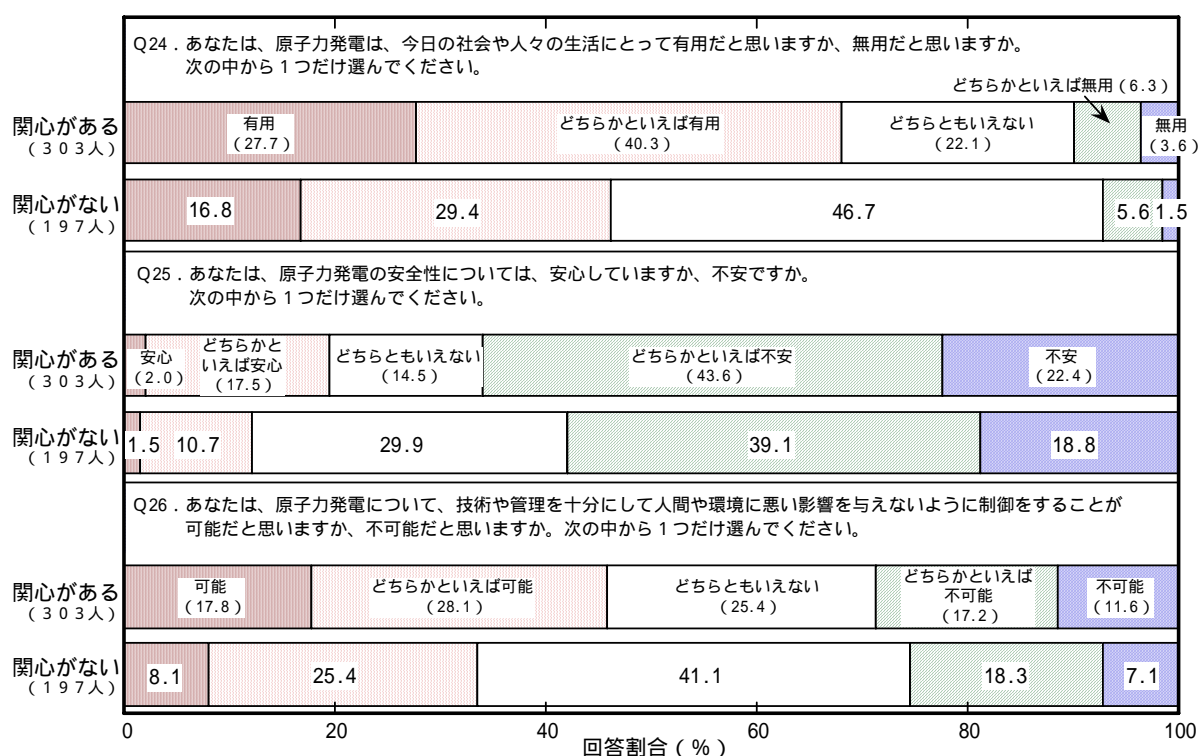


図3.2.13. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電の有用感、安心感、制御可能感 (Q24、Q25、Q26)
(2007年10月～11月/首都圏30km圏内)

3) 図3.2.14. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電の各有用要因の貢献感 (Q30、Q31、Q32)

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、原子力発電を「利用」と答える割合の方がより多くなるが(図3.2.13)、有用の中身をさらに詳しくみると、各有用要因でも、同様の結果となっている。

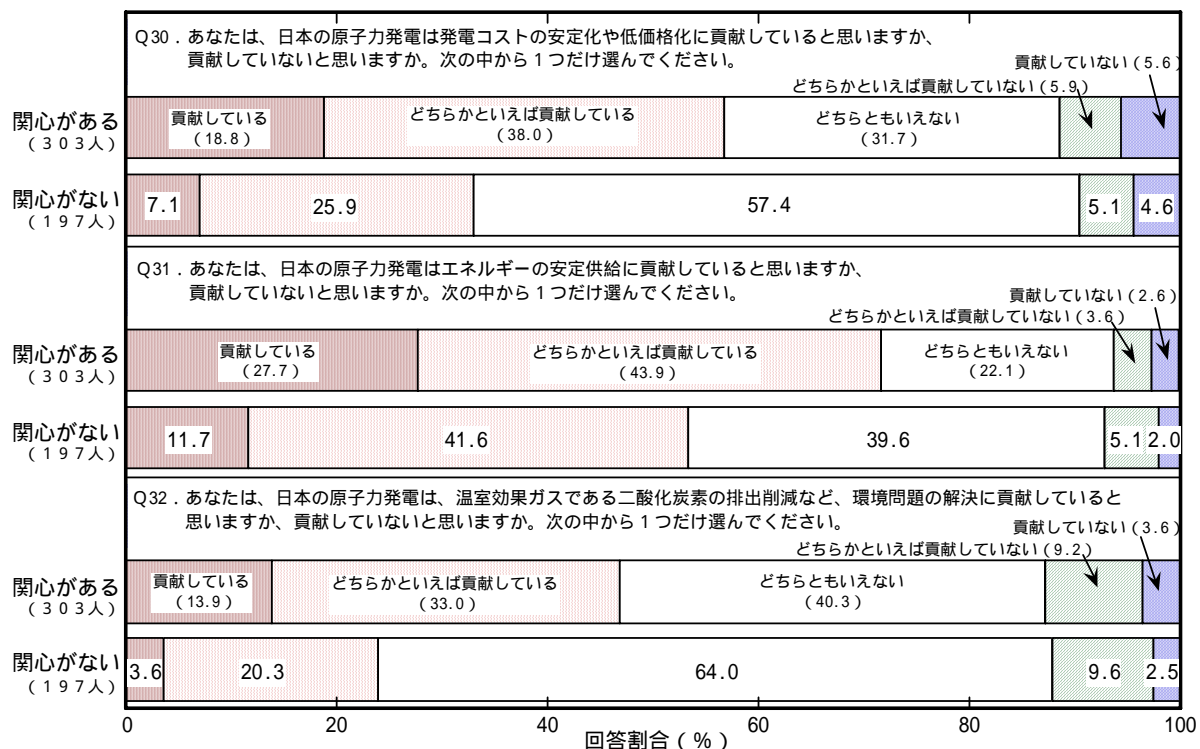


図3.2.14. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電の各有用要因の貢献感 (Q30、Q31、Q32) (2007年10月～11月/首都圏30km圏内)

4) 図3.2.15. 原子力発電 への関心度別にみた原子力発電の各安心・安全要因の

評価 (Q27、Q28、Q29)

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、原子力発電を「安心」と答える割合も「不安」と答える割合も同じように多くなるが、安心感・安全感の中身をさらに詳しくみると、運営に対する信頼感や情報公開感、放射性廃棄物の処理・処分の可能性についてもほぼ同様の結果となっている。

この中で、情報公開感については、2006年調査では「どちらかといえば非公開」という意見も含めた非公開意見は関心ある人は関心のない人に比べ減少していたが、2007年では多くなっている。

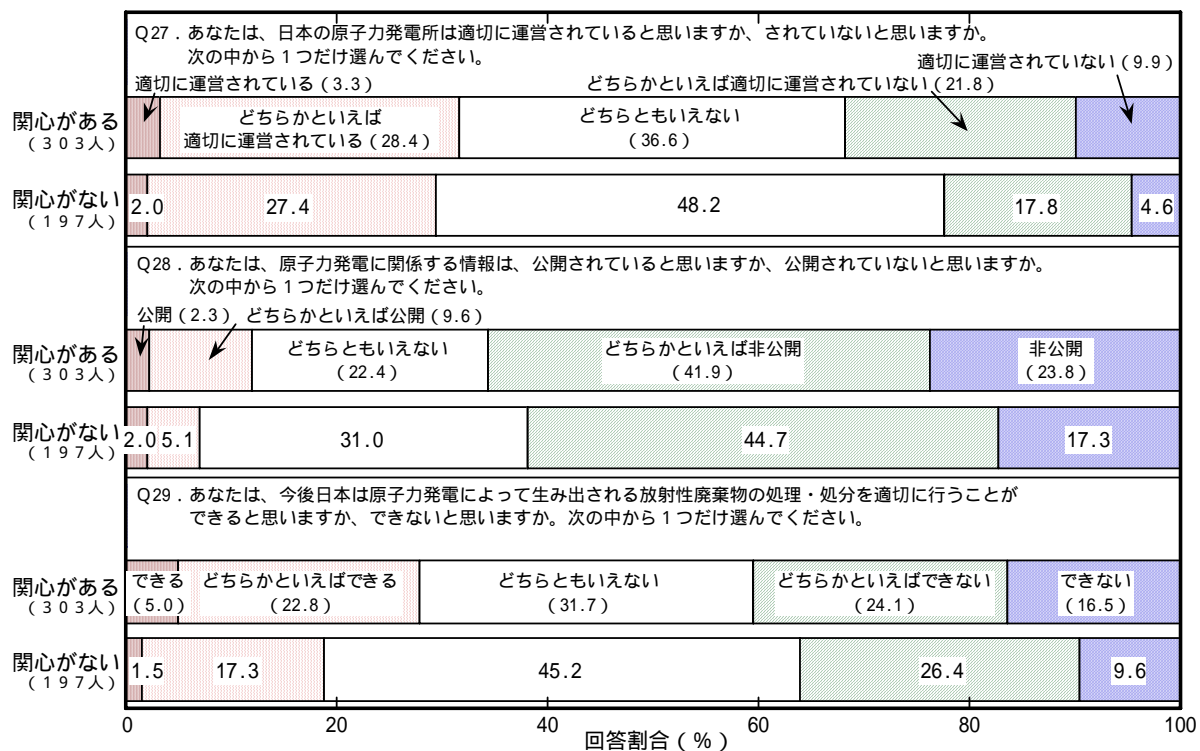


図3.2.15. 原子力発電 への関心度別にみた原子力発電の各安心・安全要因の評価 (Q27、Q28、Q29) (2007年10月～11月/首都圏30km圏内)

5) 図3.2.16. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電関係情報の主な情報源と信用している情報源 (Q35 / 複数回答)

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、「新聞」「書籍、雑誌」を主な情報源とし、それらを信用する割合が高い。

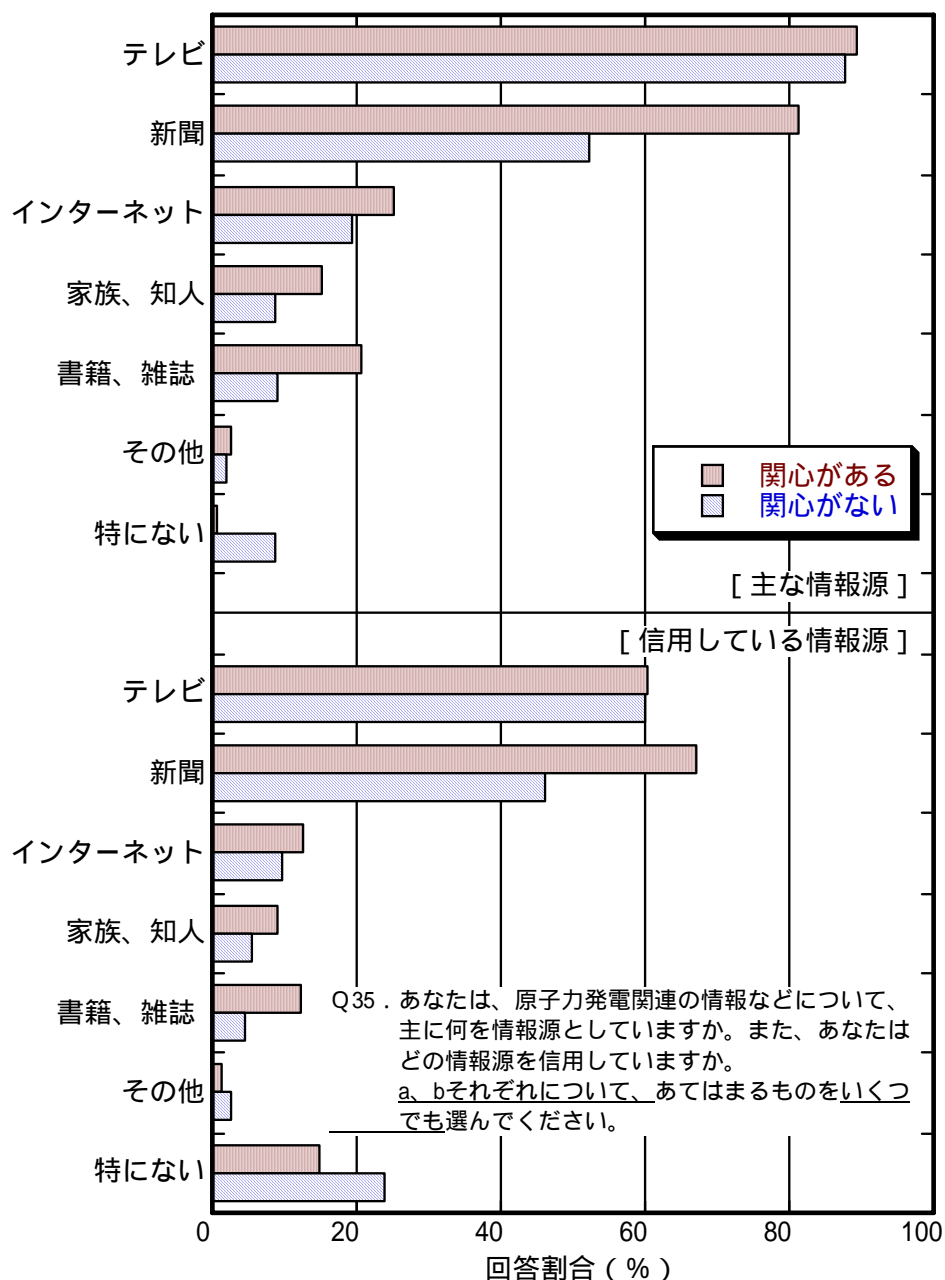


図3.2.16. 原子力発電への関心度別にみた原子力発電関係情報の主な情報源と信用している情報源 (Q35 / 複数回答)

(2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

6) 図3.2.17. 原子力発電への関心度別にみた新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する印象や考え (Q38 / 複数回答)

原子力発電に「関心がある」と答える人は「関心がない」と答える人に比べ、多くの項目で回答率が高いが、「原子力発電に対する不安が増した」「放射線・放射性物質の放出がほとんどなかったのが救いだと思う」の意見は回答率が同程度になっている。

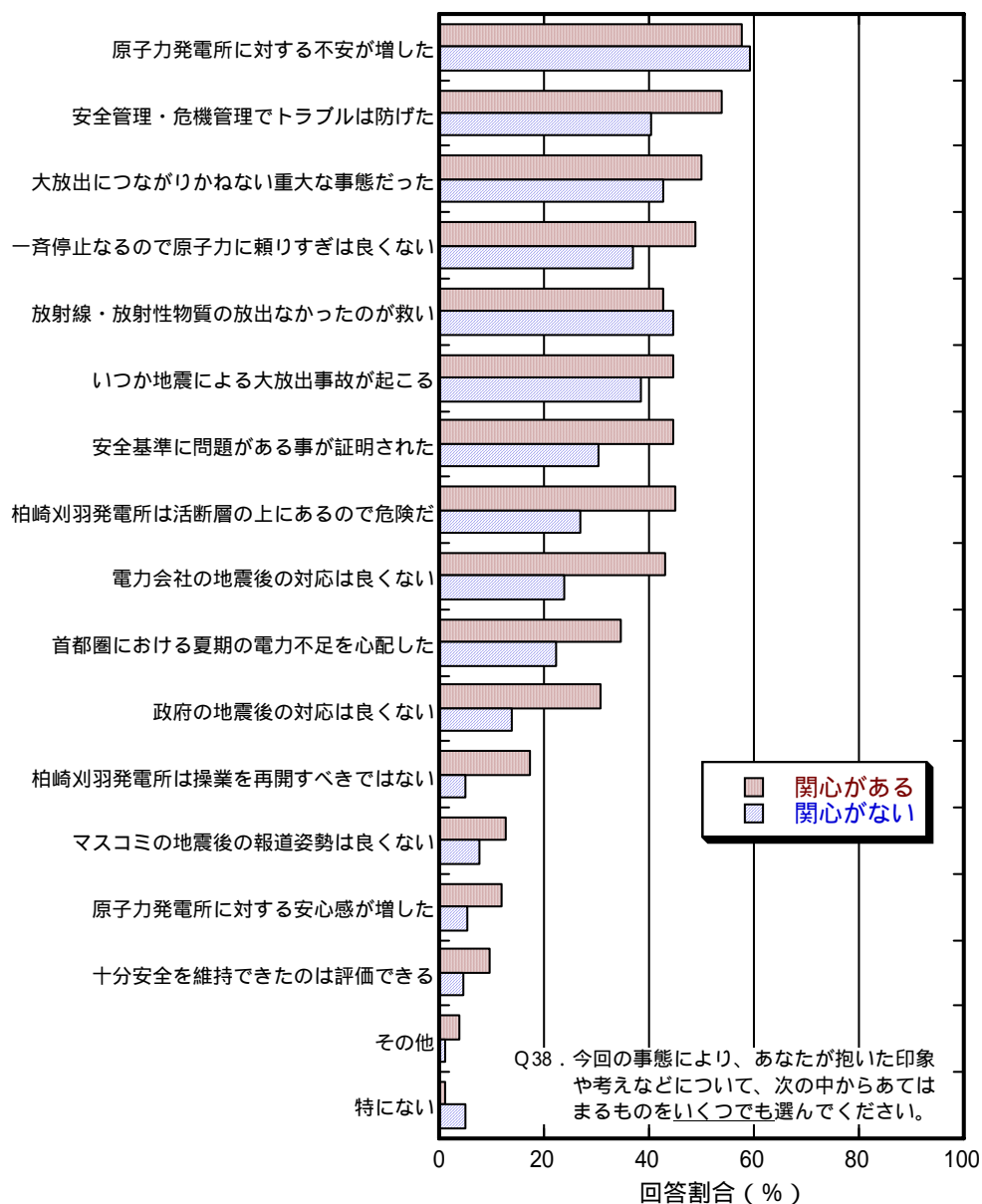


図3.2.17. 原子力発電への関心度別にみた新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所停止に関する印象や考え (Q38 / 複数回答) (2007年10月～11月 / 首都圏30km 圏内)

(4) 各質問間の相関の強さ

前節で得られた原子力発電の各質問間の相関関係を、さらに詳しく検討するために、各質問間の相関係数(2つの変量の相関の大きさを表す係数)を表3.2.18のように導出した。

この表を参考に、各質問間の影響の大きさをパス解析により求め、図3.2.18を作成した。これらの図表から下記の知見を得た。

- 1) [原子力発電の利用 - 廃止の意見(Q23)]には[有用感(Q24)]と[安心感(Q25)] [制御可能感(Q26)]などが関係する。この中には[有用感(Q24)]との関係が一番強い。
- 2) [原子力発電の利用 - 廃止の意見(Q23)]には[有用感(Q24)]と強い関係があるが、具体的な有用感の有無である[供給安定への貢献感] [コスト安定への貢献感] [環境問題への貢献感]との関係はそれほど大きくない。
- 3) [安心感(Q25)]には[制御可能感(Q26)]と[運営の適切感(Q27)] [情報公開感(Q28)] [廃棄物処理可能感(Q29)]が関係する。原子力発電は適切に運営されれば基本的に安全なものであるという認識と、実際に適切に運営されているとの信頼感、さらには日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識、情報が公開されているという認識が安心感を生み出す大きな要因となっている。
- 4) [運営の適切感(Q27)]には[情報公開感(Q28)] [廃棄物処理可能感(Q29)]と関係がある。情報公開されているとの認識と、日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識が、運営への信頼感に繋がり、さらにそれが原子力発電への安心感に繋がる、といえる。
- 5) [制御可能感(Q28)]には[運営の適切感(Q27)] [廃棄物処理可能感(Q29)]と関係がある。日本の放射性廃棄物の処理・処分が可能であるとの認識が、運営への信頼感、原子力発電への制御可能感(つまり安全感)に繋がる、といえる。

2007年調査では[環境問題への貢献感]とも関係があると導出されたが、この関係の意味は不明である。

調査結果では、首都圏住民に、2007年に発生した原子力発電関連事件（過去情報隠蔽、新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所の停止）によるものと思われる、運営や情報公開に対する信頼感の悪化傾向や、男性の不安感の上昇などがみられた。

しかし、エネルギー・地球温暖化問題への関心や不安・懸念の高まりにより、原子力発電への関心と、漠然とした部分もあるかもしれないが、その有用性をより重視する傾向が強まり（図3.2.18では、有用-無用意見と利用-廃止意見との関係の強さ（パス係数）は前年の0.36から0.45に上昇している）、上記事件が首都圏住民の原子力発電に対する好意的な変化の傾向を変えることはなかったと思われる。

表3.2.18. 原子力発電の各質問間の相関の強さ（相関係数）

| | Q22 | Q23 | Q24 | Q25 | Q26 | Q27 | Q28 | Q29 | Q30 | Q31 | Q32 |
|---------------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|------|
| Q22. 関心度 | 1.00 | 0.23 | 0.19 | -0.04 | 0.07 | -0.04 | -0.02 | -0.00 | 0.19 | 0.21 | 0.20 |
| Q23. 利用-廃止 | 0.23 | 1.00 | 0.64 | 0.47 | 0.53 | 0.26 | 0.27 | 0.40 | 0.34 | 0.36 | 0.38 |
| Q24. 有用感 | 0.19 | 0.64 | 1.00 | 0.39 | 0.53 | 0.25 | 0.19 | 0.36 | 0.47 | 0.48 | 0.41 |
| Q25. 安心感 | -0.04 | 0.47 | 0.39 | 1.00 | 0.54 | 0.34 | 0.40 | 0.47 | 0.21 | 0.20 | 0.31 |
| Q26. 制御可能感 | 0.07 | 0.53 | 0.53 | 0.54 | 1.00 | 0.36 | 0.35 | 0.58 | 0.29 | 0.28 | 0.36 |
| Q27. 運営の適切感 | -0.04 | 0.26 | 0.25 | 0.34 | 0.36 | 1.00 | 0.45 | 0.43 | 0.23 | 0.17 | 0.24 |
| Q28. 情報公開感 | -0.02 | 0.27 | 0.19 | 0.40 | 0.35 | 0.45 | 1.00 | 0.44 | 0.16 | 0.11 | 0.24 |
| Q29. 廃棄物処理可能感 | -0.00 | 0.40 | 0.36 | 0.47 | 0.58 | 0.43 | 0.44 | 1.00 | 0.29 | 0.22 | 0.30 |
| Q30. コストへの貢献感 | 0.19 | 0.34 | 0.47 | 0.21 | 0.29 | 0.23 | 0.16 | 0.29 | 1.00 | 0.65 | 0.46 |
| Q31. 供給安定の貢献感 | 0.21 | 0.36 | 0.48 | 0.20 | 0.28 | 0.17 | 0.11 | 0.22 | 0.65 | 1.00 | 0.43 |
| Q32. 環境問題の貢献感 | 0.20 | 0.38 | 0.41 | 0.31 | 0.36 | 0.24 | 0.24 | 0.30 | 0.46 | 0.43 | 1.00 |

（2007年10月～11月 / 首都圏30km圏内）

注）相関係数：2つの変量の相関の大きさを表す係数。常に絶対値が0から1の範囲で、値0は行変数と列変数の間に全く関連がないことを示し、絶対値が1に近いときは変数感の関連の度合いが高いことを示す。

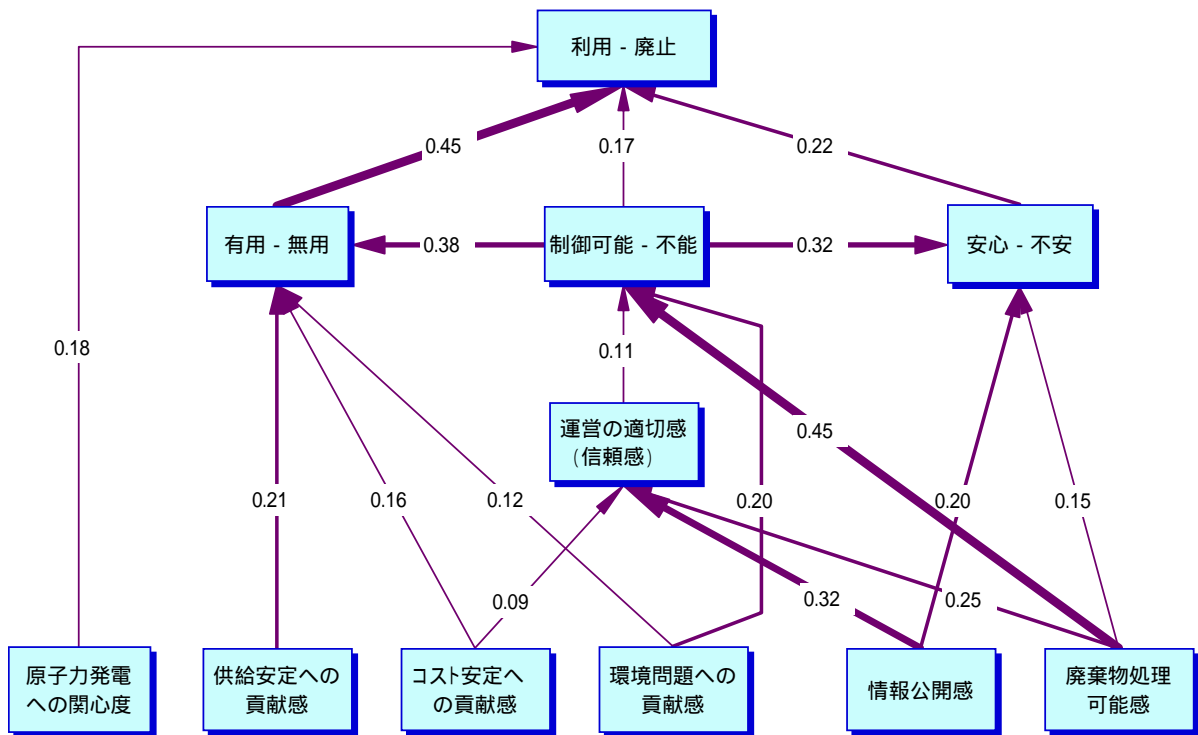


図 3 . 2 . 1 8 . 原子力発電の各質問間の影響の強さ (パス解析)
(2 0 0 7 年 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

- 注： 1) 図中の値 (パス係数) は、重回帰分析によって算出された「標準偏回帰係数 (係数) 」である。数値 (絶対値) が大きい程、影響が強いと言える。
- 2) パス係数が 0.1 以下の関係は、直接の関係が相対的に低い (関係がないのではない) とみなし、基本的に図示していない。
- 3) ただし、例えば [供給安定への貢献感] と [利用 - 廃止] には直接の関係性は低い、[有用 - 無用] を仲立ちにして、[供給安定への貢献感] は間接的に [利用 - 廃止] に影響を与えている、といえる。

3.3. 数量化解析結果

[この節の目的]

この節では、回答者の意見・認識にどのような特徴があるのか、また、どのような集団（性別、年代別等）にどのような特徴が表れるかについて分析し、公衆の意識構造を探ることを目的とする。解析手法としては、わが国で最も一般的な他変量解析の一種である林式第3類数量化分析手法を用いて解析を行った。この解析には、有意な解析結果が得られた下記の質問群を用いた。

- ・ 公衆の原子力発電に関する意識（Q22～32）
- ・ 特に関心のある問題や事柄（Q4）

ここで、分析結果を示す図中の用語について説明を行う。

相関係数：林式第3類数量化分析手法では、回答者をその回答パターンにより、先ず同傾向の回答者をもとめて2つのグループに分ける軸（尺度）を決定し、その軸の両極に回答傾向の最も異なるグループ（例えば、原子力発電に肯定的な評価をするグループと否定的な評価をするグループ）がくるようにするが、その分け方の分離程度を表す値。本報では、約0.3以上であればよく分離されたグループが存在することとし、この解析結果は意味があるとした。

サンプルスコア：上記で求めたグループのうち、ある集団はアンケート回答者の平均的回答傾向と比べてどちらのグループに属している傾向が高いかを示す値。本報では、ある集団のサンプルスコアの差が0.1以上であれば、回答傾向に有意な差があるとした。（サンプルスコアの値は平均が0、分敵が1になる様に規格化しているが、場合によっては平均が0にならないケースもある。）図3.3.1を例に説明する。この解析は原子力発電に対する主要な意見の回答パターンとして、[原子力発電に肯定的（推進、有用、安心等）-否定的（廃止、無用、不安等）]という軸が出ているが、この軸に対して、男性の位置が女性に比べ肯定的の方向にプロットされている。これは男性の方が女性に比べ原子力発電に対して肯定的評価をする傾向が高いということを意味する。

注）ここでいう[回答傾向]とは、全回答者の回答の平均を基準にして、ある集団の回答の平均がこの基準に比べて、どちらの方に回答する傾向があるかをいう相対的なものであり、その集団の回答平均といった絶対的なものではない。例えば、[男性の回答者は、相対的に原子力発電に肯定的評価を行っている]との記述は[男性の回答者]の過半数が原子力発電に肯定的評価を行っているということ述べているのではなく、あくまでも、回答者全体平均に比べてその傾向が強いといっているのである。

[この節の結果]

(1) 原子力発電に対する評価の回答傾向

原子力発電に否定的な回答者はどの項目に対しても否定的である傾向が強いが、原子力発電に肯定的な回答者はどの項目に対しても肯定的であるとは限らない。

[安心] との回答者は原子力発電に対して非常に強い肯定意見を持っている回答者である傾向がある。原子力広報で目的の一つとして挙げられている [安心感] を持ってもらおうという目的はとても困難である。

逆に、[不安] との回答者は他の質問に否定的回答をする傾向が弱い。つまり、[不安] との回答者であるからといって、他の原子力発電に対する意見が否定意見を持っているとは限らない。

[有用] との回答は肯定的回答中では肯定的評価の小さい位置にある。[有用] との回答者であるからといって、他の原子力発電に対する意見が肯定意見を持っているとは限らない。原子力広報で目的の一つとして [有用感] を持ってもらおうという目的は比較的容易である。

逆に、[無用] との回答者は他の質問にも否定的回答をする傾向が強い。つまり、[無用] との回答者は原子力発電に対して非常に強い否定意見を持つ回答者である。

女性は男性に比べ、否定的評価を行う傾向が強い。相対的に、原子力発電に肯定的意見を持つ傾向の強いグループは男性、高年代（60才以上）である。

(2) 特に関心のある問題や事柄の回答傾向

[原子力問題] への関心を示す人は [エネルギー問題、政治] へも関心を示す傾向があり、[科学技術] への関心とはそれほどでもない。

女性や原子力発電に中間意見の人々は相対的に [柔らかい話題] [身近な話題] への関心が高い。

[分析結果]

1) 図 3 . 3 . 1 . 原子力発電に対する評価の回答傾向

図 3 . 3 . 1 - 1 . 原子力発電に対する評価の回答傾向 (性別、年代別)

・この解析は、解析対象として公衆の原子力発電に関する意識 (Q 2 2 ~ 3 2) の質問を用いて解析した結果である。

・まず、第 1 軸は [原子力発電に関するさまざまな質問に対し、肯定的評価をする傾向が強いのか、否定的評価をする傾向が強いのか] という軸であると解釈した。これは、1 軸のマイナス側に肯定的評価 (安心、利用、有用等) の回答がプロットされており、プラス側に否定的評価 (不安、廃止、無用等) の回答がプロットされているところから導出される。次に 2 軸としては、[原子力発電に関するさまざまな質問に対し、肯定的評価、又は否定的評価といった明確な回答をする傾向が強いのか、どちらともいえない、無回答といった中間回答をする傾向が強いのか] という軸であると解釈した。

・この図をみると、肯定的回答 (利用、有用等) は 2 軸の中央付近にプロットされており、否定的回答 (廃止、無用等) は 2 軸の [明確な回答] 方向にプロットされている。これは、ある質問に否定的回答 (例えば、廃止等) する回答者は他の質問に対しても明確に否定的回答を行っている傾向が強いが、ある質問に肯定的回答 (例えば、利用等) する回答者はどの項目に対しても肯定的であるとは限らない、ということを示している。

ただし、[不安] [情報非公開] の意見に関しては、どちらも 2 軸の中央付近にプロットされている。これらの意見は他の否定的意見との関連性はあまり大きくないといえる。

・[安心] との回答は肯定的評価の大きい位置にある。これは、[安心] との回答者は他の質問にも肯定的回答をする傾向が強いことを示している。つまり、[安心] との回答者は原子力発電に対して非常に強い肯定意見を持っている回答者である傾向があるということである。したがって、原子力広報で目的の一つとして挙げられている [安心感] を持ってもらおうという目的はとても困難であるともいえる。いくつかの段階を経て最終的に辿り着くのが [安心感] を持つという段階であるといえる。

・それに対して [有用] との回答は肯定的回答中では肯定的評価の小さい位置にある。これは、[有用] との回答者は他の質問に肯定的回答をする傾向が弱いことを示している。つまり、[有用] との回答者であるからといって、他の原子力発電に対する意見が肯定意見を持っているとは限らないということである。したがって、原子力広報で目的の一つとして [有用感] を持ってもらおうという目的は比較的容易であるともいえる。

・また、[無用] との回答は最も否定的評価の大きい位置にある。これは、[無用] との回答者は他の質問にも否定的回答をする傾向が強いことを示している。つまり、[無用] との回答者は原子力発電に対して非常に強い否定意見を持っている回答者である傾向があるということである。

・逆に、[不安] との回答は否定的回答中では最も否定的評価の小さい位置にある。これは、[不安] との回答者は他の質問に否定的回答をする傾向が弱いことを示している。つまり、[不安] との回答者であるからといって、他の原子力発電に対する意見が否定意見を持っているとは限らないということである。

・原子力発電に [関心がある] 回答者は原子力発電に対して相対的に肯定的な意見を持ち、[関心がない] 回答者は原子力発電に対して相対的に否定的な意見を持ち、中間回答が多いことが、この図からも分かる。

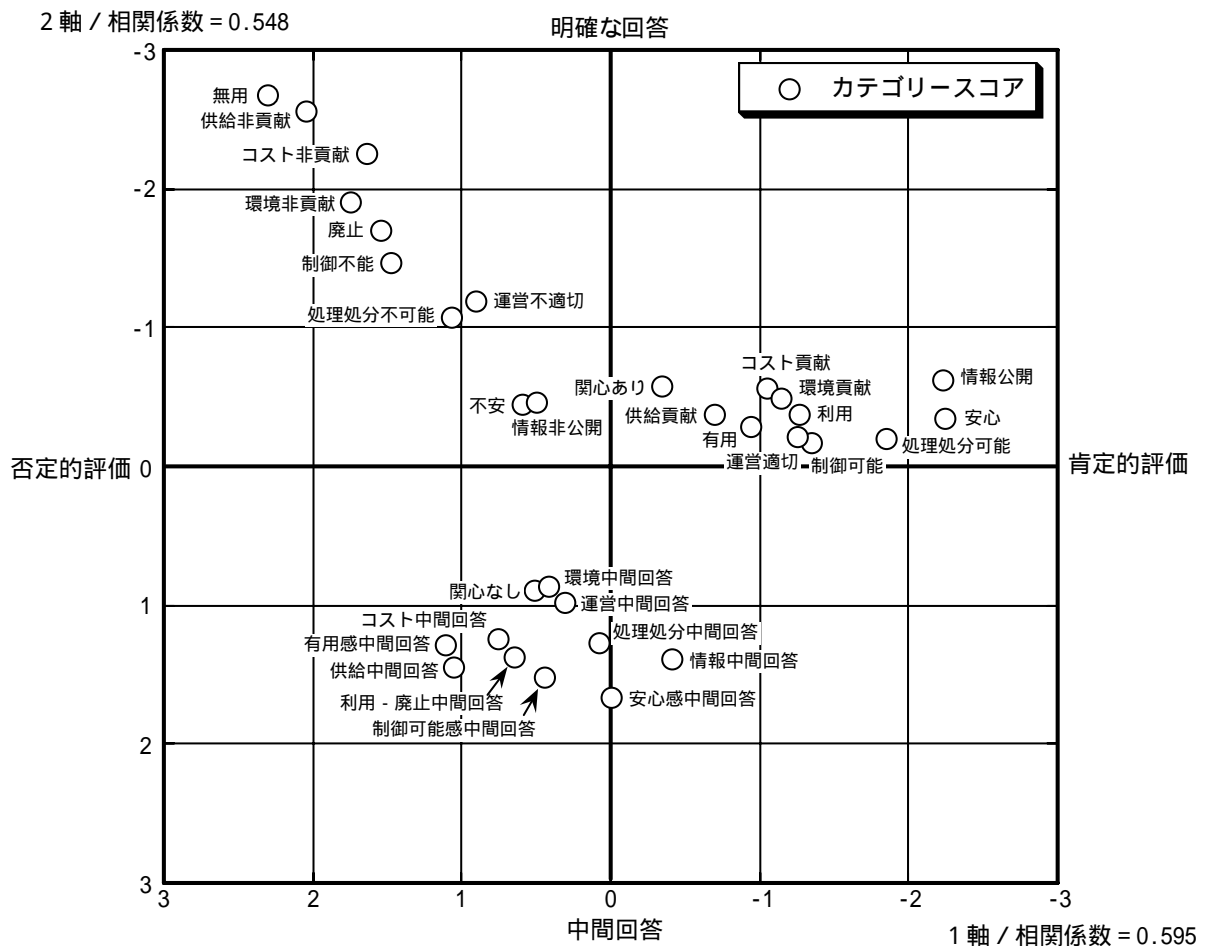


図3.3.1. 原子力発電に対する基本的評価の回答傾向
 (Q 2 2 ~ 3 2 / 3類解析 / 1軸 × 2軸 / カテゴリースコア)
 (2 0 0 7 年 1 0 月 ~ 1 1 月 / 首都圏 30km 圏内)

・図3.3.5-1は、性別、年代別の各グループのサンプルスコアを示す。女性と若年代（20～39才）は相対的に、否定的評価や中間回答（どちらともいえない等）の傾向が強く、原子力発電に肯定的意見を持つ傾向の強いグループは男性、高年代（60才以上）となっている。

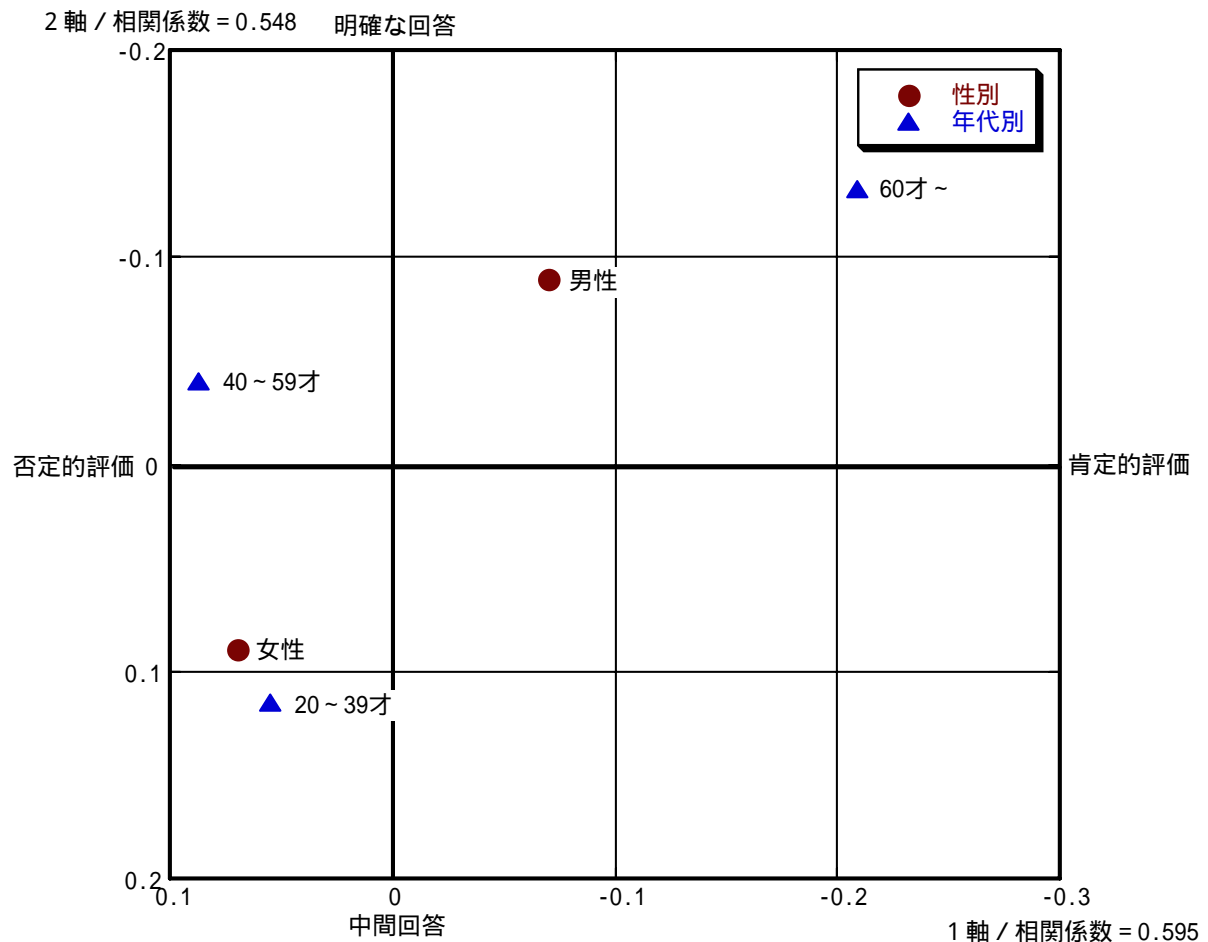


図3.3.1.1. 原子力発電に対する評価の回答傾向（性別、年代別）
 （Q22～32 / 3類解析 / 1軸×2軸 / サンプルスコア）
 （2007年10月～11月 / 首都圏30km圏内）

2) 図3.3.2. 特に関心のある問題や事柄の回答傾向

図3.3.2.1. 特に関心のある問題や事柄の回答傾向 (性別、年代別、原子力発電利用・廃止意見別)

この解析は、解析対象として特に関心のある問題や事柄 (Q4) の質問を用いて解析した結果である。・まず、第1軸として出てくるのは [固い話題 - 柔らかい話題] の軸であると解釈した。次に2軸としては [身近な話題 - 身近でない話題] の軸であると解釈した。

図3.3.2をみると、[原子力問題] への関心を示す人は [エネルギー問題、政治] へも関心を示す傾向があり、[科学技術] への関心とはそれほどでもないことが分かる。

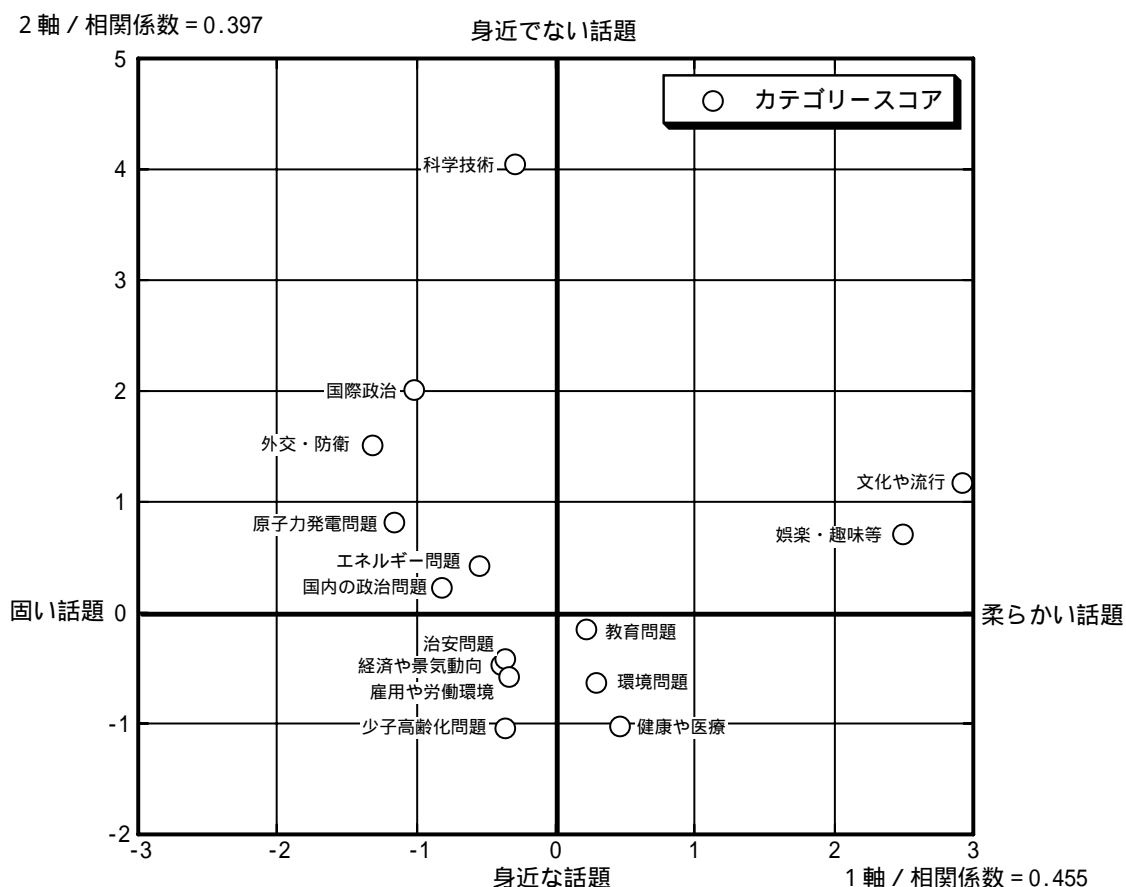


図3.3.2. 特に関心のある問題や事柄の回答傾向
 (Q4 / 複数回答 / 3類解析 / 1軸×2軸 / カテゴリースコア)
 (2007年10月～11月 / 首都圏30km 圏内)

図3.3.2-1は、性別、年代別、原子力発電利用・廃止意見別の各グループのサンプルスコアを示す。女性は男性に比べ、[柔らかい話題] [身近な話題] への関心が高いことがわかる。また、若年層は高年代層に比べ [柔らかい話題] への関心が高いことがわかる。この2つの軸上では、原子力発電の利用意見を持つ人々と廃止意見を持つ人々は同じ様な関心を持ち、中間意見の人々は相対的に [柔らかい話題] [身近な話題] への関心が高いことがわかる。

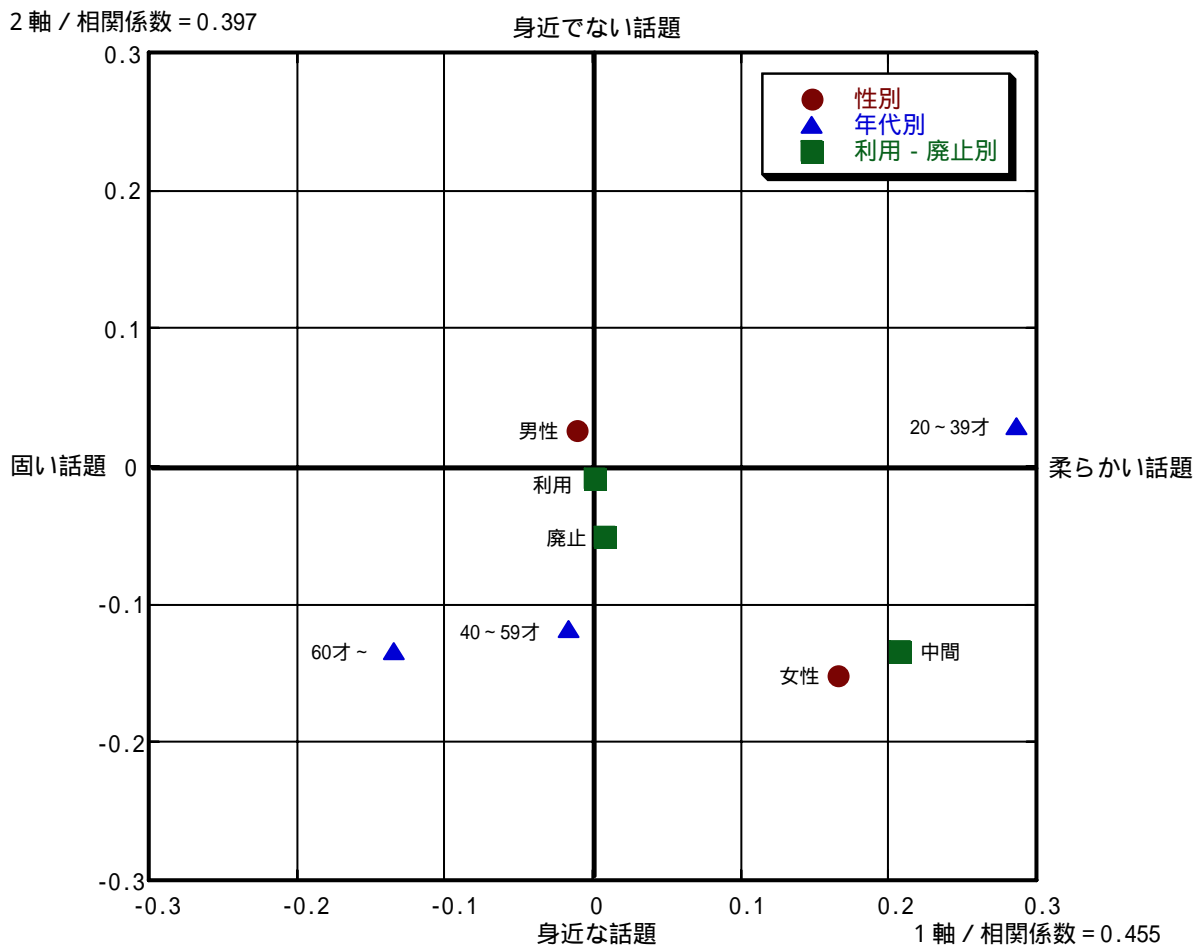


図3.3.2-1. 最も関心のある問題や事柄の回答傾向
 (性別・年代別・原子力発電利用・廃止意見別)
 (3類解析 / Q4 / 複数回答 / 1軸×2軸 / サンプルスコア)
 (2007年10月~11月 / 首都圏30km圏内)

おわりに

本研究では、公衆のエネルギーに関する意見や態度決定要因等を探り、わが国のエネルギーに関する情報提供等のあるべき姿を探り、その広報戦略の立案の基礎資料を作成することを目的としている。調査は、調査地域を首都圏とし、公衆の意識調査を行い、下記の知見を得た。

今回の調査の注目した点は、2007年に発生した原子力発電関連事件（過去情報隠蔽、新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所の停止）や原油価格が高騰し、石油の価格上昇や枯渇問題が話題になったことや、地球温暖化の問題が話題になっていることの影響が、どこにどの程度表れているのかという点にある。

調査の結果、首都圏住民にはエネルギー・地球温暖化問題への関心や不安・懸念の高まりがみられた。原子力発電に対しては、関心の高まりと共に、運営や情報公開に対する信頼感の悪化傾向や、男性の不安感の上昇などがみられたが、原子力発電に対する好意的な変化の傾向を変えることはなく、原子力発電に対する有用感や安心感にも大きな影響はなかった。

おそらくは、エネルギー・地球温暖化問題への関心や不安・懸念の高まりにより、原子力発電への関心と、漠然とした部分もあるかもしれないが、その有用性をより重視する傾向が強まり、上記事件が首都圏住民の原子力発電に対する好意的な変化の傾向を変えることはなかったと思われる。

もう一つの興味深い結果としては、前年調査でもみられたことではあるが、首都圏の公衆は「女性の原子力発電に対する意識に肯定的変化がみられ、徐々に男性と同様の意識に近づいている」ということである。例えば、女性の原子力発電に対する有用感徐々に大きくなっており、原子力発電に肯定的になりつつある。

次に、上記で、今回の調査で原子力発電に対する関心が高くなったと述べたが、他事象と比較した場合、原子力発電に対する関心は相対的に大きくないことも結果として出ている。エネルギー問題や原子力発電に関して公衆に対する活動を行う際には、公衆の「低関心」ということを前提に行う必要があると思われる。

最後に、これまでも「信頼」が原子力発電に対する態度に大きな影響があると指摘してきた。原子力発電の運営に関する信頼感は、年と共に大きく改善されてきていたが、今回の調査では、2007年に発生した原子力発電関連事件の影響と思われる信頼感の低下傾向がみられた。原子力発電のさらなる発展を目指すのであれば、この信頼を裏切る様な事故・事件の発生は禁物といえよう。

付属資料

アンケート調査表

エネルギーに関する調査・ご協力をお願い

拝 啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私ども、(株)マーケティングセンターは、(社)日本マーケティング・リサーチ協会の正会員社であり、協会の定めたマーケティング・リサーチ綱領、個人情報保護ガイドラインなどに沿って、個人情報保護に最大限努めながら、科学的・客観的なマーケティング・リサーチ(市場調査)を行う専門会社です。

このたび弊社では、20歳以上の方を対象とした、「**エネルギーに関する調査**」を実施することになり、調査員をうかがわせました。ご回答いただいた内容は、“ ”と答えた方が“ % ”というように、統計的にまとめられ、個人が特定されることはありませんのでご安心ください。また、調査結果を、勧誘やセールスなどに用いることも一切ございません。

この調査にご協力くださるかどうかはあなた様の自由で、ご協力いただいた場合でも、ご協力いただけない場合でも、あなた様に不利益になることは一切ございません。

以下の事項をご確認の上、趣旨をご理解いただき、是非ご協力くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

「エネルギーに関する調査」の概要

1. 調査目的

この調査は財団法人エネルギー総合工学研究所によって企画され、株式会社マーケティングセンターが実施するものです。調査結果を今後のエネルギー利用の研究に役立てる事を目的としています。

2. 調査方法

調査対象となる方の居住地と性別・年齢条件を指定し、調査員がその地域内で条件に該当する方を探し、調査ご協力をお願いしています。ご協力いただける方に調査用紙をお預けし、後日記入済みの調査用紙を受け取りにうかがいます。一つの調査地域で20人の方、全体で500人の方にご協力をお願いする設計としています。

3. 個人情報保護に関する規範遵守について

弊社は、個人情報の保護に関する法律、マーケティング・リサーチ綱領、その他個人情報の保護に関する規範を遵守しています。また、(財)日本情報処理開発協会から、個人情報の適正な取り扱いと保護がなされている事業者が付与される、プライバシーマークの付与認定を受けています。

2007年10月

調査主体：財団法人 エネルギー総合工学研究所

調査実施機関：株式会社 マーケティングセンター

東京都豊島区南大塚 3-30-4

<http://www.mc-com.co.jp>

03-5391-2521 (代) / 調査担当：竹内



このマークは経済産業省の個人情報保護ガイドラインに準拠して個人情報の保護を適切に行っている民間事業者に対して使用を認められているものです。

個人情報相談窓口

03-5391-2513 / 担当：町田勉

受付時間：平日 9:30～12:00、13:00～17:30

『個人情報の取り扱いなどについての詳細』

1. 個人情報の取り扱い

この調査では、あなた様の氏名・住所・電話番号等をお聞きしますが、ご回答内容の再確認など、調査に関連する業務にのみ利用いたします。他の目的では利用いたしません。
あなた様の個人情報は、調査終了後一定期間（およそ2ヵ月後）を経て廃棄します。
あなた様の個人情報を、弊社以外の第三者に提供することはありません。
また、個人情報の取り扱いを外部に委託することはありません。

2. 個人情報に関するお問い合わせ窓口

あなた様の個人情報についての、弊社お問い合わせ窓口は以下のとおりです。

弊社個人情報相談窓口 03-5391-2513 / 担当：町田

3. 個人情報保護管理者およびホームページでの個人情報保護方針公表

弊社の個人情報保護管理者は、取締役 多田利明 です。
弊社の個人情報保護方針、取り扱いについては、下記ホームページでも公表しています。

弊社ホームページ：<http://www.mc-com.co.jp>

***** (社)日本マーケティング・リサーチ協会について *****

1. 社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会は、日本の代表的なマーケティング・リサーチ専門機関やマーケティング・リサーチを利用する企業や団体、学識経験者などで構成され、マーケティング・リサーチの質の向上、調査対象者の個人情報の保護、マーケティング・リサーチ実施環境の改善などに取り組んでいます。
2. 社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会の正会員（マーケティング・リサーチ専門機関）は、厳正な入会審査を受け、科学的、客観的なマーケティング・リサーチの実施と、調査対象者の個人情報保護が謳われている「マーケティング・リサーチ綱領」を遵守しています。

社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-9-9 石川 LK ビル 2 階
フリーダイヤル 0120-039-551
ホームページ：<http://www.jmra-net.or.jp>

2007年10月

エネルギーに関するアンケート

ご協力をお願い

拝啓 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私ども、(株)マーケティングセンターは、(社)日本マーケティング・リサーチ協会の正会員社であり、協会の定めたマーケティング・リサーチ綱領、個人情報保護ガイドラインなどに沿って、個人情報保護に最大限努めながら、科学的・客観的なマーケティング・リサーチ(市場調査)を行う専門会社です。

このたび弊社では、財団法人エネルギー総合工学研究所 の依頼により、首都圏にお住まいの20歳以上の方々を対象に、標記のアンケート調査を実施することになりました。

この調査は、日頃、皆様がエネルギー問題に対してどのようなイメージやご要望をお持ちになっているかということをお聞きし、今後のエネルギー利用の研究に役立てることを目的として、2003年から継続的に実施しています。

ご協力をお願いをさせていただく方は、性別や年齢の割合が、首都圏の縮図となるよう無作為に選ばせていただいております。また、お答えの内容につきましては、「このようなご意見の方が何%」というようにコンピュータで統計的に処理いたしますので、お名前や個別のご意見が他に漏れることは一切ございません。

ご多用のところ、まことにお手数ではございますが、この調査研究の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査にご協力いただきました皆様には、お礼として500円分の図書カードを差し上げておりますので、お納めください。

なお、この調査の集計結果は、後日、財団法人エネルギー総合工学研究所のホームページ(<http://www.iae.or.jp/>)で公開させていただく予定にしております。

敬具

株式会社マーケティングセンター
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-30-4
電話：03-5391-2521 担当：竹内
ホームページ <http://www.mc-com.co.jp/>

財団法人エネルギー総合工学研究所

エネルギーの安定供給と、より高度な利用をはかるため、エネルギーの開発、供給、利用等に関する諸問題について技術的側面から総合的に研究を行うとともに、その普及につとめることを目的として、昭和53年に通産大臣の設立許可をうけた公益法人。

(詳細はインターネットのホームページでもご覧いただけます。URL:<http://iae.people.gr.jp/>)

2007年10月

エネルギーに関するアンケート

(株)マーケティングセンター
(財)エネルギー総合工学研究所

<ご記入いただく前にお読みください>

調査の結果は、コンピュータで数量的に処理し、「こういうご意見の方が何%」
というように統計的にまとめます。
ご回答には、該当する項目の番号に をつけていただくものと、具体的な内容を
ご記入いただくものがあります。
1つだけ選ぶもの、あてはまるものをいくつでも選ぶものなど、答え方が違う場
合がありますので、質問文の指示をよくお読みになって、指示通りにお答えく
ださい。
ご記入後の調査票は、回答もれがないかをお確かめの上、回収にお伺いする調査
員にお渡しください。
お忙しいところ恐縮ですが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社マーケティングセンター
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-30-4
TEL 03-5391-2521 担当：竹内
ホームページ <http://www.mc-com.co.jp/>

【最初に、社会や生活の問題についてご質問いたします】

Q1 . あなたは、今の日本の社会に、全体として満足していますか、不満ですか。
次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足している
- 3 どちらかといえば不満である
- 4 不満である

Q2 . あなたは、今後の日本の社会を考えた場合、国民の生活スタイルはどうあるべきと思いま
すか。次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 便利で経済的に豊かな生活を行う
- 2 どちらかといえば、便利で経済的に豊かな生活を行う
- 3 どちらかといえば、不便でも心豊かな生活を行う
- 4 不便でも心豊かな生活を行う

-

Q 3 . あなたは、今後、日本はどのような社会を目指すのがよいと思いますか。
次の中から特にあてはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 政府・自治体の政策決定に国民の声が十分取り入れられる
- 2 安定した雇用がある
- 3 表現の自由がある
- 4 国内の法と秩序が維持されている
- 5 人々が十分平等である
- 6 国の安全（国防）が確保されている
- 7 自然や環境をお金よりも大切にす
- 8 人々が心やさしく、人情があつい
- 9 情報公開が積極的に進められ、知る権利が守られている
- 10 災害や事故や犯罪が少ない
- 11 個人の自由が尊ばれている
- 12 老人・障害者等にやさしい
- 13 道徳や責任が守られている
- 14 豊かな暮らしができる
- 15 礼儀や規律が尊ばれている
- 16 この中にはない・特にない

Q 4 . あなたは、どのような問題や事柄に関心がありますか。
次の中から特に関心があるものをいくつでも選んでください。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 国内の政治問題 | 9 科学技術 |
| 2 経済や景気動向 | 10 犯罪やテロなどの治安問題 |
| 3 少子高齢化問題 | 11 雇用や労働環境 |
| 4 エネルギー問題 | 12 文化や流行 |
| 5 原子力発電問題 | 13 外交・防衛 |
| 6 環境問題 | 14 健康や医療 |
| 7 国際情勢 | 15 スポーツや芸能・娯楽・趣味 |
| 8 教育問題 | 16 この中にはない・特にない |

Q 5 . あなたは、関心のある問題や事柄について、新聞やテレビ、雑誌、インターネットなどで
ニュースや報道をよく見ますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 よく見る
- 2 どちらかといえば見る
- 3 どちらかといえば見ない
- 4 めったに見ない

Q 6 . あなたは、関心のある問題や事柄について、主に何を情報源としていますか。また、どの情報源を信用していますか。

a、b それぞれについて、あてはまるものをいくつでも選んでください。

a. 主な情報源

b. 信用している情報源

| | |
|-----------|-----------|
| 1 テレビ | 1 テレビ |
| 2 新聞 | 2 新聞 |
| 3 書籍・雑誌 | 3 書籍・雑誌 |
| 4 インターネット | 4 インターネット |
| 5 家族、知人 | 5 家族、知人 |
| 6 その他 | 6 その他 |
| 7 特にない | 7 特にない |

Q 7 . あなたが、ふだんの生活の中で不安を感じることはどのようなことですか。

次の中から特に不安を感じるものをいくつでも選んでください。

| | |
|--------------------|--------------------|
| 1 交通事故 | 13 道德意識の減退 |
| 2 火災 | 14 失業 |
| 3 地震・台風などの自然災害 | 15 老後・高齢化・介護問題 |
| 4 強盗や殺人などの犯罪 | 16 教育の荒廃 |
| 5 食品添加物や食品汚染 | 17 税金 |
| 6 原子力発電の事故 | 18 エネルギー危機 |
| 7 水や空気の汚染 | 19 不景気 |
| 8 地球温暖化など地球規模の環境破壊 | 20 青少年犯罪 |
| 9 癌（がん） | 21 経済や金融の崩壊 |
| 10 物価高 | 22 遺伝子組み替え食品やバイオ技術 |
| 11 戦争 | 23 この中にはない・特にない |
| 12 テロ | |

Q 8 . 下記の施設のうち、あなたの住まいの近くに作られることを受け入れられないものはどれですか。次の中から絶対に受け入れられないと感じるものをいくつでも選んでください。

| | |
|----------------|-----------------|
| 1 ゴルフ場 | 10 ガスタンク |
| 2 火力発電所 | 11 遺伝子工学の研究施設 |
| 3 風力発電施設 | 12 難病の専門病院 |
| 4 原子力発電所 | 13 飛行場・ヘリポート |
| 5 放射性廃棄物処理処分施設 | 14 高層ビル |
| 6 高圧送電線 | 15 ゴミ焼却場 |
| 7 化学工場 | 16 火葬場 |
| 8 高速道路 | 17 刑務所 |
| 9 産業廃棄物の処理施設 | 18 この中にはない・特にない |

Q9 . あなたは、住まいの近くに、受け入れたくない施設の建設計画が持ち上がった時、受け入れられるか否かの判断のために、どのようなことを重視しますか。
次の中から特に重視するものをいくつでも選んでください。

- 1 公共性が高く、どこかには建設しなければならないと思うこと
- 2 将来、事故や公害はまず起きないと納得できること
- 3 自分自身の収入・資産にマイナスの影響がないこと
- 4 地域振興に役立つ十分な開発計画や補助金・交付金があること
- 5 施設設置の決定手続きが民主的で正当であること
- 6 地域住民の意見が賛成多数であること
- 7 住民への説明が十分であること
- 8 情報の公開が十分であること
- 9 首長の了解や市町村議会の受け入れの採決があること
- 10 過去に、同種の施設で事故や公害が起きていないこと
- 11 他の候補地に比べ、この場所が最善であるとの説明に納得すること
- 12 住民参加の協議がなされていること
- 13 建設側の対応に誠意が感じられること
- 14 事故や公害に対する十分な保障の取り決めがあること
- 15 この中にはない・特にない

【ここからは、エネルギーの問題についてご質問いたします】

Q10 . あなたは、エネルギーの問題について関心がありますか、関心がありませんか。
次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 関心がある
- 2 どちらかといえば関心がある
- 3 どちらかといえば関心がない
- 4 関心がない

Q11 . あなたは、現在の日本では、地球温暖化などの環境問題に対して、熱心に取り組んでいると思いますか、熱心に取り組んでいないと思いますか。
次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 熱心に取り組んでいると思う
- 2 どちらかといえば熱心に取り組んでいると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば熱心に取り組んでいないと思う
- 5 熱心に取り組んでいないと思う

Q12. あなたは、現在の日本では、「新エネルギー（太陽光、風力、地熱など）」の利用に対して、熱心に取り組んでいると思いますか、熱心に取り組んでいないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 熱心に取り組んでいると思う
- 2 どちらかといえば熱心に取り組んでいると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば熱心に取り組んでいないと思う
- 5 熱心に取り組んでいないと思う

Q13. あなたは、今後の日本では、国全体のエネルギー使用量は増えると思いますか、減ると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 増えると思う
- 2 どちらかといえば増えると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば減ると思う
- 5 減ると思う

Q14. あなたは、今後の日本では、必要なエネルギーを十分に確保できるかどうかというエネルギー供給の問題について、不安を感じますか、感じませんか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 不安を感じる
- 2 どちらかといえば不安を感じる
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不安を感じない
- 5 不安を感じない

Q15. あなたは、今後の日本では、エネルギーや環境の問題に取り組むために、生活の便利さが制限されてもよいと思いますか、そうは思いませんか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 制限されてもよいと思う
- 2 どちらかといえば制限されてもよいと思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば制限されてもよいとは思わない
- 5 制限されてもよいとは思わない

Q16. あなたは、20年後の石油の値段は、今と比べて高くなっていると思いますか、安くなっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 非常に高くなっていると思う
- 2 ある程度は高くなっていると思う
- 3 現状程度だと思う
- 4 ある程度は安くなっていると思う
- 5 非常に安くなっていると思う
- 6 わからない

Q17. あなたは、20年後の日本では、熱心に取り組めば、必要な石油を十分に確保できると思いますか、確保できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 確保できると思う
- 2 どちらかといえば確保できると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば確保できないと思う
- 5 確保できないと思う

Q18. あなたは、20年後の日本では、熱心に取り組めば、「新エネルギー（太陽光、風力、地熱など）」を主要なエネルギー源にすることができると思いますか、できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 できると思う
- 2 どちらかといえばできると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえばできないと思う
- 5 できないと思う

Q19. あなたは、20年後の日本では、熱心に取り組めば、地球温暖化の原因の一つといわれている二酸化炭素の排出量を大幅に下げることができると思いますか、できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 できると思う
- 2 どちらかといえばできると思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえばできないと思う
- 5 できないと思う

Q20. あなたは、今後の日本では、エネルギーや環境の問題に対して、どのような対応をとるのが最も効果的だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 科学技術の進歩や発展により解決する
- 2 法律や規則により国民生活や企業活動を規制する
- 3 新たな税金を導入して国民や企業の取り組みを促す
- 4 一人一人の国民が自主的に取り組む
- 5 その他（具体的に： _____）
- 6 特に必要ない

Q21. あなたは、エネルギーや環境問題に対して、個人で出来ることに積極的に取り組んでいますか、取り組んでいませんか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 積極的に取り組んでいる
- 2 ある程度取り組んでいる
- 3 あまり取り組んでいない
- 4 全く取り組んでいない

【ここからは、原子力発電についてご質問いたします】

Q22 . あなたは、原子力発電について関心がありますか、関心がありませんか。
次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 関心がある
- 2 どちらかといえば関心がある
- 3 どちらかといえば関心がない
- 4 関心がない

Q23 . あなたは、日本は今後も原子力発電の利用を続けるべきだと思いますか、やめるべきだと思いますか。次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 新設や増設をしながら続けるべきである
- 2 現状程度のまま続けるべきである
- 3 どちらともいえない
- 4 徐々にやめていくべきである
- 5 すぐにやめるべきである

Q24 . あなたは、原子力発電は、今日の社会や人々の生活にとって有用だと思いますか、無用だと思いますか。次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 有用である
- 2 どちらかといえば有用である
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば無用である
- 5 無用である

Q25 . あなたは、原子力発電の安全性については、安心していますか、不安ですか。
次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 安心している
- 2 どちらかといえば安心している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不安である
- 5 不安である

Q26 . あなたは、原子力発電について、技術や管理を十分にして人間や環境に悪い影響を与えないように制御をすることが可能だと思いますか、不可能だと思いますか。
次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 可能である
- 2 どちらかといえば可能である
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば不可能である
- 5 不可能である

Q27. あなたは、日本の原子力発電所は適切に運営されていると思いますか、されていないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 適切に運営されている
- 2 どちらかといえば適切に運営されている
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば適切に運営されていない
- 5 適切に運営されていない

Q28. あなたは、原子力発電に関する情報は、公開されていると思いますか、公開されていないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 公開されている
- 2 どちらかといえば公開されている
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば公開されていない
- 5 公開されていない

Q29. あなたは、今後日本は原子力発電によって生み出される放射性廃棄物の処理・処分を適切に行うことができると思いますか、できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 適切に行うことができる
- 2 どちらかといえば適切に行うことができる
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば適切に行うことはできない
- 5 適切に行うことはできない

Q30. あなたは、日本の原子力発電は発電コストの安定化や低価格化に貢献していると思いますか、貢献していないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 貢献している
- 2 どちらかといえば貢献している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば貢献していない
- 5 貢献していない

Q31. あなたは、日本の原子力発電はエネルギーの安定供給に貢献していると思いますか、貢献していないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 貢献している
- 2 どちらかといえば貢献している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば貢献していない
- 5 貢献していない

Q32. あなたは、日本の原子力発電は、温室効果ガスである二酸化炭素の排出削減など、環境問

題の解決に貢献していると思いますか、貢献していないと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。

- 1 貢献している
- 2 どちらかといえば貢献している
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば貢献していない
- 5 貢献していない

Q33. あなたは、日本の原子力発電関係の技術水準（研究、設計、製造、運転、保守など）は総合的にみて、世界の中でどの程度のレベルだと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。

- 1 トップレベルだと思う
- 2 平均より上のレベルだと思う
- 3 平均的レベルだと思う
- 4 平均より下のレベルだと思う
- 5 最低レベルだと思う
- 6 わからない

Q34. あなたは、日本の原子力発電施設で、今後100年以内に起こりうる事故といえほどの程度の事故だとイメージしますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 死亡又はそれに相当するような事故はまず起こりえない
- 2 数人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う
- 3 数十人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う
- 4 数百人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う
- 5 数千人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う
- 6 数万人以上の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う
- 7 わからない

Q35. あなたは、原子力発電関連の情報などについて、主に何を情報源としていますか。また、あなたはどの情報源を信用していますか。

a、bそれぞれについて、あてはまるものをいくつでも選んでください。

a. 主な情報源

b. 信用している情報源

| | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 テレビ 2 新聞 3 書籍・雑誌 4 インターネット 5 家族、知人 6 その他 7 特にない | <ol style="list-style-type: none"> 1 テレビ 2 新聞 3 書籍・雑誌 4 インターネット 5 家族、知人 6 その他 7 特にない |
|---|---|

【ここからは、今年の夏（7月16日）に発生した新潟県中越沖地震によって震源近くの柏崎刈羽原子力発電所の一部が損傷し、7基の原子炉が全て停止したことについて、ご質問いたします】

Q36. あなたは、今回の事態に関してどの程度ご存じですか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 知っている
- 2 少しは知っている
- 3 あまり知らない
- 4 知らない

Q37. あなたは、今回の事態に、どの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 関心がある
- 2 ある程度関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 関心がない

Q38. 今回の事態により、あなたが抱いた印象や考えなどについて、次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 原子力発電所に対する不安が増した
- 2 大きな地震でも安全を維持することができたので、原子力発電所に対する安心感が増した
- 3 安全管理・危機管理がしっかりしていれば多くのトラブルは防げたと思う
- 4 放射線・放射性物質の放出がほとんどなかったのが救いだと思う
- 5 放射線・放射性物質の大放出につながりかねない重大な事態だったと思う
- 6 いつか地震による放射線・放射性物質の大放出事故が起こると思う
- 7 想定以上の地震が起きたので、安全基準に問題がある事が証明された
- 8 想定以上の地震が起きても、十分安全を維持できたのは評価できる
- 9 電力会社の地震後の対応は良くないと思う
- 10 政府の地震後の対応は良くないと思う
- 11 マスコミの地震後の報道姿勢は良くないと思う
- 12 柏崎刈羽原子力発電所は活断層の上にあるので、危険だと思う
- 13 何かあると一度に多数の発電所が停止するので、原子力発電に頼りすぎるのは良くないと思う
- 14 柏崎刈羽原子力発電所は、操業を再開すべきではないと思う
- 15 首都圏における夏期の電力不足を心配した
- 16 その他（具体的に： _____）
- 17 特にない

< 全員の方に >

【最後に、あなたご自身のことについておうかがいします】

(調査結果を統計的にとりまとめるため、以下の質問にもお答えください)

F 1 . あなたの性別をお聞かせください。

- 1 男性
- 2 女性

F 2 . あなたの年齢を次の中からお聞かせください。

- 1 20 ~ 29 歳
- 2 30 ~ 39 歳
- 3 40 ~ 49 歳
- 4 50 ~ 59 歳
- 5 60 ~ 69 歳
- 6 70 歳以上

F 3 . あなたの今の職業をお聞かせください。お勤めですか。それとも何かご自分で商売や事業をなさっていますか。次の中から 1つだけ選んでください。

- 1 自営業主
- 2 家族従業 (家業手伝い)
- 3 勤め (全日)
- 4 パートタイム・アルバイト
- 5 専業主婦
- 6 学生
- 7 無職
- 8 その他 (具体的に :)

エネルギーについて、ご意見がありましたら、お聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご回答もれがないかをお確かめの上、回収にお伺いする調査員にお渡しください。

基本集計表

2007年10月

エネルギーに関するアンケート

(株)マーケティングセンター
(財)エネルギー総合工学研究所

<ご記入いただく前にお読みください>

調査の結果は、コンピュータで数量的に処理し、「こういうご意見の方が何%」
というように統計的にまとめます。
ご回答には、該当する項目の番号に をつけていただくものと、具体的な内容をご
記入いただくものがあります。
1つだけ選ぶもの、あてはまるものをいくつでも選ぶものなど、答え方が違う場
合がありますので、質問文の指示をよくお読みになって、指示通りにお答えく
ださい。
ご記入後の調査票は、回答もれがないかをお確かめの上、回収にお伺いする調査
員にお渡しください。
お忙しいところ恐縮ですが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社マーケティングセンター
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-30-4
TEL 03-5391-2521 担当：竹内
ホームページ <http://www.mc-com.co.jp/>

【最初に、社会や生活の問題についてご質問いたします】

Q1 . あなたは、今の日本の社会に、全体として満足していますか、不満ですか。
次の中から 1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|------------------|------|
| 1 満足している | 4.6% |
| 2 どちらかといえば満足している | 33.4 |
| 3 どちらかといえば不満である | 45.2 |
| 4 不満である | 16.8 |

Q2 . あなたは、今後の日本の社会を考えた場合、国民の生活スタイルはどうあるべきと思いま
すか。次の中から 1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|----------------------------|-------|
| 1 便利で経済的に豊かな生活を行う | 19.0% |
| 2 どちらかといえば、便利で経済的に豊かな生活を行う | 43.4 |
| 3 どちらかといえば、不便でも心豊かな生活を行う | 33.2 |
| 4 不便でも心豊かな生活を行う | 4.4 |

-

Q 3 . あなたは、今後、日本はどのような社会を目指すのがよいと思いますか。
次の中から特にあてはまるものをいくつでも選んでください。

N=500

| | | |
|----|----------------------------|-------|
| 1 | 政府・自治体の政策決定に国民の声が十分取り入れられる | 66.4% |
| 2 | 安定した雇用がある | 64.6 |
| 3 | 表現の自由がある | 29.6 |
| 4 | 国内の法と秩序が維持されている | 46.2 |
| 5 | 人々が十分平等である | 42.6 |
| 6 | 国の安全（国防）が確保されている | 55.2 |
| 7 | 自然や環境をお金よりも大切にする | 48.6 |
| 8 | 人々が心やさしく、人情があつい | 59.2 |
| 9 | 情報公開が積極的に進められ、知る権利が守られている | 37.0 |
| 10 | 災害や事故や犯罪が少ない | 69.2 |
| 11 | 個人の自由が尊ばれている | 31.8 |
| 12 | 老人・障害者等にやさしい | 61.6 |
| 13 | 道徳や責任が守られている | 57.6 |
| 14 | 豊かな暮らしができる | 43.4 |
| 15 | 礼儀や規律が尊ばれている | 45.8 |
| 16 | この中にはない・特にない | 0.6 |

Q 4 . あなたは、どのような問題や事柄に関心がありますか。

次の中から特に関心があるものをいくつでも選んでください。

N=500

| | | | | | |
|---|---------|-------|----|---------------|------|
| 1 | 国内の政治問題 | 41.4% | 9 | 科学技術 | 12.6 |
| 2 | 経済や景気動向 | 52.4 | 10 | 犯罪やテロなどの治安問題 | 49.8 |
| 3 | 少子高齢化問題 | 44.6 | 11 | 雇用や労働環境 | 42.2 |
| 4 | エネルギー問題 | 42.6 | 12 | 文化や流行 | 19.6 |
| 5 | 原子力発電問題 | 24.8 | 13 | 外交・防衛 | 17.4 |
| 6 | 環境問題 | 64.2 | 14 | 健康や医療 | 56.8 |
| 7 | 国際情勢 | 21.2 | 15 | スポーツや芸能・娯楽・趣味 | 37.8 |
| 8 | 教育問題 | 47.4 | 16 | この中にはない・特にない | 1.0 |

Q 5 . あなたは、関心のある問題や事柄について、新聞やテレビ、雑誌、インターネットなどでニュースや報道をよく見ますか。次の中から1つだけ選んでください。

N=500

| | | |
|---|-------------|-------|
| 1 | よく見る | 42.0% |
| 2 | どちらかといえば見る | 47.0 |
| 3 | どちらかといえば見ない | 9.2 |
| 4 | めったに見ない | 1.8 |

Q 6 . あなたは、関心のある問題や事柄について、主に何を情報源としていますか。また、どの情報源を信用していますか。

a、b それぞれについて、あてはまるものをいくつでも選んでください。 N=500

| a. 主な情報源 | | b. 信用している情報源 | |
|-----------|-------|--------------|-------|
| 1 テレビ | 93.0% | 1 テレビ | 54.2% |
| 2 新聞 | 71.2 | 2 新聞 | 61.4 |
| 3 書籍・雑誌 | 25.0 | 3 書籍・雑誌 | 13.4 |
| 4 インターネット | 38.8 | 4 インターネット | 17.8 |
| 5 家族、知人 | 25.2 | 5 家族、知人 | 14.4 |
| 6 その他 | 4.0 | 6 その他 | 2.8 |
| 7 特になし | 0.6 | 7 特になし | 16.2 |

Q 7 . あなたが、ふだんの生活の中で不安を感じることはどのようなことですか。

次の中から特に不安を感じるものをいくつでも選んでください。 N=500

| | | | |
|--------------------|-------|--------------------|------|
| 1 交通事故 | 39.6% | 13 道德意識の減退 | 45.0 |
| 2 火災 | 28.2 | 14 失業 | 20.4 |
| 3 地震・台風などの自然災害 | 60.2 | 15 老後・高齢化・介護問題 | 57.8 |
| 4 強盗や殺人などの犯罪 | 51.0 | 16 教育の荒廃 | 31.6 |
| 5 食品添加物や食品汚染 | 46.6 | 17 税金 | 47.4 |
| 6 原子力発電の事故 | 26.4 | 18 エネルギー危機 | 28.0 |
| 7 水や空気の汚染 | 42.0 | 19 不景気 | 29.4 |
| 8 地球温暖化など地球規模の環境破壊 | 61.2 | 20 青少年犯罪 | 33.4 |
| 9 癌（がん） | 35.0 | 21 経済や金融の崩壊 | 20.8 |
| 10 物価高 | 36.2 | 22 遺伝子組み替え食品やバイオ技術 | 16.4 |
| 11 戦争 | 19.6 | 23 この中にはない・特になし | 1.0 |
| 12 テロ | 26.0 | | |

Q 8 . 下記の施設のうち、あなたの住まいの近くに作られることを受け入れられないものはどれですか。次の中から絶対に受け入れられないと感じるものをいくつでも選んでください。 N=500

| | | | |
|----------------|-------|-----------------|------|
| 1 ゴルフ場 | 18.6% | 10 ガスタンク | 54.6 |
| 2 火力発電所 | 32.0 | 11 遺伝子工学の研究施設 | 23.6 |
| 3 風力発電施設 | 19.4 | 12 難病の専門病院 | 15.8 |
| 4 原子力発電所 | 68.6 | 13 飛行場・ヘリポート | 48.2 |
| 5 放射性廃棄物処理処分施設 | 84.6 | 14 高層ビル | 33.0 |
| 6 高圧送電線 | 40.6 | 15 ゴミ焼却場 | 55.2 |
| 7 化学工場 | 59.6 | 16 火葬場 | 53.4 |
| 8 高速道路 | 35.0 | 17 刑務所 | 58.4 |
| 9 産業廃棄物の処理施設 | 70.4 | 18 この中にはない・特になし | 3.2 |

Q9 . あなたは、住まいの近くに、受け入れたくない施設の建設計画が持ち上がった時、受け入れられるか否かの判断のために、どのようなことを重視しますか。

次の中から特に重視するものをいくつでも選んでください。

N=500

| | | |
|----|--------------------------------|-------|
| 1 | 公共性が高く、どこかには建設しなければならないと思うこと | 38.4% |
| 2 | 将来、事故や公害はまず起きないと納得できること | 69.4 |
| 3 | 自分自身の収入・資産にマイナスの影響がないこと | 23.0 |
| 4 | 地域振興に役立つ十分な開発計画や補助金・交付金があること | 20.6 |
| 5 | 施設設置の決定手続きが民主的で正当であること | 34.0 |
| 6 | 地域住民の意見が賛成多数であること | 40.8 |
| 7 | 住民への説明が十分であること | 69.8 |
| 8 | 情報の公開が十分であること | 68.2 |
| 9 | 首長の了解や市町村議会の受け入れの採決があること | 11.2 |
| 10 | 過去に、同種の施設で事故や公害が起きていないこと | 46.4 |
| 11 | 他の候補地に比べ、この場所が最善であるとの説明に納得すること | 30.2 |
| 12 | 住民参加の協議がなされていること | 46.4 |
| 13 | 建設側の対応に誠意が感じられること | 40.8 |
| 14 | 事故や公害に対する十分な保障の取り決めがあること | 62.8 |
| 15 | この中にはない・特にない | 2.0 |

【ここからは、エネルギーの問題についてご質問いたします】

Q10 . あなたは、エネルギーの問題について関心がありますか、関心がありませんか。

次の中から1つだけ選んでください。

N=500

| | | |
|---|---------------|-------|
| 1 | 関心がある | 30.6% |
| 2 | どちらかといえば関心がある | 45.2 |
| 3 | どちらかといえば関心がない | 19.2 |
| 4 | 関心がない | 5.0 |

Q11 . あなたは、現在の日本では、地球温暖化などの環境問題に対して、熱心に取り組んでいると思いますか、熱心に取り組んでいないと思いますか。

次の中から1つだけ選んでください。

N=500

| | | |
|---|------------------------|------|
| 1 | 熱心に取り組んでいると思う | 6.2% |
| 2 | どちらかといえば熱心に取り組んでいると思う | 25.2 |
| 3 | どちらともいえない | 44.0 |
| 4 | どちらかといえば熱心に取り組んでいないと思う | 18.8 |
| 5 | 熱心に取り組んでいないと思う | 5.8 |

Q12. あなたは、現在の日本では、「新エネルギー（太陽光、風力、地熱など）」の利用に対して、熱心に取り組んでいると思いますか、熱心に取り組んでいないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | | |
|---|------------------------|------|
| 1 | 熱心に取り組んでいると思う | 5.2% |
| 2 | どちらかといえば熱心に取り組んでいると思う | 21.8 |
| 3 | どちらともいえない | 38.6 |
| 4 | どちらかといえば熱心に取り組んでいないと思う | 25.6 |
| 5 | 熱心に取り組んでいないと思う | 8.8 |

Q13. あなたは、今後の日本では、国全体のエネルギー使用量は増えると思いますか、減ると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | | |
|---|----------------|-------|
| 1 | 増えると思う | 47.0% |
| 2 | どちらかといえば増えると思う | 34.0 |
| 3 | どちらともいえない | 11.2 |
| 4 | どちらかといえば減ると思う | 5.8 |
| 5 | 減ると思う | 2.0 |

Q14. あなたは、今後の日本では、必要なエネルギーを十分に確保できるかどうかというエネルギー供給の問題について、不安を感じますか、感じませんか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | | |
|---|-----------------|-------|
| 1 | 不安を感じる | 41.0% |
| 2 | どちらかといえば不安を感じる | 41.0 |
| 3 | どちらともいえない | 13.6 |
| 4 | どちらかといえば不安を感じない | 3.6 |
| 5 | 不安を感じない | 0.8 |

Q15. あなたは、今後の日本では、エネルギーや環境の問題に取り組むために、生活の便利さが制限されてもよいと思いますか、そうは思いませんか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | | |
|---|------------------------|-------|
| 1 | 制限されてもよいと思う | 21.8% |
| 2 | どちらかといえば制限されてもよいと思う | 37.8 |
| 3 | どちらともいえない | 25.6 |
| 4 | どちらかといえば制限されてもよいとは思わない | 10.4 |
| 5 | 制限されてもよいとは思わない | 4.4 |

Q16. あなたは、20年後の石油の値段は、今と比べて高くなっていると思いますか、安くなっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | | |
|---|-----------------|-------|
| 1 | 非常に高くなっていると思う | 44.4% |
| 2 | ある程度は高くなっていると思う | 41.6 |
| 3 | 現状程度だと思う | 5.4 |
| 4 | ある程度は安くなっていると思う | 3.0 |
| 5 | 非常に安くなっていると思う | 1.0 |
| 6 | わからない | 4.6 |

Q17. あなたは、20年後の日本では、熱心に取り組めば、必要な石油を十分に確保できると思いますか、確保できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|---------------------|------|
| 1 確保できると思う | 3.8% |
| 2 どちらかといえば確保できると思う | 15.8 |
| 3 どちらともいえない | 36.2 |
| 4 どちらかといえば確保できないと思う | 28.2 |
| 5 確保できないと思う | 16.0 |

Q18. あなたは、20年後の日本では、熱心に取り組めば、「新エネルギー（太陽光、風力、地熱など）」を主要なエネルギー源にすることができると思いますか、できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|-------------------|-------|
| 1 できると思う | 33.0% |
| 2 どちらかといえばできると思う | 38.0 |
| 3 どちらともいえない | 20.0 |
| 4 どちらかといえばできないと思う | 7.4 |
| 5 できないと思う | 1.6 |

Q19. あなたは、20年後の日本では、熱心に取り組めば、地球温暖化の原因の一つといわれている二酸化炭素の排出量を大幅に下げることができると思いますか、できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|-------------------|-------|
| 1 できると思う | 22.0% |
| 2 どちらかといえばできると思う | 37.6 |
| 3 どちらともいえない | 25.0 |
| 4 どちらかといえばできないと思う | 11.4 |
| 5 できないと思う | 4.0 |

Q20. あなたは、今後の日本では、エネルギーや環境の問題に対して、どのような対応をとるのが最も効果的だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|---------------------------|-------|
| 1 科学技術の進歩や発展により解決する | 32.0% |
| 2 法律や規則により国民生活や企業活動を規制する | 25.2 |
| 3 新たな税金を導入して国民や企業の取り組みを促す | 7.0 |
| 4 一人一人の国民が自主的に取り組む | 32.6 |
| 5 その他（具体的に：) | 1.8 |
| 6 特に必要ない | 1.4 |

Q21. あなたは、エネルギーや環境問題に対して、個人で出来ることに積極的に取り組んでいますか、取り組んでいませんか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|---------------|------|
| 1 積極的に取り組んでいる | 7.8% |
| 2 ある程度取り組んでいる | 54.2 |
| 3 あまり取り組んでいない | 33.2 |
| 4 全く取り組んでいない | 4.8 |

【ここからは、原子力発電についてご質問いたします】

Q22 . あなたは、原子力発電について関心がありますか、関心がありませんか。

次の中から 1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|-----------------|-------|
| 1 関心がある | 23.2% |
| 2 どちらかといえば関心がある | 37.4 |
| 3 どちらかといえば関心がない | 29.6 |
| 4 関心がない | 9.8 |

Q23 . あなたは、日本は今後も原子力発電の利用を続けるべきだと思いますか、やめるべきだと思いますか。次の中から 1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|----------------------|-------|
| 1 新設や増設をしながら続けるべきである | 10.0% |
| 2 現状程度のまま続けるべきである | 33.6 |
| 3 どちらともいえない | 36.6 |
| 4 徐々にやめていくべきである | 18.6 |
| 5 すぐにやめるべきである | 1.2 |

Q24 . あなたは、原子力発電は、今日の社会や人々の生活にとって有用だと思いますか、無用だと思いますか。次の中から 1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|-----------------|-------|
| 1 有用である | 23.4% |
| 2 どちらかといえば有用である | 36.0 |
| 3 どちらともいえない | 31.8 |
| 4 どちらかといえば無用である | 6.0 |
| 5 無用である | 2.8 |

Q25 . あなたは、原子力発電の安全性については、安心して 있습니까、不安ですか。

次の中から 1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|------------------|------|
| 1 安心している | 1.8% |
| 2 どちらかといえば安心している | 14.8 |
| 3 どちらともいえない | 20.6 |
| 4 どちらかといえば不安である | 41.8 |
| 5 不安である | 21.0 |

Q26 . あなたは、原子力発電について、技術や管理を十分にして人間や環境に悪い影響を与えないように制御をすることが可能だと思いますか、不可能だと思いますか。

次の中から 1つだけ選んでください。

N=500

| | |
|------------------|-------|
| 1 可能である | 14.0% |
| 2 どちらかといえば可能である | 27.0 |
| 3 どちらともいえない | 31.6 |
| 4 どちらかといえば不可能である | 17.6 |
| 5 不可能である | 9.8 |

Q27. あなたは、日本の原子力発電所は適切に運営されていると思いますか、されていないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|-----------------------|------|
| 1 適切に運営されている | 2.8% |
| 2 どちらかといえば適切に運営されている | 28.0 |
| 3 どちらともいえない | 41.2 |
| 4 どちらかといえば適切に運営されていない | 20.2 |
| 5 適切に運営されていない | 7.8 |

Q28. あなたは、原子力発電に関する情報は、公開されていると思いますか、公開されていないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|--------------------|------|
| 1 公開されている | 2.2% |
| 2 どちらかといえば公開されている | 7.8 |
| 3 どちらともいえない | 25.8 |
| 4 どちらかといえば公開されていない | 43.0 |
| 5 公開されていない | 21.2 |

Q29. あなたは、今後日本は原子力発電によって生み出される放射性廃棄物の処理・処分を適切に行うことができると思いますか、できないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|------------------------|------|
| 1 適切に行うことができる | 3.6% |
| 2 どちらかといえば適切に行うことができる | 20.6 |
| 3 どちらともいえない | 37.0 |
| 4 どちらかといえば適切に行うことはできない | 25.0 |
| 5 適切に行うことはできない | 13.8 |

Q30. あなたは、日本の原子力発電は発電コストの安定化や低価格化に貢献していると思いますか、貢献していないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|-------------------|-------|
| 1 貢献している | 14.2% |
| 2 どちらかといえば貢献している | 33.2 |
| 3 どちらともいえない | 41.8 |
| 4 どちらかといえば貢献していない | 5.6 |
| 5 貢献していない | 5.2 |

Q31. あなたは、日本の原子力発電はエネルギーの安定供給に貢献していると思いますか、貢献していないと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|-------------------|-------|
| 1 貢献している | 21.4% |
| 2 どちらかといえば貢献している | 43.0 |
| 3 どちらともいえない | 29.0 |
| 4 どちらかといえば貢献していない | 4.2 |
| 5 貢献していない | 2.4 |

Q32. あなたは、日本の原子力発電は、温室効果ガスである二酸化炭素の排出削減など、環境問題の解決に貢献していると思いますか、貢献していないと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|-------------------|------|
| 1 貢献している | 9.8% |
| 2 どちらかといえば貢献している | 28.0 |
| 3 どちらともいえない | 49.6 |
| 4 どちらかといえば貢献していない | 9.4 |
| 5 貢献していない | 3.2 |

Q33. あなたは、日本の原子力発電関係の技術水準（研究、設計、製造、運転、保守など）は総合的にみて、世界の中でどの程度のレベルだと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|-----------------|-------|
| 1 トップレベルだと思う | 10.6% |
| 2 平均より上のレベルだと思う | 32.4 |
| 3 平均的レベルだと思う | 33.6 |
| 4 平均より下のレベルだと思う | 11.8 |
| 5 最低レベルだと思う | 1.4 |
| 6 わからない | 10.2 |

Q34. あなたは、日本の原子力発電施設で、今後100年以内に起こりうる事故といえばどの程度の事故だとイメージしますか。次の中から1つだけ選んでください。 N=500

| | |
|-----------------------------------|------|
| 1 死亡又はそれに相当するような事故はまず起こりえない | 5.0% |
| 2 数人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う | 16.8 |
| 3 数十人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う | 18.0 |
| 4 数百人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う | 11.8 |
| 5 数千人程度の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う | 8.0 |
| 6 数万人以上の死亡又はそれに相当するような事故が起こりうると思う | 9.8 |
| 7 わからない | 30.6 |

Q35. あなたは、原子力発電関連の情報などについて、主に何を情報源としていますか。また、あなたはどの情報源を信用していますか。
a、bそれぞれについて、あてはまるものをいくつでも選んでください。 N=500

a. 主な情報源

b. 信用している情報源

| | | | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 1 テレビ | 88.8% | 1 テレビ | 60.2% |
| 2 新聞 | 69.8 | 2 新聞 | 58.8 |
| 3 書籍・雑誌 | 16.2 | 3 書籍・雑誌 | 9.2 |
| 4 インターネット | 22.8 | 4 インターネット | 11.4 |
| 5 家族、知人 | 12.6 | 5 家族、知人 | 7.8 |
| 6 その他 | 2.4 | 6 その他 | 1.8 |
| 7 特になし | 3.8 | 7 特になし | 18.4 |

【ここからは、今年の夏（7月16日）に発生した新潟県中越沖地震によって震源近くの柏崎刈羽原子力発電所の一部が損傷し、7基の原子炉が全て停止したことについて、ご質問いたします】

Q36. あなたは、今回の事態に関してどの程度ご存じですか。次の中から1つだけ選んでください。
N=500

| | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 知っている | 51.4% |
| 2 | 少しは知っている | 38.2 |
| 3 | あまり知らない | 8.6 |
| 4 | 知らない | 1.8 |

Q37. あなたは、今回の事態に、どの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。
N=500

| | | |
|---|-----------|-------|
| 1 | 関心がある | 36.8% |
| 2 | ある程度関心がある | 47.0 |
| 3 | あまり関心がない | 14.8 |
| 4 | 関心がない | 1.4 |

Q38. 今回の事態により、あなたが抱いた印象や考えなどについて、次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。
N=500

| | | |
|----|--|-------|
| 1 | 原子力発電所に対する不安が増した | 58.4% |
| 2 | 大きな地震でも安全を維持することができたので、原子力発電所に対する安心感が増した | 9.4 |
| 3 | 安全管理・危機管理がしっかりしていれば多くのトラブルは防げたと思う | 48.6 |
| 4 | 放射線・放射性物質の放出がほとんどなかったのが救いだと思う | 43.4 |
| 5 | 放射線・放射性物質の大放出につながりかねない重大な事態だったと思う | 47.2 |
| 6 | いつか地震による放射線・放射性物質の大放出事故が起こると思う | 42.2 |
| 7 | 想定以上の地震が起きたので、安全基準に問題がある事が証明された | 39.0 |
| 8 | 想定以上の地震が起きても、十分安全を維持できたのは評価できる | 7.6 |
| 9 | 電力会社の地震後の対応は良くないと思う | 35.6 |
| 10 | 政府の地震後の対応は良くないと思う | 24.0 |
| 11 | マスコミの地震後の報道姿勢は良くないと思う | 10.8 |
| 12 | 柏崎刈羽原子力発電所は活断層の上にあるので、危険だと思う | 38.0 |
| 13 | 何かあると一度に多数の発電所が停止するので、原子力発電に頼りすぎるのは良くないと思う | 44.2 |
| 14 | 柏崎刈羽原子力発電所は、操業を再開すべきではないと思う | 12.4 |
| 15 | 首都圏における夏期の電力不足を心配した | 29.8 |
| 16 | その他（具体的に：) | 2.8 |
| 17 | 特にない | 2.6 |

Q39 . あなたは、今回の事態について何かで見たり聞いたりしましたか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 N=500

| | | |
|---|-------------|-------|
| 1 | テレビ | 93.8% |
| 2 | 新聞 | 69.0 |
| 3 | 書籍・雑誌 | 9.6 |
| 4 | インターネット | 16.8 |
| 5 | 家族や知人 | 7.8 |
| 6 | その他（具体的に：) | 1.2 |
| 7 | 特になにもしなかった | 3.0 |

(Q40 - 1 ~ Q40 - 2 は、「 4 インターネット」を選んだ方にお聞きします)

Q40 - 1 . あなたは、今回の事態の内容について、インターネットで知りたいことが十分に入手できましたか。次の中から 1つだけ選んでください。 N=84

| | | |
|---|-------------|------|
| 1 | 入手できた | 7.1% |
| 2 | ある程度入手できた | 71.4 |
| 3 | あまり入手できなかった | 17.9 |
| 4 | 入手できなかった | 3.6 |

Q40 - 2 . あなたが、この事態に関する情報を見るためにアクセスしたウェブサイト（ホームページ）をいくつでも選んでください。 N=84

| | | |
|----|--------------------|------|
| 1 | 原子力委員会のサイト | 3.6% |
| 2 | 原子力安全委員会のサイト | 7.1 |
| 3 | 原子力学会のサイト | - |
| 4 | 資源エネルギー庁のサイト | 11.9 |
| 5 | 原子力安全・保安院のサイト | 4.8 |
| 6 | 東京電力のサイト | 40.5 |
| 7 | マスコミ・報道関係のサイト | 57.1 |
| 8 | 反原子力発電のサイト | 7.1 |
| 9 | 掲示板サイト（ 2ちゃんねる など） | 14.3 |
| 10 | Yahoo などのポータルサイト | 56.0 |
| 11 | その他（具体的に：) | 1.2 |

< 全員の方に >

【最後に、あなたご自身のことについておうかがいします】

(調査結果を統計的にとりまとめるため、以下の質問にもお答えください)

F 1 . あなたの性別をお聞かせください。 N=500

| | | |
|---|----|-------|
| 1 | 男性 | 50.0% |
| 2 | 女性 | 50.0 |

F 2 . あなたの年齢を次の中からお聞かせください。 N=500

| | | |
|---|-----------|-------|
| 1 | 20 ~ 29 歳 | 21.0% |
| 2 | 30 ~ 39 歳 | 20.0 |
| 3 | 40 ~ 49 歳 | 16.0 |
| 4 | 50 ~ 59 歳 | 18.0 |
| 5 | 60 ~ 69 歳 | 14.0 |
| 6 | 70 歳以上 | 11.0 |

F 3 . あなたの今の職業をお聞かせください。お勤めですか。それとも何かご自分で商売や事業をなさっていますか。次の中から 1つだけ 選んでください。 N=500

| | | |
|---|----------------|-------|
| 1 | 自営業主 | 14.6% |
| 2 | 家族従業 (家業手伝い) | 2.6 |
| 3 | 勤め (全日) | 37.4 |
| 4 | パートタイム・アルバイト | 14.8 |
| 5 | 専業主婦 | 17.4 |
| 6 | 学生 | 2.6 |
| 7 | 無職 | 10.2 |
| 8 | その他 (具体的に :) | 0.4 |

エネルギーについて、ご意見がありましたら、お聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご回答もれがないかをお確かめの上、回収にお伺いする調査員にお渡しください。